

下元屋敷遺跡

(一)境大間々線地方特定道路整備事業(早川調整池)
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

群馬県伊勢崎土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第362集 下元屋敷遺跡 正誤表

頁	誤	正
図版目次 右段6行目	第6図 下元屋敷遺跡と周辺の遺跡	第6図 下元屋敷遺跡と周辺の遺跡(国土地理院2万5千分の1「伊勢崎」「上野境」「大胡」「桐生」使用)
写真図版(PL)目次 中段4行目	26号土坑遺物出土状態(北より)	26号土坑遺物出土状態(東より)
9頁	第6図 下元屋敷遺跡と周辺の遺跡	第6図 下元屋敷遺跡と周辺の遺跡(国土地理院2万5千分の1「伊勢崎」「上野境」「大胡」「桐生」使用)
15頁 第12図 土層注記2行目	焼土粒を1%程度含む	焼土粒を微量含む
41頁 13行目	底面に焼土ブロックが多数分布する。	底面に焼土・炭化物ブロックが多数分布する。
43頁 25行目	団石としても使用か。	(削除)
80頁 18行目	2層、炭化物層は土層断面にかからない。	2層。
101頁 7号竪穴住居跡出土石 器計測表 40—備考欄	側面削加工	側面に敲打痕

下元屋敷遺跡

(一)境大間々線地方特定道路整備事業(早川調整池)
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

群馬県伊勢崎土木事務所
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

下元屋敷遺跡は、伊勢崎市田部井町に所在し、(一) 境大間々線地方特定道路整備事業（早川調整池）に伴い平成16年度に群馬県伊勢崎土木事務所から委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施しました。発掘調査に引き続き、整理作業は平成17年度に行い、本報告書が刊行されることとなりました。

本遺跡は大間々扇状地Ⅰ面（桐原面）に立地し、発掘調査の結果、縄文時代中期後半から後期前半にかけての集落遺跡であることが確認されました。隣接する根性坊遺跡、早川対岸の下田遺跡とはほぼ同時期の遺跡です。早川流域で営まれた縄文時代の人々の生活を知ることや、当地域の歴史を究明する上でも貴重な遺跡であると思います。

本報告書の刊行に至るまでには、群馬県伊勢崎土木事務所、群馬県教育委員会、伊勢崎市教育委員会、旧佐波郡東村教育委員会、諸機関並びに関係者の皆様に大変な尽力を賜りました。心から感謝申し上げるとともに、本報告書が広く活用されることを祈念し、序とします。

平成17年11月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 高橋 勇夫

例 言

1本書は、(一)境大間々線地方特定道路整備事業(早川調整池)に伴う下元屋敷遺跡の発掘調査報告書である。

2遺跡は、群馬県伊勢崎市田部井町二丁目(旧佐波郡東村田部井)399-2、3、4、10、400-1他に所在する。

3事業主体 群馬県伊勢崎土木事務所

4調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

5調査契約期間 平成16年4月1日～9月30日(調査期間 平成16年4月1日～7月31日)

6調査組織

事務担当 小野宇三郎、住谷永市、神保信史、平野進一、真下高幸、井川達雄、笠原秀樹、今泉大作、柳岡良宏、清水秀紀、中澤恵子、金子三枝子

調査担当 井川(齋藤)利子、田村 博

7整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

8整理契約期間 平成17年4月1日～平成18年3月31日(整理期間 平成17年4月1日～11月30日)

9整理組織

事務担当 小野宇三郎、高橋勇夫、木村裕紀、津金澤吉茂、矢崎俊夫、中東耕志、相京建史、宮前結城雄、竹内 宏、須田朋子、今泉大作、栗原幸代、石井 清、吉田有光、清水秀紀、佐藤聖行、内山佳子、本間久美子、北原おおり、狩野真子、佐藤美佐子、今井もと子、若田 誠、武藤秀典

整理担当 田村 博(平成17年度4月1日～10月31日)

高島英之(平成17年度11月1日～11月30日)

整理補助 萩原鈴代、豊田澄子、鷺尾房江、広瀬綾子、丹羽 悠、長岡久幸

機械実測 酒井史恵、廣津真希子、友廣裕子

保存処理 関 邦一、土橋まり子、小村浩一、津久井桂一、森田智子

遺物写真撮影 佐藤元彦

10本報告書作成担当

編集・執筆 田村 博

石材鑑定 飯島静男(群馬県地質研究会)

11出土遺物および写真・図面等記録類は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

12発掘調査及び報告書作成にあたっては、下記の諸氏・諸機関にご教示・ご協力いただいた。

記して感謝の意を表す次第である。

小島通悦、横山 巧、石塚久則、總貫邦男、関根慎二、大西雅弘、新倉明彦、春山秀幸、関口博幸、伊勢崎市教育委員会、旧佐波郡東村教育委員会

凡 例

1 遺構名称

本報告書に用いた遺構名称は、発掘調査時の遺構名称を踏襲した。

2 主軸と方位

本報告書の遺構図・全体図に記された方位は、真北を示し、主軸角度等の計算にもこれを用いた。

3 遺構図版縮尺

本報告書の遺構図版縮尺は以下の通り。ただし、遺構によってはこの限りではない。

竪穴住居跡 1/60、炉・埋塞 1/30、竪穴状遺構・土坑・ピット 1/40、溝 1/80

4 遺物図版縮尺

本報告書の遺物図版縮尺は以下の通り。ただし、遺物によってはこの限りではない。

土器 1/3、石器（石鏃以外）・石製品 1/3、石器（石鏃）1/1、銭貨 1/1

5 遺構図及び遺物図中のスクリーントーン表現

本報告書のスクリーントーン表現は以下の通り。



6 遺構図及び遺物図中の略称

本報告書における遺構・遺物の略称は以下の通り。

住…竪穴住居跡、竪…竪穴状遺構、炉…炉、溝…溝、竈…炭窯、土…土坑、ピ…ピット
例) 3住1炉=3号竪穴住居跡1号炉

7 遺構平面図中の座標値

本報告書中の遺構平面図の位置は、国家座標軸第IX系を用い、座標値の下3桁を「X軸-Y軸」の順で記し、「006-021」のように表記した。詳細は第1章第3節を参照。

8 遺構断面図中の標高値

本報告書中の遺構断面図の標高値は、原則として断面図下にL=○○mと記した。

9 色調

本報告書における土層断面図及び遺構観察表に記した色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』によった。

10 テフラ（火山噴出物）

本報告書におけるテフラ（火山噴出物）の略号は以下の通り（テフラの名称は町田洋・新井房夫1992『火山灰アトラス』東京大学出版会による）。

As-YP…浅間板鼻黄色、As-Ok1…浅間大窪沢1、As-Ok2…浅間大窪沢2、As-BP…浅間板鼻褐色、AT…始良Tn、Hr-HP…榛名八峰火山灰

目 次

序

例 言

凡 例

目 次

図版・表・写真図版目次

第1章 発掘調査の経過	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	1
第3節 グリッドの設定	2
第4節 基本土層	2
第2章 周辺の環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 検出された遺構と遺物	11
第1節 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 竪穴住居跡	11
(2) 竪穴状遺構	34
(3) 炉	38
(4) 土坑・ピット	40
第2節 中近世の遺構と遺物	74
(1) 溝	74
(2) 炭窯	76
(3) 土坑・ピット	78
第3節 遺構外出土遺物	86
(1) 縄文時代の遺物	86
(2) 中近世の遺物	92
遺物計測表	93
第4章 まとめ	103
第1節 縄文時代	103
第2節 中近世	105

報告書抄録

写真図版 (PL)

図版目次

第1図 下元屋敷遺跡位置(国土地理院2万5千分の1「伊勢崎」 「上野城」[大胡]「柳生」使用)……………1	第44図 3号壑穴状遺構出土遺物(2)……………38
第2図 下元屋敷遺跡詳細位置(東村役場1万分の1「東村全図」 使用)……………3	第45図 1号伊平面・断面……………39
第3図 グリッドおよび目録器トレンチ配置……………4	第46図 1号伊出土遺物……………39
第4図 基本土層(1)……………5	第47図 2号伊平面・断面……………40
第5図 基本土層(2)……………6	第48図 2号伊出土遺物……………40
第6図 下元屋敷遺跡と周辺道路……………9	第49図 3・4号土坑平面・断面……………48
第7図 1号壑穴住居跡伊平面・断面……………11	第50図 5・6・7・13・15号土坑平面・断面……………49
第8図 1号壑穴住居跡伊平面・断面……………12	第51図 16・24～26号土坑平面・断面……………50
第9図 1号壑穴住居跡出土遺物……………13	第52図 27・29・30号土坑平面・断面……………51
第10図 2・3号壑穴住居跡伊平面・断面(1)……………14	第53図 31～34・36・38・39号土坑平面・断面……………52
第11図 2・3号壑穴住居跡伊断面(2)……………15	第54図 40～48号土坑平面・断面……………53
第12図 2・3号壑穴住居跡伊平面・断面……………15	第55図 49～52号土坑平面・断面……………54
第13図 2・3号壑穴住居跡出土遺物……………15	第56図 53～57号土坑平面・断面……………55
第14図 4・5号壑穴住居跡伊平面・断面(1)……………16	第57図 58～62・68・70号土坑平面・断面……………56
第15図 4・5号壑穴住居跡伊断面(2)……………17	第58図 71～75号土坑平面・断面……………57
第16図 5号壑穴住居跡出土遺物……………17	第59図 3・6・16・25号土坑出土遺物……………58
第17図 6・7号壑穴住居跡伊平面および断面(1)……………18	第60図 26・27・29・30号土坑出土遺物……………59
第18図 6・7号壑穴住居跡伊断面(2)……………19	第61図 30・34・38・44・47・51号土坑出土遺物……………60
第19図 6号壑穴住居跡出土遺物……………20	第62図 52・53・56号土坑出土遺物……………61
第20図 7号壑穴住居跡出土遺物(1)……………21	第63図 56～58・61・68・71・75号土坑出土遺物……………62
第21図 7号壑穴住居跡出土遺物(2)……………22	第64図 70号土坑出土遺物……………63
第22図 8号壑穴住居跡伊平面・断面……………23	第65図 16～29号ビット平面・断面および出土遺物……………70
第23図 8号壑穴住居跡伊平面・断面……………23	第66図 30～42号ビット平面・断面……………71
第24図 9号壑穴住居跡伊平面・断面……………24	第67図 43～49・51～56号ビット平面・断面および出土遺物……………72
第25図 9号壑穴住居跡伊平面・断面……………25	第68図 56～65・69・70号ビット平面・断面……………73
第26図 9号壑穴住居跡出土遺物(1)……………25	第69図 1号溝平面・断面(1)……………74
第27図 9号壑穴住居跡出土遺物(2)……………26	第70図 1号溝平面・断面(2)……………75
第28図 10号壑穴住居跡伊平面・断面……………27	第71図 1号溝出土遺物……………76
第29図 10号壑穴住居跡伊平面・断面……………27	第72図 1号炭床平面・断面(1)……………76
第30図 10号壑穴住居跡内配石遺構伊平面・断面……………27	第73図 1号炭床断面(2)……………77
第31図 10号壑穴住居跡出土遺物(1)……………28	第74図 1号炭床出土遺物……………77
第32図 10号壑穴住居跡出土遺物(2)……………29	第75図 1・2・8号土坑平面・断面……………80
第33図 10号壑穴住居跡出土遺物(3)……………30	第76図 9～12・14・17・19～21号土坑平面・断面……………81
第34図 10号壑穴住居跡出土遺物(4)……………31	第77図 22・23・28・35・37号土坑平面・断面……………82
第35図 11号壑穴住居跡伊平面・断面(1)……………32	第78図 1～3・5号ビット平面・断面……………84
第36図 11号壑穴住居跡伊・埋炭平面・断面……………33	第79図 6～15号ビット平面・断面……………85
第37図 11号壑穴住居跡出土遺物……………33	第80図 遺構外出土遺物(1)……………87
第38図 1号壑穴状遺構伊平面・断面……………34	第81図 遺構外出土遺物(2)……………88
第39図 1号壑穴状遺構出土遺物……………35	第82図 遺構外出土遺物(3)……………89
第40図 2号壑穴状遺構伊平面・断面……………36	第83図 遺構外出土遺物(4)……………90
第41図 2号壑穴状遺構出土遺物……………36	第84図 遺構外出土遺物(5)……………90
第42図 3号壑穴状遺構出土遺物(1)……………37	第85図 遺構外出土遺物(6)……………91
第43図 3号壑穴状遺構伊平面・断面……………38	第86図 遺構外出土遺物(7)……………92
	第87図 遺構外出土遺物(8)……………92
	第88図 下元屋敷遺跡と根性坊遺跡の位置関係……………103

表目次

第1表 下元屋敷遺跡周辺遺跡一覧……………10	第3表 中近世遺構一覧……………105
第2表 縄文時代遺構一覧……………104	

写真図版(PL.) 目次

PL. 1	下元屋敷遺跡全景 (上空より)	25号土坑全景 (南より)	25号ピット全景 (北より)		
PL. 2	1号竪穴住居跡全景 (東より)	25号土坑遺物出土状態 (南より)	PL. 18	27・26号ピット全景 (南より)	
	2・3号竪穴住居跡全景 (東より)	PL. 11	26号土坑全景 (南より)	29号ピット全景 (南より)	
			26号土坑遺物出土状態 (北より)	30号ピット全景 (南より)	
PL. 3	1号竪穴住居跡炉全景 (東より)		27号土坑全景 (南より)	31号ピット全景 (南より)	
	2号竪穴住居跡炉全景 (東より)		29号土坑全景 (南より)	32号ピット全景 (南より)	
	3号竪穴住居跡1号炉全景 (東より)		30号土坑全景 (南東より)	33号ピット全景 (南より)	
	3号竪穴住居跡2号炉全景 (東より)		30号土坑遺物出土状態 (南東より)	34号ピット全景 (南より)	
	4・5号竪穴住居跡全景 (東より)		31号土坑全景 (南より)	35号ピット全景 (南より)	
			32号土坑全景 (東より)	PL. 19	36号ピット全景 (南より)
PL. 4	6号竪穴住居跡全景 (南より)	PL. 12	33号土坑全景 (南より)	37号ピット全景 (南より)	
	7号竪穴住居跡全景 (南より)		34号土坑全景 (東より)	38~45号ピット全景 (南より)	
PL. 5	7号竪穴住居跡遺物出土状態 (1) (南より)		36号土坑全景 (南より)	46号ピット全景 (南より)	
	7号竪穴住居跡遺物出土状態 (2) (南より)		38号土坑全景 (南より)	47号ピット全景 (南より)	
	8号竪穴住居跡全景 (南より)		39号土坑全景 (南より)	48号ピット全景 (南より)	
	作業風景 (1)		40号土坑全景 (南より)	49号ピット全景 (南より)	
	作業風景 (2)	PL. 13	41号土坑全景 (南より)	PL. 20	51号ピット全景 (南より)
PL. 6	9号竪穴住居跡全景 (東より)		42号土坑全景 (南より)	PL. 20	52号ピット全景 (南より)
	9号竪穴住居跡炉全景 (南より)		43号土坑全景 (南より)	53号ピット全景 (南より)	
	9号竪穴住居跡伊梨方全景 (南より)		44号土坑全景 (南より)	54号ピット全景 (南より)	
	9号竪穴住居跡埋埋全景 (南より)		45号土坑全景 (南より)	57号ピット全景 (南より)	
	9号竪穴住居跡埋埋断面 (南より)		46号土坑全景 (南より)	58号ピット全景 (南より)	
PL. 7	10号竪穴住居跡全景 (東より)		47・48号土坑全景 (南より)	59号ピット全景 (南より)	
	10号竪穴住居跡伊梨方全景 (南より)		49号土坑全景 (南より)	60号ピット全景 (南より)	
	10号竪穴住居跡伊梨方断面 (南より)		50号土坑全景 (南より)	61号ピット全景 (南より)	
	10号竪穴住居跡伊梨方全景 (東より)		51号土坑全景 (南より)	PL. 21	62号ピット全景 (南より)
	10号竪穴住居跡内配石遺構全景 (南より)	PL. 14	52号土坑全景 (南より)	63号ピット全景 (南より)	
			52号土坑遺物出土状態 (南より)	64号ピット全景 (南より)	
PL. 8	11号竪穴住居跡全景 (南より)		53号土坑全景 (南より)	65号ピット全景 (北より)	
	11号竪穴住居跡埋埋全景 (南より)		54号土坑全景 (南より)	69号ピット全景 (南より)	
	1号竪穴状遺構全景 (南より)		55号土坑全景 (南より)	70号ピット全景 (南より)	
	2号竪穴状遺構全景 (東より)		56号土坑全景 (南より)	PL. 22	1号溝全景 (東より)
	3号竪穴状遺構全景 (東より)		57号土坑全景 (南より)	1号溝断面 (埋埋入口、東より)	
PL. 9	3号竪穴状遺構遺物出土状態 (東より)	PL. 15	58号土坑全景 (南より)	1号溝断面 (南より)	
	1号炉全景 (南より)		58号土坑遺物出土状態 (南より)	1号土坑全景 (南西より)	
	1号伊梨断面 (南より)		59号土坑全景 (南より)	2号土坑全景 (南東より)	
	2号炉全景 (南より)		60号土坑全景 (南より)	8号土坑全景 (南より)	
	3号土坑全景 (南より)		61号土坑全景 (南より)	9号土坑全景 (西より)	
	3号土坑遺物出土状態 (南より)		62号土坑全景 (南より)	10号土坑全景 (南西より)	
	4号土坑全景 (南より)		68号土坑全景 (南より)	PL. 23	11号土坑全景 (南西より)
	5号土坑全景 (南より)		70号土坑遺物出土状態 (1) (南より)	12号土坑全景 (南西より)	
PL. 10	6号土坑全景 (南より)		70号土坑遺物出土状態 (2) (南より)	14号土坑全景 (南西より)	
	7号土坑全景 (南より)	PL. 16	70号土坑遺物出土状態 (3) (南より)	17号土坑全景 (南より)	
	13号土坑全景 (東より)		71号土坑全景 (南より)	19号土坑全景 (南より)	
	15号土坑全景 (南より)		72号土坑全景 (南より)	20・21号土坑全景 (南より)	
	16号土坑および14・15号ピット全景 (南より)		73号土坑全景 (南より)	22号土坑全景 (南より)	
	24号土坑全景 (東より)		74号土坑全景 (南より)	23号土坑全景 (南より)	
		PL. 17	75号土坑全景 (南より)	PL. 24	28号土坑全景 (南より)
			16号ピット全景 (南より)	25号土坑全景 (南より)	
			17号ピット全景 (南より)	37号土坑全景 (南西より)	
			18~21号ピット全景 (東より)	37号土坑炭化物出土状態 (南西より)	
			22号ピット全景 (南より)	1号ピット全景 (南より)	
			23号ピット全景 (南より)	2号ピット全景 (南より)	
			24号ピット全景 (北より)	3号ピット全景 (南より)	
				5号ピット全景 (南より)	

PL 25	6号ビット全景 (南より)	52土-1	遺構外-92
	7号ビット全景 (南より)	58土-3	遺構外-93
	8号ビット全景 (南より)	61土-1	遺構外-94
	10・9号ビット全景 (南より)	PL 31 30土-7	遺構外-95
	11号ビット全景 (南より)	34土-1	遺構外-96
	12号ビット全景 (南より)	58土-2	遺構外-97
	13号ビット全景 (南より)	70土-1	遺構外-98
	作業風景 (3)	PL 32 1溝-1	遺構外-99
PL 26	1住-2	1溝-2	遺構外-100
	6住-14	1溝-3	PL 34 1号壑穴住居跡出土遺物
	7住-26	1溝-4	2・3・5号壑穴住居跡出土遺物
	7住-39	1溝-5	PL 35 6号壑穴住居跡出土遺物
	7住-40	1溝-6	7号壑穴住居跡出土遺物 (1)
	9住-1	1溝-7	PL 36 7号壑穴住居跡出土遺物 (2)
PL 27	9住-3	1溝-8	9・11号壑穴住居跡出土遺物
	9住-12	1溝-9	PL 37 10号壑穴住居跡出土遺物 (1)
	9住-16	1溝-10	10号壑穴住居跡出土遺物 (2)
	10住-17	1溝-11	PL 38 10号壑穴住居跡出土遺物 (3)
	10住-31	1溝-12	1号壑穴状遺構出土遺物 (1)
	10住-42	1溝-13	PL 39 1号壑穴状遺構 (2) および 2号壑穴状遺構
	10住-44	1溝-14	出土遺物
	10住-45	1溝-15	3号壑穴状遺構および 1・2号印出土遺物
	10住-47	1溝-16	PL 40 6・16・26号土坑出土遺物
PL 28	10住-46	1窟-1	27・29・30号土坑出土遺物
	11住-3	1窟-2	PL 41 36・38・44・47・51・52・53号土坑出土遺物
	2壑-3	PL 33 遺構外-5	56・58号土坑出土遺物
	3壑-1	遺構外-78	PL 42 68・71・75号土坑、16・51号ビット出土遺物
PL 29	3壑-5	遺構外-79	遺構外出土遺物 (1)
	1印-1	遺構外-84	PL 43 遺構外出土遺物 (2)
	1印-4	遺構外-85	遺構外出土遺物 (3)
	3土-1	遺構外-86	PL 44 遺構外出土遺物 (4)
	6土-1	遺構外-87	遺構外出土遺物 (5)
PL 30	25土-1	遺構外-88	PL 45 遺構外出土遺物 (6)
	30土-4	遺構外-89	1号溝出土遺物・遺構外出土遺物 (7)
	34土-2	遺構外-90	
	51土-2	遺構外-91	

第1章 発掘調査の経過

第1節 発掘調査に至る経緯

北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴う一般県道境大間々線整備事業において、降雨時に道路上の雨水を外部に排出するにあたり、調整池の建設が必要となった。伊勢崎市田部井町二丁目（旧佐波郡東村田部井）399-2他が建設予定地とされ、平成15年度に試掘調査が行われた。その結果、縄文時代および中近世の遺構が確認され、埋蔵文化財調査の対象地とされた。

試掘調査の結果から、調査面積は3,312㎡、調査期間は4ヶ月とされ、平成16年4月から調査担当者2名により調査が開始された。

第2節 発掘調査の経過

本遺跡の調査区（早川調整池区）は、伊勢崎市田部井町（旧佐波郡東村田部井）に所在する。本調査区の北側は本遺跡Ⅲ区（北関東自動車道調査区）に接し、南側は周知の遺跡である根性坊遺跡に接し、一部重複している。

発掘調査は、重機による表土除去後、作業員による遺構掘削作業を行い、適宜測量および写真撮影を行った。縄文～中近世面においては空中写真撮影を行った。旧石器については試掘調査を行ったが、遺物の分布は確認できなかった。以下、調査日誌抄に要点を記す。

また、発掘調査を円滑に進めるため、排土置場および発掘調査事務所用地として本調査区の南側隣接地を借地した。



第1図 下元屋敷遺跡位置(国土地理院2万5千分の1「伊勢崎」「上野境」「大胡」「桐生」使用)

調査日誌抄

- 平成16年4月1日(木)～13日(火) 発掘調査準備
平成16年4月14日(水) 表土除去作業開始
平成16年4月16日(金) 発掘調査事務所設置
平成16年4月19日(月) 縄文～中近世面発掘作業開始
平成16年4月28日(水) 表土除去作業終了、調査区方眼杭打(グリッド設定)
平成16年5月26日(水) 縄文～中近世面空中写真撮影
平成16年5月27日(木) 旧石器試掘一部開始
平成16年6月10日(木) 縄文～中近世面調査終了、旧石器試掘全面開始
平成16年7月5日(月) 埋戻作業一部開始
平成16年7月12日(月) 旧石器試掘終了、旧石器なし
平成16年7月15日(木) 埋戻作業全面開始
平成16年7月20日(火) 埋戻作業終了
平成16年7月23日(金) 発掘調査事務所撤去
平成16年7月27日(火) 発掘調査事務所用地復旧作業
平成16年7月28日(水)～31日(土) 発掘調査終了関係諸雑務

第3節 グリッドの設定

遺構・遺物出土位置等の記録については、国家座標軸第Ⅸ系を用い、測量図化した。国家座標Ⅸ系の原点は、北緯36° 00' 00"、東経39° 50' 00" (千葉県野田市)である。グリッド杭等の測量・打設は測量会社に委託した。本遺跡はX=37995～38075、Y=-51980～-52045に位置する。遺構図中の座標については、座標値の下3桁を「X軸-Y軸」の順で記し、「026-021」のように表記した。グリッドは5mグリッドとし、座標値の下3桁を「X軸-Y軸」の順で記し、「025-020G」のように表記した。

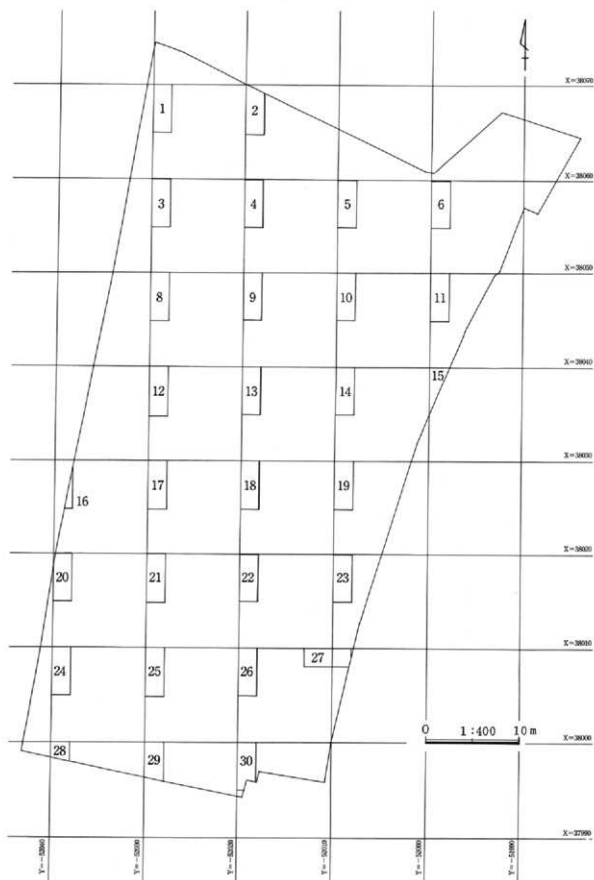
第4節 基本土層

表土以下の基本土層は第4図、第5図に記した。I層以下すべてはローム層である。縄文時代から近世に至るまでの各層は確認されず、ローム層においてもAs-YPは確認されていない。I層よりⅧ層については、東南東方向早川方面へと下る傾斜が認められ、遅くともⅧ層段階においてすでに早川による影響を受けていたことが確認された。

下元屋敷遺跡における調査着手以前の地形は、基本的には平坦地であり、東南東方向早川に向いゆるやかに傾斜していた。前述のとおり表土直下がローム層となっており、表土直下の地形は、調査着手以前の地形とは異なる様相を示していた。すなわち、調査区西半部は後世の削平が著しい平坦地であり、これに対し東半部は早川に浸食された斜面で最大で厚さ2.5mにも及ぶ盛土がなされていた。

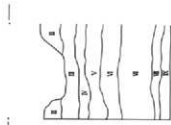


第2図 下元屋敷遺跡詳細位置 (東村役場1万分の1「東村全図」使用)

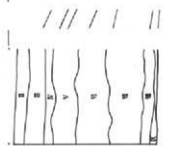


第3図 グリッドおよび旧石器トレンチ配置

18号トレンチ東壁



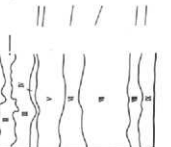
13号トレンチ東壁



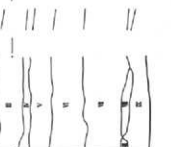
9号トレンチ東壁



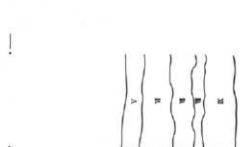
4号トレンチ東壁



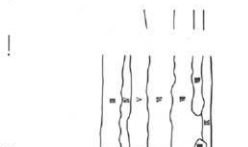
2号トレンチ東壁



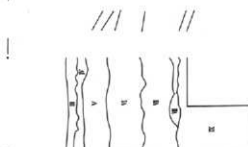
30号トレンチ東壁



26号トレンチ東壁



22号トレンチ東壁

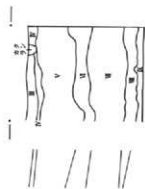


- 基本土層
 I層 As-OH1, As-O&2をよくむハーフローム
 II層 As-HPをよくむハーフローム
 III層 As-BP~AT冲断層
 IV層 AT相高層
 V層 腐植層
 VI層 腐植層下の粘質ローム しまりをゆるし
 VII層 腐植層下の粘質ローム
 VIII層 Hr-HP
 IX層 Hr-HP下の粘質ローム
 X層 Hr-HP下の粘質ローム 区層より粘る

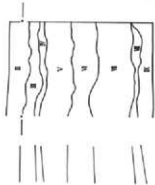


第4図 基本土層 (1)

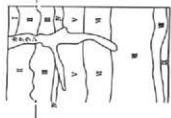
6号トレンチ北壁



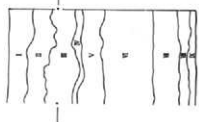
5号トレンチ北壁



4号トレンチ北壁



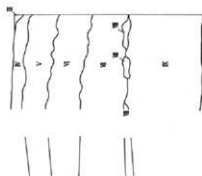
3号トレンチ北壁



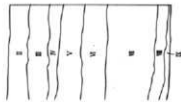
23号トレンチ北壁



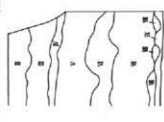
22号トレンチ北壁



21号トレンチ北壁



20号トレンチ北壁



第2章 周辺の環境

第1節 地理的環境

下元屋敷遺跡は、伊勢崎市田部井町二丁目（旧佐波郡東村田部井）399-2他に所在する。県道桐生伊勢崎線の東、大間々扇状地のⅠ面（桐原面）・早川右岸の台地上に位置する。

下元屋敷遺跡の立地する大間々扇状地は、渡良瀬川が足尾山地を越える谷口の山田郡大間々町を扇頂とし、西は赤城山南東斜面から粕川、東は八王子丘陵と金山丘陵に挟まれた東西約14km、南北約16kmの扇状地である。扇状地面は、早川を境に新旧二つの地形面からなる。右岸のⅠ面（桐原面）は約50,000年前、左岸のⅡ面（藪塚面）は約13,000年前に形成された。Ⅰ面（桐原面）の標高85～90mの間にはあまが池（天ヶ池、尼ヶ池）、男井戸などの湧水点が点在し、湧水点を谷頭とする浸食谷が樹枝状に展開しており、水田地帯を形成している。谷と谷に挟まれた台地上は、集落や畑作地となっている。Ⅱ面（藪塚面）は、模式的な扇状地の形態をしており、標高60m前後の扇端部には「井」のつく地名が点在し、ここにもまた湧水点が見られる。これらの湧水点の周囲に数多くの遺跡が立地している。周辺地域の気候は、冬は北北西の季節風（いわゆる赤城風）が強く吹き著しく乾燥し、夏は高温でかつ雷雨が多く、群馬県南部地域における気候の特徴を示している。

第2節 歴史的環境

旧石器時代

本遺跡周辺には、大間々扇状地Ⅰ面（桐原面）の早川右岸台地上に数カ所の遺跡が存在する。特に集中するのは、三和工業団地Ⅰ遺跡から北関東自動車道建設事業に伴い調査された書土、天ヶ堤、大上、前道下、塚下遺跡などの連続する東西約3kmの範囲であり、暗色帯からAs-YPまでの各時期のブロックが検出されている。

縄文時代

本遺跡周辺においては、曲沢遺跡、大上遺跡、道上遺跡から草創期の石器が出土している。早期にはやや遺跡数が増加し、三室坊主林遺跡などあまが池の谷筋付近で熱糸文土器の出土する遺跡が目立つようになる。熱糸文土器以外では、八寸大道上遺跡からは貝殻条痕文土器を伴う集石遺構が検出されており、また、磯沼遺跡から押型文土器と貝殻条痕文土器、道上遺跡から押型文土器も出土している。前期になると、遺跡は大間々扇状地Ⅰ面（桐原面）に集中する傾向が見られるようになる。時期的には諸磯式が最も多い。大上遺跡においては諸磯期の数度の建替の行われた堅穴住居跡数軒からなる集落が確認されている。また、同遺跡からは浮島・興津式土器も出土しており、東関東地方との繋がりがもうかがえる。中期になると遺跡数は増加し、大間々扇状地Ⅰ面（桐原面）以外にも多数の集落が形成されるようになる。時期的には加曾利E式が最も多く、天ヶ堤遺跡、曲沢Ⅰ遺跡、曲沢Ⅱ遺跡、下田遺跡などで大規模集落が形成されている。後期になると遺跡数は減少する。この時期の遺跡は中期加曾利E式から継続する遺跡がほとんどであり、遅くとも堀之内式までで終結する。晩期の遺跡は確認されていない。

弥生時代

本遺跡周辺に弥生時代の遺跡はほとんど見られない。

古墳時代

古墳時代になると遺跡数は増加する。前期には早川沿岸地上の大道上遺跡や西ノ畑遺跡、鬼ヶ島遺跡などにおいて拠点集落が出現する。中後期になると遺跡数は減少するものの、遺跡規模は拡大する。八寸大道上遺跡においては王作工人の集落が確認されている。また、曲沢Ⅰ遺跡、上柳沢遺跡などから水路状の溝が検出されており、当該期における水田耕作の拡大を示す遺構と考えられる。古墳について見ると、前期は伊勢崎東流通田遺跡に前方後方形周溝墓・方形周溝墓が出現する。中期古墳は調査例がなく詳細不明であり、後期には下谷古墳群が形成される。

古代（奈良・平安時代）

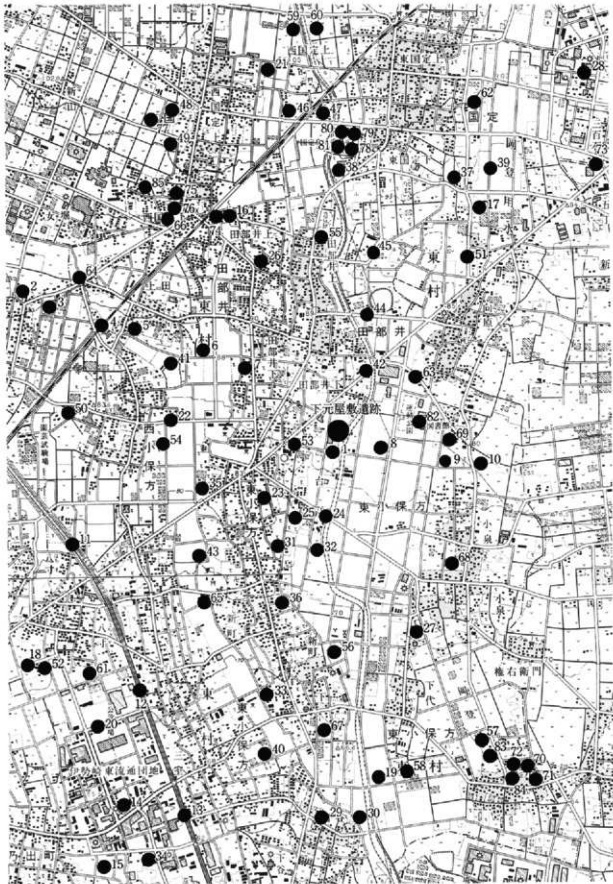
奈良時代になると中国より律令制度が導入され、中央集権国家が樹立される。地方は国・郡・郷（里）に分けられ、本遺跡周辺地域は上野国佐位郡に属することとなる。しかし、律令体制は平安時代以降に衰退し、武士の成長とともに崩壊する。これらの変化を受け、遺跡数はさらなる増加と多様性を見せるようになる。塚下遺跡、寺東遺跡、西ノ畑遺跡などで集落、水田等が検出されている。また、女堀の開削も行われ、水田耕作のさらなる拡大による水不足を補おうとして果たせなかった状況がうかがえる。

中近世（鎌倉～江戸時代）

中世において本遺跡周辺地域は湯名荘に含まれ、江戸時代においては天領・旗本領・大名領とめぐるしく支配が変わる。この時代の遺構は、館跡、溝等が主体となる。天神沼Ⅰ遺跡、三室坊主林遺跡、上中西Ⅰ遺跡から館跡、天ヶ堤遺跡、大上遺跡から土坑、溝等が検出されている。上中西Ⅰ遺跡からは蔵骨器も出土しており、寺院跡である可能性も考えられる。また、東毛地域の中世を特徴づける遺物に板碑があるが、本遺跡周辺地域においては逆に板碑の少ないことが特徴となっている。

参考文献

- 相川龍雄1928『佐波の古墳』
日本考古学協会1968『日本考古学年報』7
群馬県企業局1982『伊勢崎東流通田遺跡』
群馬県教育委員会1938『上毛古墳総覧』、1979『女堀』
群馬県歴史文化財調査事業団2001～05『年報』20～24、同2002『平成14年度出土文化財巡回展示会図録 水のめぐみ～大町々相模川周辺の歴史～』、同1985『女堀』、同1989『八寸大道上遺跡』、同1989『三室坊主林遺跡』、同1991『上野国義持谷遺跡・三室岡ノ谷遺跡』、同1999『三和工業団地Ⅰ遺跡』、同2001『八寸長溝遺跡』、同2002『田部井大根谷戸遺跡』
佐位郡東村教育委員会1977『東村誌』、同1987『佐波郡東村の遺跡』、同1978『佐波郡東村六道遺跡』、同1979『佐波郡東村曲沢遺跡』、同1980『佐波郡東村鬼ヶ島遺跡』、同1980『佐波郡東村上康本遺跡』、同1981『西ノ畑遺跡』、同1981『かき塚塚下遺跡』、同1982『根性坊・上中西遺跡』、同1984『寺東遺跡』、同1985『寺東遺跡』、同1989『天神沼遺跡群』、同1994『諏訪山遺跡発掘調査報告書』、同1994『天神沼Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』、同1999『向原』、同1999『諏訪山』、同1999『中西原』
東村遺跡調査会2004『群馬県佐波郡東村南原岡遺跡・下大久保遺跡』、同2004『田部井館跡遺跡』、同2004『群馬県佐波郡東村根光塚遺跡』



第6図 下元屋敷遺跡と周辺の遺跡

第1表 下元原敷遺跡周辺遺跡一覧

No	遺跡名	文献	No	遺跡名	文献
1	根性坊	村教委1982「根性坊・上中西遺跡」	42	田部舟楯跡(船楯屋敷跡)	村教委1977「村誌」、村調会2004「田部舟楯跡遺跡」
2	書上	原撰文2001-03「年報」20-22	43	寺東	村教委1984「寺東遺跡」、85「寺東遺跡」
3	天ヶ塚	原撰文2001-03「年報」20-22	44	天神沼1	村教委1989「天神沼遺跡群」94「天神沼1・日遺跡発掘調査報告書」
4	大上	原撰文2002-04「年報」21-23	45	天神沼2	村教委1989「天神沼遺跡群」94「天神沼1・日遺跡発掘調査報告書」
5	前道下	原撰文2002-04「年報」21-23	46	天神前1	村教委1987「村遺跡」
6	塚下(かき揚塚下、掻揚塚下)	原撰文2002-03「年報」21-22、村教委1977「村誌」、80「佐波郡東村かき揚塚下遺跡」	47	天神前2	村教委1987「村遺跡」
7	上柳沢	原撰文2004「年報」23	48	鍋島田1	村教委1987「村遺跡」
8	下田	原撰文2002-04「年報」21-23	49	鍋島田2	村教委1987「村遺跡」
9	南原岡	原撰文2003-04「年報」22-23、村調会2004「南原岡遺跡・下大久保遺跡」	50	中西原(佐波農産高等学校第二農場)	村教委1977「村誌」、99「中西原」
10	下大久保	原撰文2003-04「年報」22-23、村調会2004「南原岡遺跡・下大久保遺跡」	51	西渡	村教委1987「村遺跡」
11	八丈大道上(大道上、八丈A)	村教委1977「村誌」、原撰文1989「八丈大道上遺跡」	52	西ノ畑(西畑)	村教委1977「村誌」、81「西ノ畑遺跡」
12	三草坊主林(道土、坊主林、三草B)	村教委1977「村誌」、原撰文1989「三草坊主林遺跡」	53	野間	村教委1987「村遺跡」
13	三草岡ノ谷(岡ノ谷、三草A)	原撰文1991「上面名裏神谷遺跡・三草岡ノ谷遺跡」	54	八幡村	村教委1977「村誌」、87「村遺跡」
14	伊勢崎東流通団地(道上)	村教委1977「村誌」、泉金司1982「伊勢崎東流通団地遺跡」	55	東ノ宿	村教委1987「村遺跡」
15	八寸長溝	原撰文2001「八寸長溝遺跡」	56	阪本久永氏陣跡(大東神社跡)	村教委1977「村誌」、87「村遺跡」
16	田部井大根谷戸	原撰文2002「田部井大根谷戸遺跡」	57	平井義	村教委1987「村遺跡」
17	磯沼	村教委1987「村遺跡」	58	平井吉	村教委1987「村遺跡」
18	大道下	村教委1987「村遺跡」	59	曲沢1	村教委1979「曲沢遺跡」
19	岡谷	村教委1987「村遺跡」	60	曲沢2	村教委1979「曲沢遺跡」
20	鬼ヶ島	村教委1977「村誌」、80「佐波郡東村鬼ヶ島遺跡」	61	御手洗下	村教委1977「村誌」、81「村遺跡」
21	閑見	村教委1987「村遺跡」	62	見取	村教委1987「村遺跡」
22	上藤本	村教委1980「佐波郡東村上藤本遺跡」	63	向原	村教委1999「向原」
23	上中西Ⅰ	村教委1987「村遺跡」	64	六道	村教委1978「六道遺跡」
24	上中西Ⅱ	村教委1982「附性坊・上中西遺跡」	65	渡戸	村教委1977「村誌」、87「村遺跡」
25	上中西Ⅲ	村教委1987「村遺跡」	66	女堀	原教委1979「女堀」、原撰文1985「女堀」、村教委1977「村誌」
26	北西山	村教委1987「村遺跡」	67	頼光塚(東村46、47号墳)	原教委1938「総覧」、村教委1977「村誌」、村調会2004「頼光塚遺跡」
27	小泉南	村教委1987「村遺跡」	68	東村1号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
28	五反歩	村教委1987「村遺跡」	69	東村2号墳	原教委1938「総覧」、村教委1977「村誌」、87「村遺跡」
29	下谷古墳群(輪巻古墳、雷電神社跡古墳、東村7-22、31-41号墳)	相川龍雄1928「佐波の古墳」、原教委1938「総覧」、日考協1958「日本考古学年報」7、村教委1977「村誌」、87「村遺跡」	70	東村3号墳	原教委1938「総覧」、村教委1977「村誌」、87「村遺跡」
30	下谷前(東村23-30号墳)	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」	71	東村4号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
31	下中西Ⅰ	村教委1987「村遺跡」	72	東村5号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
32	下中西Ⅱ	村教委1987「村遺跡」	73	東村6号墳	原教委1938「総覧」、村教委1977「村誌」、87「村遺跡」
33	下ノ西	村教委1977「村誌」、87「村遺跡」	74	東村48号墳	原教委1938「総覧」、村教委1977「村誌」、87「村遺跡」
34	下原	村教委1977「村誌」、87「村遺跡」	75	東村49号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
35	下柳沢	村教委1977「村誌」、87「村遺跡」	76	東村50号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
36	新町	村教委1987「村遺跡」	77	東村51号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
37	藤跡原	村教委1987「村遺跡」	78	東村52号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
38	藤跡山	村教委1994「藤跡山遺跡発掘調査報告書」、96「藤跡山」	79	東村53号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
39	水籠	村教委1987「村遺跡」	80	東村54号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
40	高原	村教委1987「村遺跡」	81	東村55号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
41	羅井上	村教委1977「村誌」、87「村遺跡」	82	東村56号墳	原教委1938「総覧」、村教委1987「村遺跡」
			83	東村記載漏1号墳	村教委1987「村遺跡」
			84	東村記載漏2号墳	村教委1987「村遺跡」
			85	東村記載漏3号墳	村教委1987「村遺跡」

※泉金司は群馬県企業局、原教委は群馬県教育委員会、原撰文は群馬県蔵文化財調査事業団、村教委は佐波郡東村教育委員会、村調会は東村遺跡調査会、日考協は日本考古学協会、「総覧」は「上毛古墳総覧」、「村誌」は「東村誌」、「村遺跡」は「佐波郡東村の遺跡」の略。なお、報告書の刊行されている遺跡については、文献欄から「村遺跡」を省略した。

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物

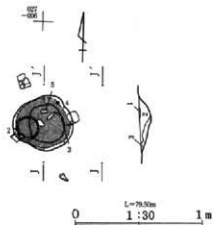
縄文時代の遺構は、中期後半～後期前半の竪穴住居跡11軒、竪穴状遺構3基、炉2基、土坑51基、ピット51基が確認された。これらの遺構は、調査区の南半、すなわち西側の台地上および東側の早川へと下る斜面上に集中しており、北半の分布は希薄である。遺構の残存状態は、調査区中央および西側においては後世の削平が著しく、また東側は早川に浸食された斜面のため崩落が著しく、ともに良好であるとは言い難い。

竪穴住居跡のうち、2～5、8、11号竪穴住居跡は床面が削平されており、円形に廻る柱穴（ピット）、炉、埋壺などから復元した。ほか、6号竪穴住居跡は床面1/5程度の残存状態であり、10号竪穴住居跡は床面2/3程度を残し早川旧河道（時期不明）に削られている。床面を削られずに残すのは1、7、9号竪穴住居跡のみである。このような状態を反映して、一部を除いて覆土中の遺物は少なく、遺物の大半は柱穴（ピット）、炉、埋壺からの出土である。竪穴状遺構は、隅丸方形または楕円形の平面形と平坦な床面をもつ小形竪穴であり、いずれも後期前半のものである。竪穴住居跡に比べ残存状態は良好である。炉は単独の炉2基。土坑は円形または楕円形のものが大半であるが、30、51号土坑は床面中央部に柱穴（ピット）状の掘込みをもつ。16、17号ピットは2、3号竪穴住居跡をはさみ対になる位置にあり、18～21号ピットは列をなしている。

(1) 竪穴住居跡

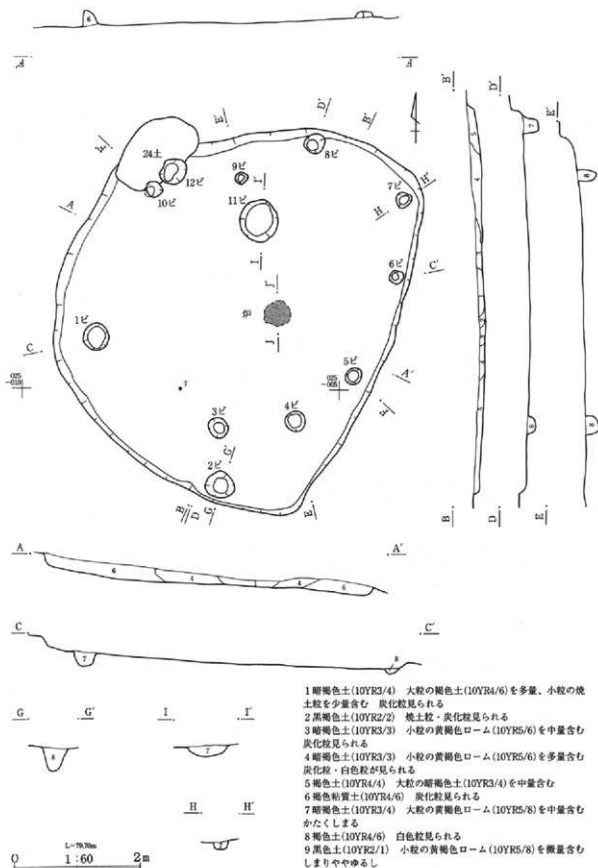
1号竪穴住居跡（第7～9図、P.L.2・3・26・34）

位置・020-000G、020-005G、025-000G、025-005G。 平面形・東壁縁が長いやや不整な楕円形。規模・長径6.00m、短径5.10m、深さ0.24～0.01m。 主軸方位・N-22°-E。 炉・埋壺炉。土器(2)は深鉢胴部。本竪穴住居跡の遺物の大半は炉の周囲に集中。 埋壺・なし。 周溝・なし。 柱穴（ピット）・12基、楕円形に廻る。 土層断面・6層、レンズ状堆積する。 重複関係・24号土坑に切られる。 出土遺物・1は阿玉台式。深鉢胴部。弧状の沈線文区画内に3条の押引文を施文。2～6は加曾利E式後半。深鉢胴部。2は炉体に用いられたためか表面が劣化、縦位の沈線文で条線文施文部と無文部を区画する。3～5は同一個体、縦位の沈線文でL R縄文施文部と無文部を区画する。磨消縄文。6は条線文を施文。11号竪穴住居跡-3と同一個体。7は中期後半～後期前半。深鉢胴部。無文。 所見・調査区南東部の斜面に位置し、東側早川方向への崩落が著しい。床面は地形の影響を受け東に5°ほど傾斜する。炉出土の土器から、本遺構の時期は加曾利E式後半と考えられる。

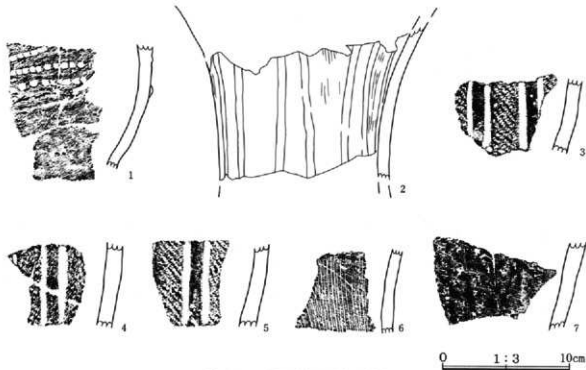


1 焼土ブロック
2 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒を微量含む
3 黒褐色土(10YR3/2) 大粒の褐色土(10YR4/6)を多量、焼土粒を微量含む

第7図 1号竪穴住居跡炉平面・断面



第8図 1号竪穴住居跡平面・断面



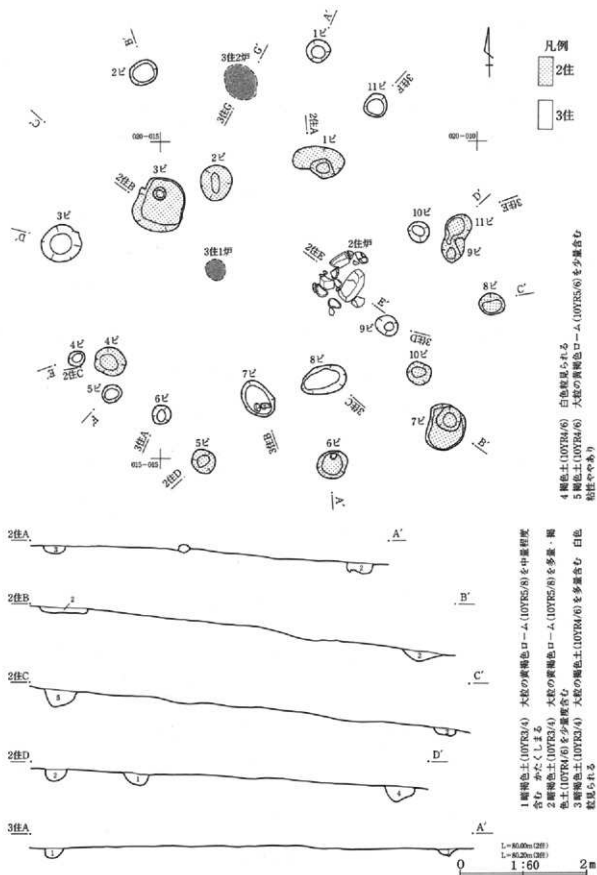
第9図 1号竪穴住居跡出土遺物

2号竪穴住居跡 (第10～13図、P.L.2・3・34)

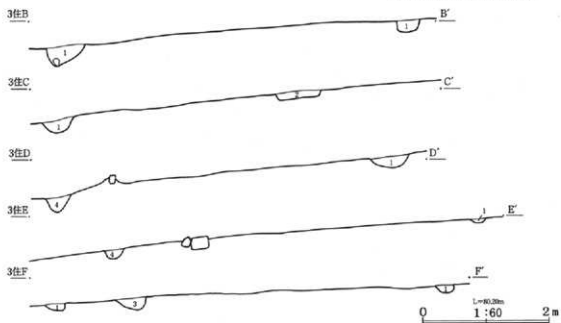
位置・010-010G、015-005G、015-010G、015-015G。 平面形・一 規模・一 主軸方位・一 炉・石囲炉。石囲部分は東側早川方向へ崩落している可能性もある。明確な掘込みはなく、周辺に焼土・炭化物は見られない。 埋壘・なし。 周溝・なし。 柱穴(ビット)・11基、円形に廻る。3・7号ビットのみ隅丸方形で他より大形。 土層断面・一 重複関係・3号竪穴住居跡と重複するが、新旧関係は不明。また、2・3号竪穴状遺構とも重複するが、同遺構は2号住居確認面において確認できない。 出土遺物・1～3は加曾利E4式。深鉢胴部。1、2は表面が磨滅し、曲線状の微隆線文区画内に縄文(原体不明)を施文。3は表面が磨滅し、縄文(原体不明)を施文。1～3は同一個体。4は称名寺1式。深鉢胴部。弧状の沈線文区画内にL R縄文を施文。充填縄文。5は称名寺2式。深鉢胴部。縦位の沈線文区画内に列点刺突文を施文。6は後期前半。深鉢把手。円形の隆線文を施文。 所見・床面は削平・崩落しており、炉および円形に廻るビットから推定したが、竪穴の範囲は不明である。東側早川方向への崩落が著しい。2・3号竪穴状遺構との関係から、本遺構の時期は後期前半であると考えられる。

3号竪穴住居跡 (第10～13図、P.L.2・3・34)

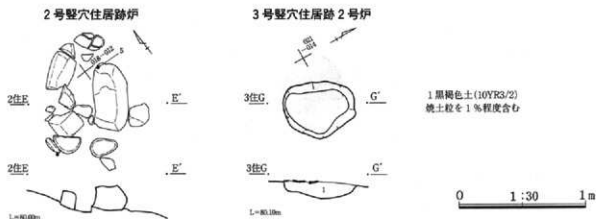
位置・015-010G、015-015G、020-010G、020-015G。 平面形・一 規模・一 主軸方位・一 炉・地床炉2。1号炉は掘込みなし。2号炉は明確な掘込みがある。 埋壘・なし。 周溝・なし。 柱穴(ビット)・11基、円形に廻る。 土層断面・一 重複関係・2号竪穴住居跡と重複するが、新旧関係は不明。また、2・3号竪穴状遺構とも重複するが、同遺構は3号住居確認面において確認できない。 出土遺物・1は称名寺2式。深鉢胴部。横位の沈線文区画内に列点刺突文を施文。 所見・床面は削平・崩落しており、炉および円形に廻るビットから推定したが、竪穴の範囲は不明である。東側早川方向への崩落が著しい。2・3号竪穴状遺構との関係から、本遺構の時期は後期前半であると考えられる。



第10図 2・3号竪穴住居跡平面・断面(1)



第11図 2・3号堅穴住居跡断面(2)



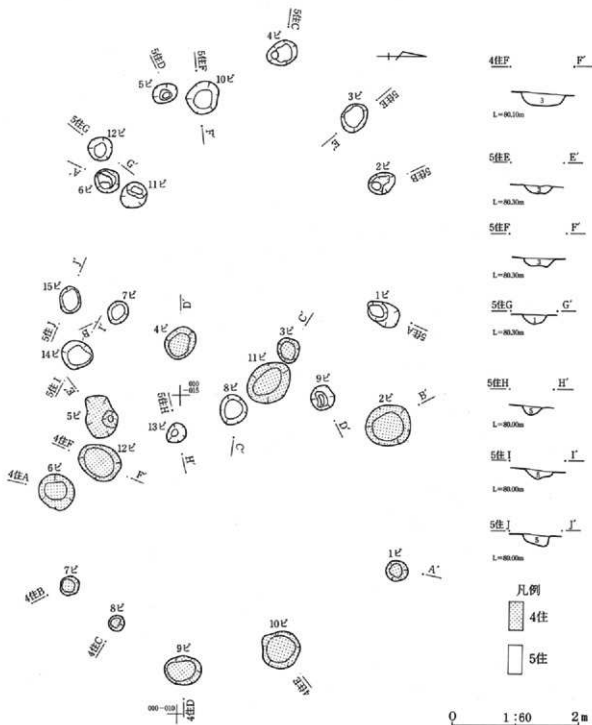
第12図 2・3号堅穴住居跡炉平面・断面



第13図 2・3号堅穴住居跡出土遺物

4号竪穴住居跡（第14・15図、P.L.3）

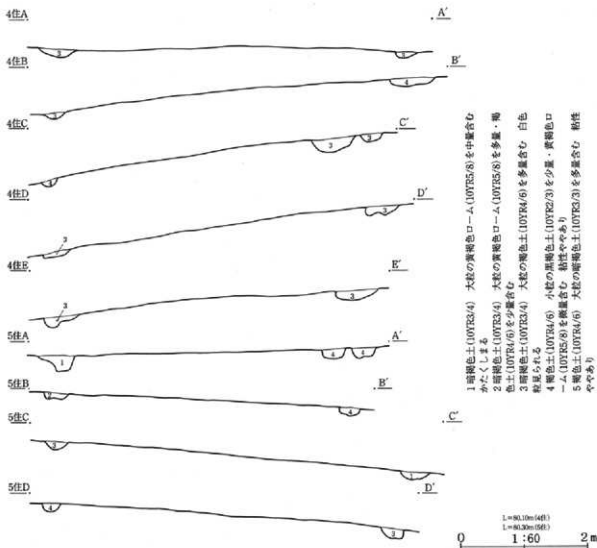
位置・005-010G、005-015G、010-010G、010-015G。 平面形・— 規模・— 軸方位・— 炉・なし。 埋塞・なし。 周溝・なし。 柱穴（ピット）・12基、円形に廻る。 土層断面・— 重複関係・5号竪穴住居跡と重複するが、新旧関係は不明。 出土遺物・小破片のみ。 所見・床面は削平・崩落しており、円形に廻るピットから推定したが、竪穴の範囲は不明である。東側早川方向への崩落が著しい。ピット覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。



第14図 4・5号竪穴住居跡平面・断面 (1)

5号竪穴住居跡 (第14~16図、P.L.3・34)

位置・005-010G、005-015G、010-010G、010-015G、010-020G。 平面形・一 規模・一 主軸方位・一 炉・なし。 埋甕・なし。 周溝・なし。 柱穴(ピット)・15基、円形に廻る。 土層断面・一 重複関係・4号竪穴住居跡と重複するが、新旧関係は不明。 出土遺物・1は加曾利E式後半。 深鉢胴部。 擬位の沈線文でRL縄文施文部と無文部を区画。 磨消縄文。 2は称名寺2式。 深鉢胴部。 十字状の沈線文区画内に列点刺突文を施文。 所見・床面は削平・崩落しており、円形に廻るピットから推定したが、竪穴の範囲は不明である。 東側早川方向への崩落が著しい。 出土遺物およびピット覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半~後期前半と考えられる。



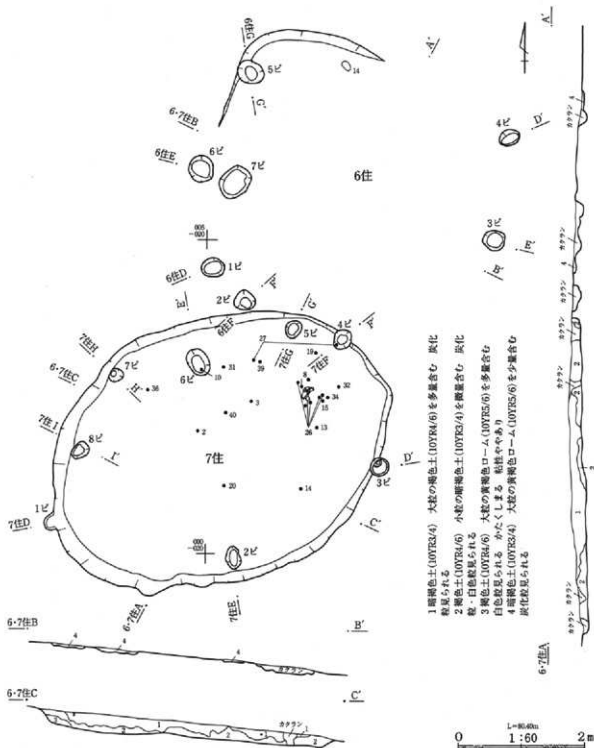
第15図 4・5号竪穴住居跡断面(2)



第16図 5号竪穴住居跡出土遺物

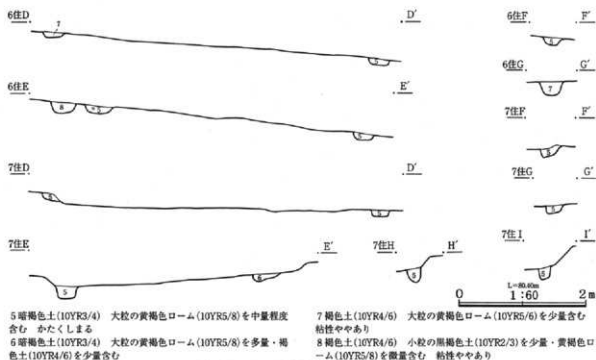
6号竪穴住居跡 (第17~19図、P.L.4・26・35)

位置・000-015G、000-020G、005-015G、005-020G。 平面形・- 規模・- 主軸方位・- 炉・なし。 埋壙・なし。 周溝・なし。 柱穴(ピット)・7基、まばらに楕円形に廻る。 土層断面・1層のみ。 重複関係・7号竪穴住居跡と重複。新旧関係は不明。 出土遺物・1、2は加曾利E式後半。1は深鉢頸部。沈線文区画内に円形刺突文を施文。2は深鉢胴部。条線文を施文。3、4は称名寺2式。深鉢胴



第17図 6・7号竪穴住居跡平面および断面(1)

第1節 縄文時代の遺構と遺物



第18図 6・7号竪穴住居跡断面(2)

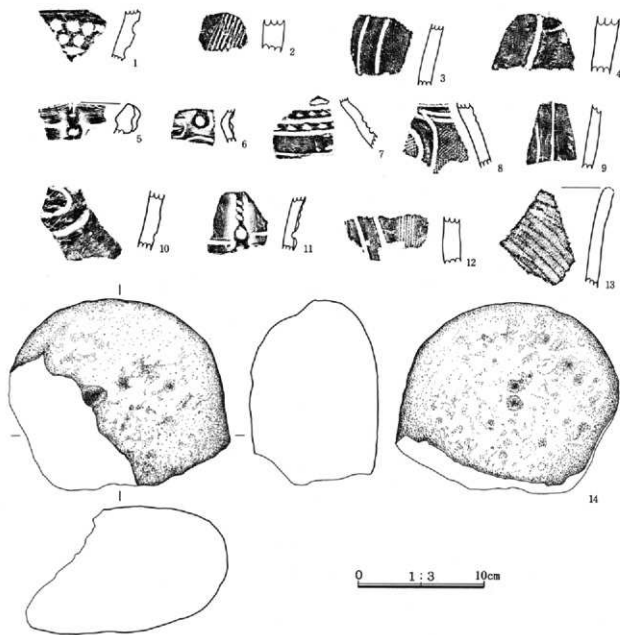
部。弧状の沈線文を施文。5～10は堀之内1式。5は深鉢口縁部。口唇部にボタン状貼付文および横位の沈線文を施文。6は深鉢頸部。頸部にボタン状貼付文を施文。7～10は深鉢胴部。7は頸部直下の横位の沈線文区画内に刺突文を施文。8は沈線文区画内にR L縄文を施文。磨消縄文。9は縦位の沈線文を施文。10は弧状の沈線文を施文。11、12は堀之内2式。深鉢胴部。11は縦位隆線文に円形刺突文を施文。12は斜位の沈線文と条線文を施文。13は中期後半～後期前半。深鉢口縁部。縄文(原体不明)を施文。14は凹石。粗粒輝石安山岩製。両面加工。一部欠損。所見・調査区南東部の斜面に位置し、床面は1/5程度を残し削平・崩落している。まばらな楕円形に廻るピットから推定したが、竪穴の範囲は不明。東側早川方向への崩落が著しい。遺構の残存状態からすると、遺物量は多めである。出土遺物から、本遺構の時期は堀之内式と考えられる。

7号竪穴住居跡(第17・18・20・21図、P L. 4・5・26・35・36)

位置・995-015G、995-020G、000-015G、000-020G。平面形・楕円形。規模・長径5.70m、短径4.10m、深さ0.30-0.01m。主軸方位・N-68°-E。炉・なし。埋壘・なし。周溝・なし。柱穴(ピット)・8基、楕円形に廻る。土層断面・3層。重複関係・6号竪穴住居跡と重複。新旧関係は不明。出土遺物・1、2は勝板式。1は深鉢口縁部。横位の押引文を施文。2は深鉢胴部。横位の押引文と結節沈線文を施文。3、4は中期後半。3は深鉢口縁部。横位の沈線文を施文。4は深鉢頸部。横位の沈線文・隆線文を施文。5～7は称名寺1式。深鉢胴部。5はJ字状の沈線文区画内にL R縄文を施文。充填縄文。6は鍵手状の沈線文区画内に条線文を施文。7は縦位の沈線文でL R縄文施文部と無文部を区画。磨消縄文。8～12は称名寺2式。深鉢胴部。8、9は縦位の沈線文区画内に列点刺突文を施文。10～12は縦位の沈線文を施文。13～28は堀之内1式。13～18は深鉢口縁部。13は波状口縁の波頂部に円形刺突文を施文し口唇部に沈線文を横位施文、頸部にも同様の文様を施文。14は波状口縁の波頂部に円形刺突文を施文し、口唇部に横位の沈線文を施文。15、16は口唇部に円形刺突文と横位の沈線文を施文。17は口唇部にC字状の沈線文を施文。18は口唇部に円形刺突文を施文。21は深鉢頸部。頸部の横位の沈線文区画内に列点文を施文。19、20、

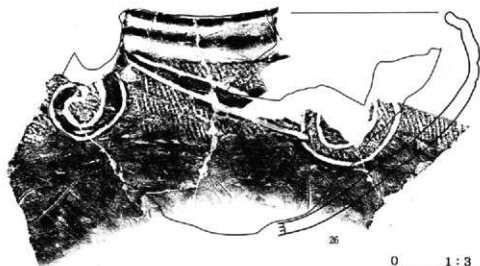
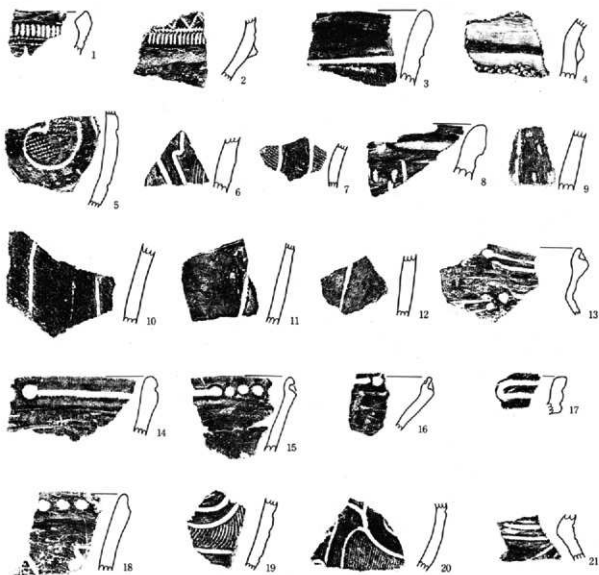
第3章 検出された遺構と遺物

22~25は深鉢胴部。19、20は表面が磨滅、弧状の沈線文区画内にR L縄文を施文。22は縦位の沈線文区画内に刺突文を施文。23~25は弧状の沈線文を施文。26は浅鉢。口唇部に横位の沈線文を施文、口縁部はL R縄文を地文に沈線文による横位の蕨手状文を施文する。遺構外-75と同一個体。27、28は浅鉢口縁部。27は口唇部の横位の沈線文区画内にL R縄文を施文。磨消縄文。28は把手部を欠損、口唇部に横位の沈線文を施文。29~38は後期前半。30、31は深鉢口縁部。30はL R縄文を施文。31は無文。29は深鉢把手。ねじれた形態を呈す。32~37は深鉢胴部。無文。38は深鉢底部。無文。39は打製石斧。黒色頁岩製。刃部欠損。40は磨石。粗粒輝石安山岩製。側面に敲打痕あり。敲石としても使用か。 所見・調査区南東部の斜面に位置し、東側早川方向への崩落が著しい。床面は地形の影響を受け東に5°ほど傾斜する。出土遺物等から、本遺構の時期は堀之内1式と考えられる。



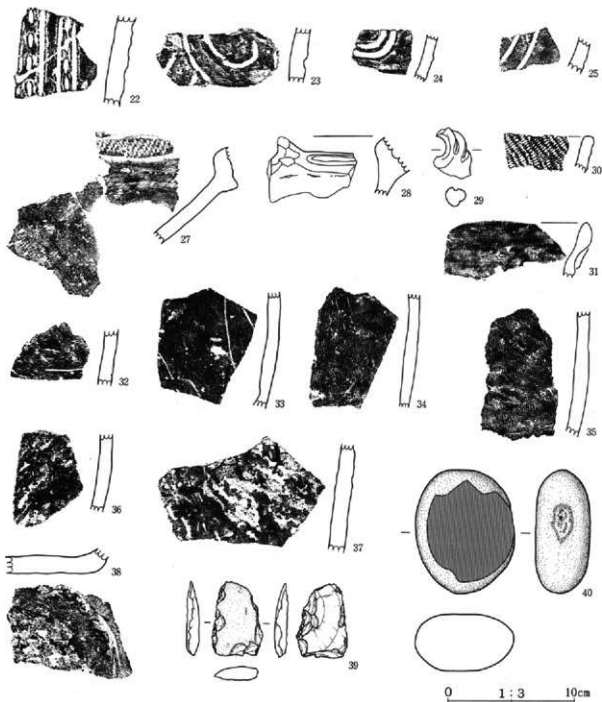
第19図 6号竪穴住居跡出土遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物



0 1:3 10cm

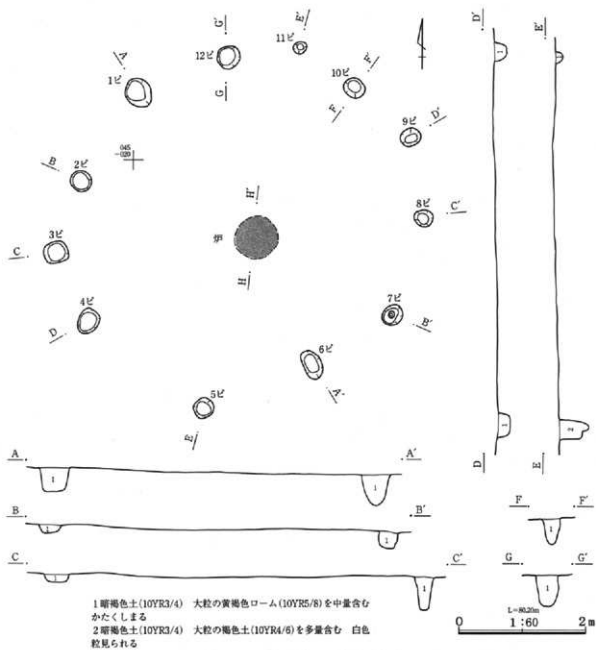
第20図 7号竪穴住居跡出土遺物(1)



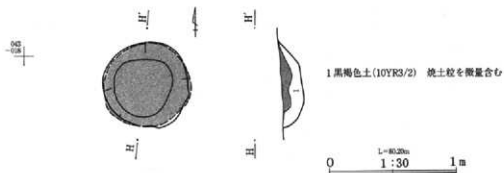
第21図 7号竪穴住居跡出土遺物(2)

8号竪穴住居跡(第22・23図、P.L.5)

位置・040-015G、040-020G、045-015G、045-020G。平面形・— 規模・— 主軸方位・— 炉・地床炉。明確な掘込みがある。埋甕・なし。周溝・なし。柱穴(ピット)・12基、円形に廻る。重複関係・なし。土層断面・— 出土遺物・小破片のみ。所見・床面は削平されており、炉および円形に廻るピットから推定したが、竪穴の範囲は不明である。ピット覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。



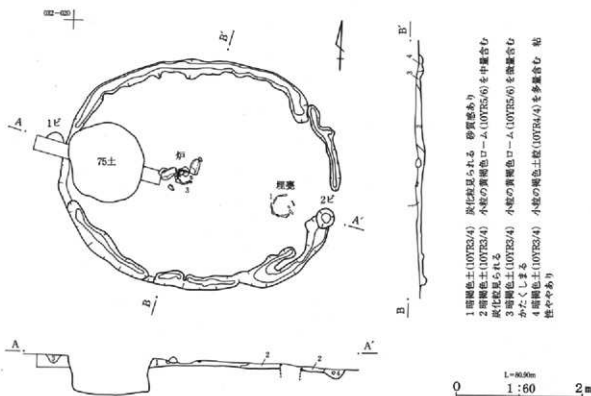
第22図 8号竪穴住居跡平面・断面



第23図 8号竪穴住居跡炉平面・断面

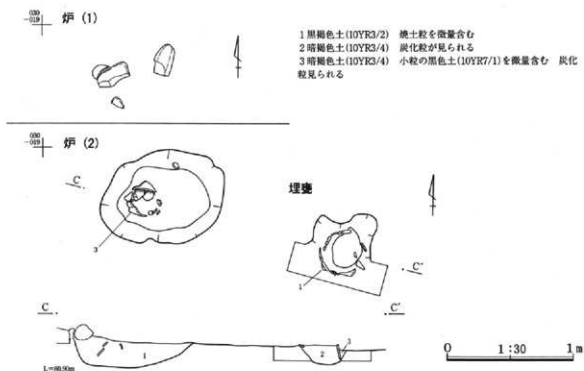
9号竪穴住居跡 (第24~27図, P.L.6・26・27・36)

位置・025-015G、025-020G、030-015G、030-020G。平面形・楕円形。規模・長径4.60m、短径3.60m、深さ0.08m。主軸方位・N-77°-W。炉・石囲炉。石囲部分は一部残存。明確な掘込みをもつ。土器(3)は深鉢胴部。埋壘・あり。土器(1)は深鉢。周溝・あり。長軸両端を欠く。柱穴(ピット)・2基、長軸両端の周溝外側に位置する。土層断面・4層。重複関係・72~74号土坑・70号ピットを切り、75号土坑に切られる。出土遺物・1、2は加曾利E3式。1は深鉢。口縁部は隆線文・沈線文による区画内にR L縄文を施文。隆線文はフ字状を呈す。胴部は縦位の沈線文区画内にR L R縄文および厥手状の沈線文を施文。磨消縄文。埋壘。10と同一個体。2は深鉢口縁部。表面が磨滅、沈線文区画内にL R縄文を施文。充填縄文。3、4は加曾利E4式。3は深鉢。炉体に用いられたためか表面が劣化。波状沈線文による文様内にR L縄文を施文、口唇部の縄文施文方向は以下の部分とは逆で羽状を呈す。磨消縄文。4は深鉢口縁部。縦位の沈線文でL R縄文施文部と無文部を区画。磨消縄文。5~11は加曾利E5後半。6~8は深鉢口縁部。6は口縁部文様帯の隆線文のみ。7は口縁部文様帯下部の沈線文のみ。8は横位の沈線文区画内に条線文を施文。5、9は深鉢頸部。5は表面が磨滅、頸部を横位の隆線文で区画し胴部は縦位の沈線文でR L縄文施文部と無文部を区画。磨消縄文。9は無文。10、11は深鉢胴部。10は縦位の沈線文でR L縄文施文部を区画。1と同一個体。11は条線文を施文。12は中期後半。深鉢底部。条線文を縦位施文、4または5単位の区画を作る。13、14は中期後半~後期前半。13は深鉢口縁部。無文。14は深鉢把手。内側に弧状の沈線文と刺突文を施文。15は称名寺2式。深鉢胴部。縦位の沈線文を施文。16は石鉢。チャート製。所見・調査区西側の台地部に位置し、削平が著しい。炉1基、埋壘1基、ピット2基が長軸に沿って一列に並び、明らかに他の竪穴住居跡と異なる形態を呈す。炉出土の土器および埋壘から、本遺構の時期は加曾利E3式末~加曾利E4式初頭と考えられる。

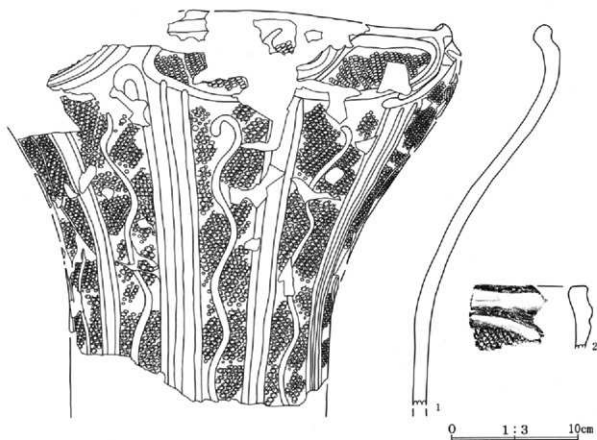


- 1 暗褐色土(10YR2/4) 灰化が見られる 砂質土あり
- 2 暗褐色土(10YR2/4) 小粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を中量含む
- 3 暗褐色土(10YR2/4) 小粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を微量含む
- 4 暗褐色土(10YR2/4) 小粒の褐色土(10YR4/4)を少量含む 粘
- 性ややあり

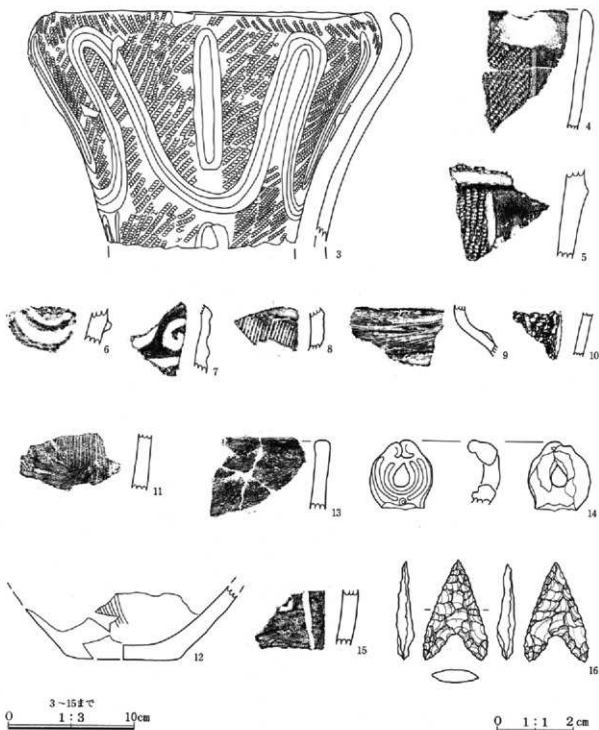
第24図 9号竪穴住居跡平面・断面



第25図 9号竪穴住居跡炉平面・断面



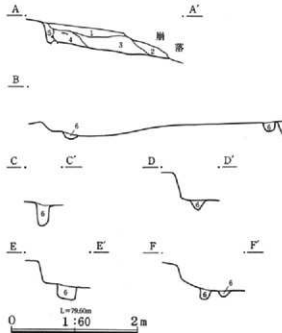
第26図 9号竪穴住居跡出土遺物 (1)



第27図 9号竪穴住居跡出土遺物 (2)

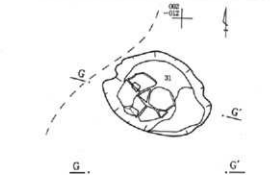
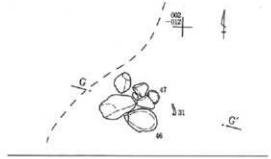
10号竪穴住居跡 (第28~34図、P.L.7・27・28・37)

位置・000-010G、995-010G。平面形・楕円形。規模・長径4.70m、短径3.00m(推定)、深さ0.30m。主軸方位・N-18°-E。炉・石囲炉。石囲部分は早川方向へ崩落。土器(31)は深鉢胴部。煙突なし。周溝なし。柱穴(ビット)・7基。土層断面・5層、傾斜にしたがい斜めに堆積。重複間



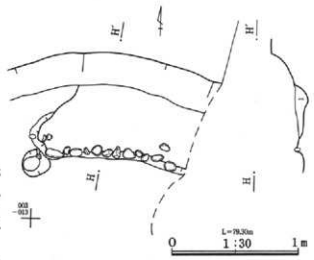
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 大粒の褐色土(10YR4/6)を多量含む 炭化粒・堆土粒見られる
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)・褐色土ブロック(10YR4/6)を微量含む 白色粒見られる
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 大粒の暗褐色土(10YR3/4)を中量・黄褐色ローム(10YR5/6)を少量含む 焼土粒・炭化粒・白色粒見られる
- 4 暗褐色土(10YR3/4) 白色粒見られる
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 大粒の褐色土(10YR4/6)を多量含む 粘性ややあり
- 6 暗褐色土(10YR3/4) 大粒の褐色土(10YR4/6)を多量含む 白色粒見られる

第28図 10号竪穴住居跡平面・断面



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒・炭化粒見られる 粘性ややあり
- 2 褐色土(10YR4/6) 焼土粒・炭化粒見られる
- 3 褐色土(10YR4/6) 小粒の焼土粒を少量含む 炭化粒見られる
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 小粒の焼土粒・炭化粒を微量含む 粘性ややあり

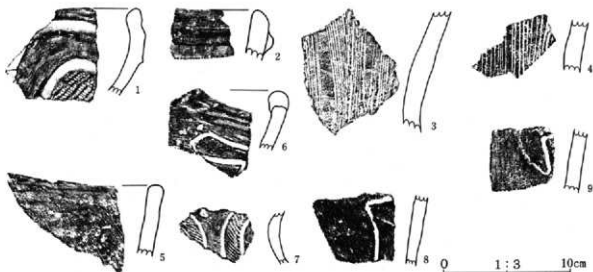
第29図 10号竪穴住居跡炉平面・断面



- 1 褐色土(10YR4/6) 小粒の黄褐色ローム(10YR5/8)を中量含む 炭化粒が見られる かたくしまる

第30図 10号竪穴住居跡内配石遺構平面・断面

係・なし。出土遺物・1は加曾利E4式。深鉢口縁部。沈線文・微隆線文区画内にL R縄文を施文する。磨消縄文。2～4は加曾利E式後半。2は深鉢口縁部。横位の隆線文を施文。3、4は深鉢胴部。条線文を施文。5は中期後半～後期後半。深鉢口縁部。無文。7、11は称名寺1式。深鉢胴部。7は弧状の相対する沈線文区画内にL R縄文を施文。磨消縄文。11は弧状の沈線文区画内にL R縄文を施文。充填縄文。6、8～10、12～16は称名寺2式。6は深鉢口縁部。C字状の沈線文を施文。J字状文の上端部か。8～10、12～16は深鉢胴部。8は鎌手状沈線文を施文。J字状文の上端部か。9はレ字状沈線文を施文。10は連続するJ字状沈線文区画内に列点刺突文を施文。12は沈線文区画内に列点刺突文を施文。13～15は縦位の沈線文を施文。14は一部にL R縄文も施文。16は弧状の沈線文を施文。17～33、43は堀之内1式。17～24、43は深鉢口縁部。17は頸部の横位の沈線文区画内に列点文を施文。18は頸部に横位の沈線文を施文。19は口唇部に円形刺突文を施文、以下に沈線文を施文。20、21は波状口縁を隆線文を貼付て皮厚、波頂部に円形刺突文および皮厚した口唇部に横位の沈線文を施文。22は波状口縁の波頂部。23は把手部を欠損。24は頸部に横位の沈線文を施文。43は無文。25、26は深鉢胴部。25は頸部の横位の沈線文区画内に列点刺突文を施文。26は頸部にボタン状の貼付文を施文。27～33は深鉢胴部。27は表面が磨滅、沈線文区画内にL R縄文を施文。充填縄文。28は沈線文区画内にL R縄文を施文。充填縄文。29はY字状に沈線文を施文。30は横位の沈線文を施文。31は弧状の沈線文を施文。32は弧状の沈線文を施文。33は沈線文による連続する逆J字状文内にL R縄文を施文。充填縄文。34～36は堀之内2式。34は深鉢口縁部。波状口縁。縦位の刻目のある隆線文を施文。35、36は深鉢胴部。表面が磨滅、沈線文区画内にL R縄文施文。同一個体。磨消縄文。37～42は後期前半。37～41は深鉢胴部。37、38はL R縄文を施文。39～41は無文。42は深鉢底部。無文。44、45は打製石斧。黒色頁岩製。44は分銅形。45は短冊形。基部欠損。46は石皿。粗粒輝石安山岩製。一部欠損。47は磨石。粗粒輝石安山岩製。所見・調査区南東部の斜面に位置し、2/3程度を残し早川旧河道（時期不明）により削られている。床面が東に5°ほど傾斜する。北壁沿いに壇状の配石遺構をもち、何らかの祭祀的施設である可能性が考えられる。出土遺物等から、本遺構の時期は堀之内1式と考えられる。



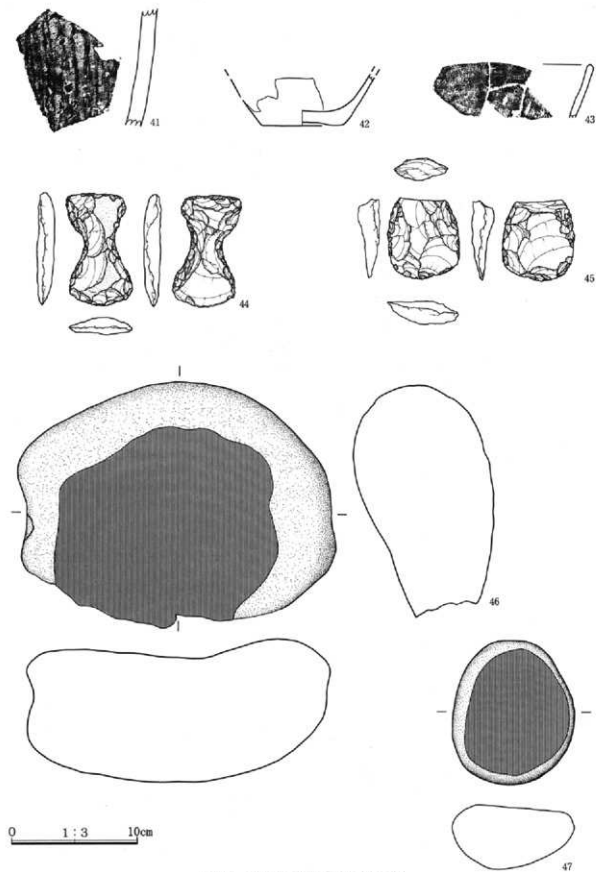
第31図 10号堅穴住居跡出土遺物 (1)



第32図 10号竪穴住居跡出土遺物 (2)



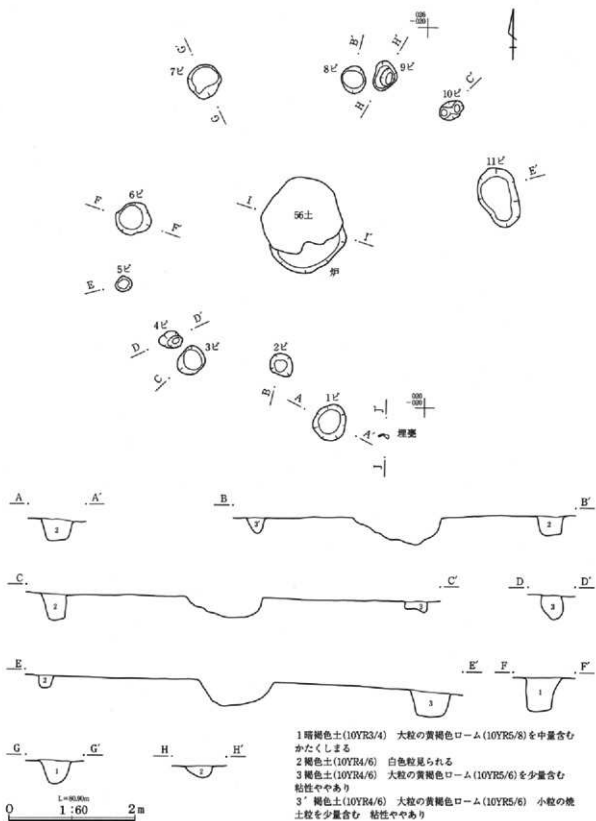
第33図 10号竪穴住居跡出土遺物 (3)



第34図 10号竪穴住居跡出土遺物(4)

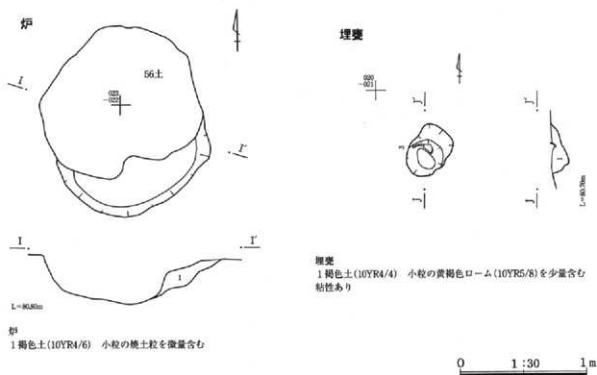
11号竪穴住居跡 (第35~37図、P.L.8・28・36)

位置・015-020G、020-015G、020-020G、025-020G。 平面形・-- 規模・-- 主軸方位・-- 炉・



第35図 11号竪穴住居跡平面・断面(1)

地床炉か。明確な掘込みもある。埋壘・あり。土器(3)は深鉢胴部。 周溝・なし。柱穴(ビット)・11基。土層断面・一重複関係・炉が56号土坑に切られる。ビット配置内側の57・58号土坑との新旧関係は不明。出土遺物・1～3は加曾利E式後半。1は深鉢口縁部。弧状の沈線文を施文。2、3は深鉢胴部。2は縦位の沈線文でRL縄文施文部と無文部を区画。磨消縄文。3は条線文を施文。埋壘。1号堅穴住居跡-6と同一個体。所見・床面は削平されており、炉、埋壘および円形に廻るビットから推定したが、堅穴の範囲は不明である。埋壘および56号土坑との関係から、本遺構の時期は加曾利E式後半と考えられる。



第36図 11号堅穴住居跡炉・埋壘平面・断面

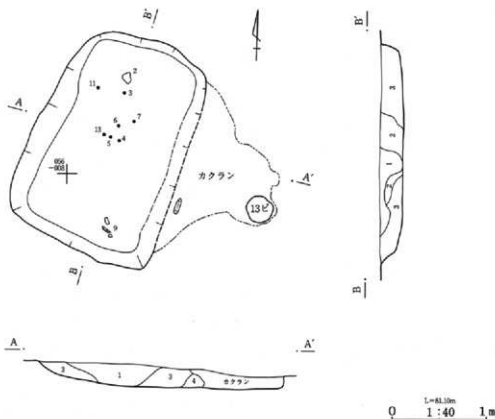


第37図 11号堅穴住居跡出土遺物

(2) 竪穴状遺構

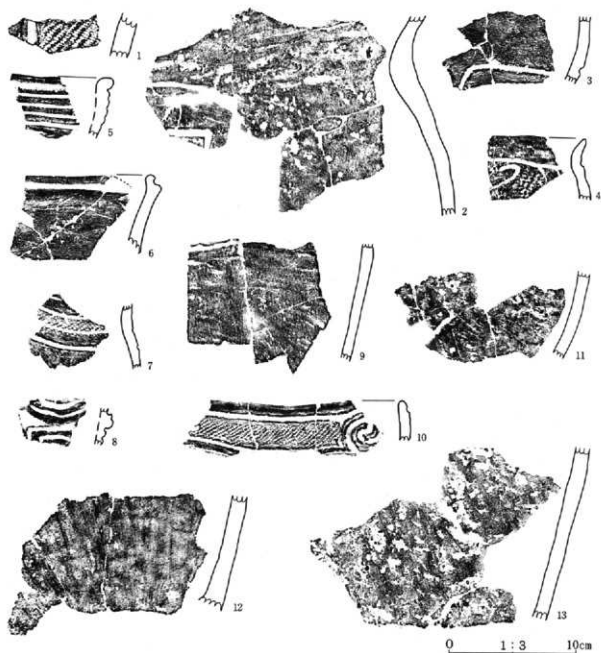
1号竪穴状遺構 (第38・39図、P.L.8・38・39)

位置・050-000G、055-000G。平面形・隅丸長方形。規模・長軸2.35m、短軸1.60m(推定)、深さ0.22m。主軸方位・N-20°-E。土層断面・4層、レンズ状堆積し、擾乱が著しい。重複関係・なし。出土遺物・1は加曾利E式後半。深鉢胴部。縦位の沈線文でRL縄文施文部と無文部を区画。充填縄文。2、3は称名寺2式。深鉢胴部。2は鍵手状の沈線文を施文。3はC字状の沈線文を施文。4~8、10は堀之内1式。4~6は深鉢口縁部。4は頸部に横位の沈線文を施文、胴部にRL縄文および沈線文を施文。5は口唇部直下に横位の沈線文を施文。6は口唇部に横位の沈線文を施文。5は裏面剥離。7、8は深鉢胴部。7は弧状の沈線文区画内にRL縄文を施文。充填縄文。8は弧状の隆線文を施文。裏面剥離。10は浅鉢口縁部。口唇部の横位の沈線文区画内に渦巻状の沈線文およびLR縄文を施文。磨消縄文。9、11~13は後期前半。深鉢胴部。9は横位の沈線文を施文。11~13は無文。所見・出土遺物等から、本遺構の時期は堀之内1式と考えられる。



- 1 黒褐色土(10YR2/3) 炭化粒見られる しまりゆるし
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 小粒の褐色土(10YR4/6)を中量含む炭化粒見られる
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 小粒の褐色土(10YR4/6)を多量含む
- 4 黄褐色ローム(10YR5/6) 炭化粒見られる

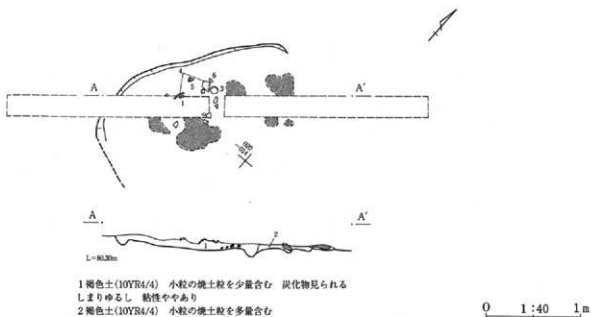
第38図 1号竪穴状遺構平面・断面



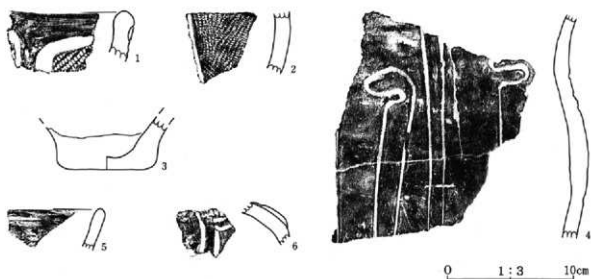
第39図 1号壑穴状遺構出土遺物

2号壑穴状遺構 (第40・41図、P.L.8・28・39)

位置・015-010G、015-015G、020-010G。平面形・隅丸長方形か。規模・長軸2.20m(推定)、短軸不明、深さ0.10m。主軸方位・N-30°-E。土層断面・2層。重複関係・2・3号壑穴状住居跡と重複するが、同遺構確認面において2号壑穴状遺構は確認できない。出土遺物・1は加曾利E式後半。深鉢口縁部。沈線文区画内にLR縄文を施文。磨消縄文。2、3は中期後半～後期前半。2は深鉢胴部。RL縄文を施文。3は深鉢底部。無文。4は堀之内1式。深鉢胴部。縦位および1字状の沈線文を施文。5、6は後期前半。5は深鉢口縁部。波状口縁。無文。6は注口土器胴部。所見・出土遺物および2・3号壑穴状住居跡・3号壑穴状遺構との関係から、本遺構の時期は後期前半と考えられる。



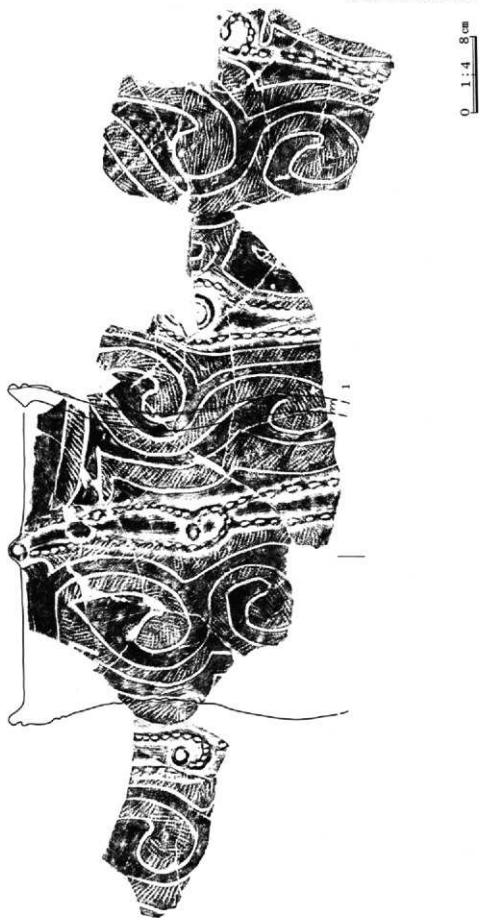
第40図 2号竪穴状遺構平面・断面



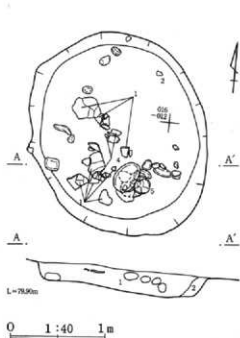
第41図 2号竪穴状遺構出土遺物

3号竪穴状遺構 (第42~44図, P.L.8・9・28・29・39・44)

位置・015-010G。平面形・楕円形。規模・長径2.15m、短径1.80m、深さ0.18m。主軸方位・N-29°-W。土層断面・2層。重複関係・2・3号竪穴住居跡と重複するが、同遺構確認面において3号竪穴状遺構は確認できない。出土遺物・1は称名寺1式。深鉢。沈線文によるJ字文内にLR縄文、口唇部より垂下するJ字状隆線文に円形刺突文を施文。充填縄文。遺構外-74と同一個体。3は称名寺2式。深鉢胴部。縦位の沈線文区画内に列点刺突文を施文。2、4、5は後期前半。2は深鉢口縁部。波状口縁。無文。4は深鉢胴部。表面が剥離し文様判別困難。条線文(?)を施文か。5は深鉢底部。無文。所見・出土遺物等から、本遺構の時期は称名寺1式と考えられる。

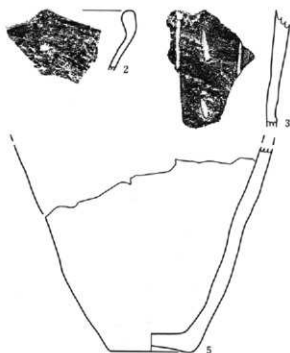


第42図 3号壺穴状遺構出土遺物(1)



- 1 暗褐色土(10YR3/4) 小粒の黒褐色土(10YR2/2)を少量含む 白色が見られる
 2 暗褐色土(10YR3/4) 小粒のぶい黄褐色土(10YR4/3)を多量含む 粘性ややあり

第43図 3号堅穴状遺構平面・断面

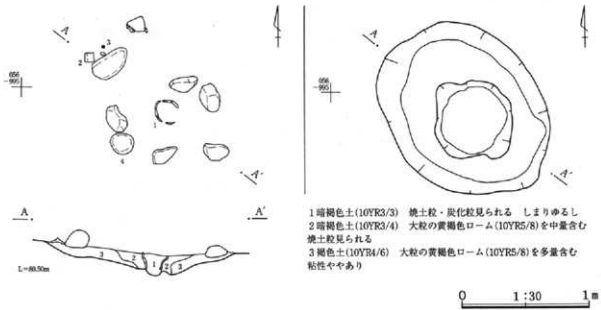


第44図 3号堅穴状遺構出土遺物(2)

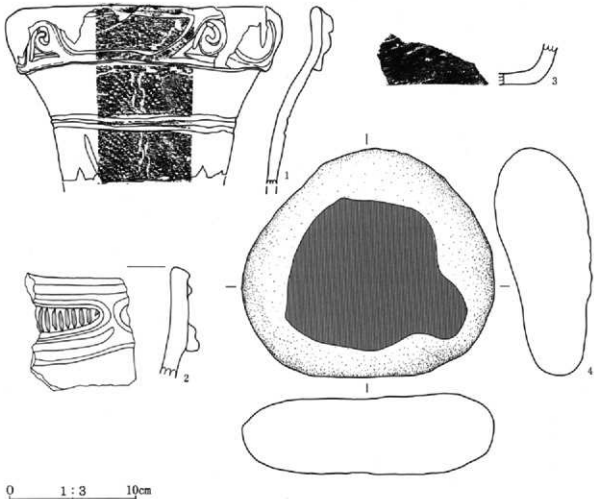
(3) 炉

1号炉(第45・46図、P.L.9・29・39)

位置・055-990G。規模・長軸1.55m、短軸1.20m。主軸方位・— 土層断面・3層、炉体土器(1)は深鉢。重複関係・なし。出土遺物・1、2は加曾利E2式。1は深鉢。文様帯は口縁部、頸部、胴部に分けられ、口縁部は隆線文により5分割される。炉体に用いられたため表面の劣化が著しいが、全体にLR縄文(?)を施文されていた様相が窺える。2は深鉢口縁部。楕円形の隆線文区画内に縦位の沈線文を施文。頸部は無文。3は中期後半。深鉢底部。無文。4は石皿。粗粒輝石安山岩製。所見・石囲炉。石囲部分は東側早川方向へ崩落。明確な掘込みをもつ。堅穴住居跡の炉とも考えられるが、周囲は攪乱が著しく、ピット等は確認できない。出土遺物等から、本遺構の時期は加曾利E2式と考えられる。



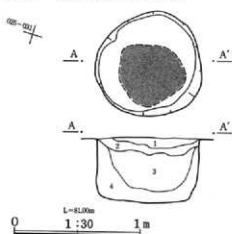
第45図 1号炉平面・断面



第46図 1号炉出土遺物

2号炉 (第47・48図、P L. 9・39)

位置・020-025 G。規模・直径0.50m (焼土部分)。主軸方位・— 土層断面・4層、焼土は1~2層、炭化物は3層に集中する。重複関係・なし。出土遺物・1は加曾利E4式。深鉢口縁部。表面が磨滅、沈線文区画外にR L縄文を施文。磨消縄文。2は中期後半~後期前半。深鉢把手。把手部はの字状を呈す。所見・地床炉。炉と土坑の重複、あるいは半ば埋没した土坑の凹みを利用した炉とも考えられるが、平面の上で明確に分離できないため、一つの遺構とした。覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半~後期前半と考えられる。



- 1 褐色土(10YR4/4) 小粒の焼土粒を多量含む
- 2 褐色土(10YR4/4) 小粒の焼土粒を中量含む
- 3 暗褐色土(10YK3/4) 大粒の褐色土(10YR4/4)を多量、小粒の焼土粒を微量含む 炭化粒が見られる
- 4 暗褐色土(10YK3/4) 大粒の褐色土(10YR4/4)を多量含む 粘性ややあり

第47図 2号炉平面・断面

(4) 土坑・ピット

3号土坑 (第49・59図、P L. 9・29)

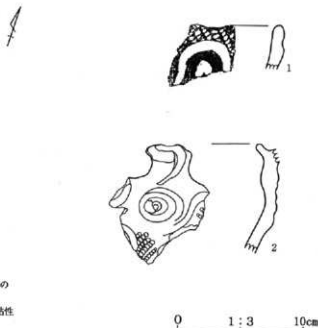
位置・050-025 G。055-025 G。平面形・楕円形。規模・長径1.20m (推定)、短径1.10m (推定)、深さ0.33m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・1号溝に切られる。出土遺物・1は中期後半~後期前半。深鉢。無文。所見・3~6号土坑は1号溝の北側に等間隔に並ぶが、平面形および土層断面から見て柱穴ではない。出土遺物等から、本遺構の時期は中期後半~後期前半と考えられる。

4号土坑 (第49図、P L. 9)

位置・050-020 G。平面形・円形。規模・直径0.98m、深さ0.57m。主軸方位・— 土層断面・2層、水平に堆積する。重複関係・なし。出土遺物・小破片のみ。所見・3~6号土坑は1号溝の北側に等間隔に並ぶが、平面形および土層断面から見て柱穴ではない。覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半~後期前半と考えられる。

5号土坑 (第50図、P L. 9)

位置・045-015 G、050-015 G。平面形・不整な楕円形。規模・長径1.37m、短径1.25m、深さ0.25m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・3~6号土坑は1号



第48図 2号炉出土遺物

溝の北側に等間隔に並ぶが、平面形および土層断面から見て柱穴ではない。覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

6号土坑（第50・59図、P.L.10・29・40）

位置・045-010G。平面形・円形。規模・直径1.06m、深さ0.60m。主軸方位・— 土層断面・2層、水平に堆積する。重複関係・なし。出土遺物・1は加曾利E3式。深鉢胴部。R.L縄文を地文に懸垂状および蛇行状の沈線文を施文。2は加曾利E式後半。深鉢胴部。表面が磨滅、L.R縄文を施文。所見・3～6号土坑は1号溝の北側に等間隔に並ぶが、平面形および土層断面から見て柱穴ではない。出土遺物等から、本遺構の時期は加曾利E3式と考えられる。

7号土坑（第50図、P.L.10）

位置・065-010G。平面形・円形。規模・直径1.88m、深さ0.25m。主軸方位・— 土層断面・2層。重複関係・なし。出土遺物・小破片のみ。所見・底面に焼土ブロックが多数分布する。覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

13号土坑（第50図、P.L.10）

位置・060-995G。平面形・楕円形。規模・長径1.50m（推定）、短径1.08m、深さ0.30m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

15号土坑（第50図、P.L.10）

位置・050-005G。平面形・隅丸長方形。規模・長軸1.18m、短軸0.92m、深さ0.56m。主軸方位・N-50°-W。土層断面・3層、レンズ状堆積する。重複関係・なし。出土遺物・小破片のみ。所見・陥穴か。覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

16号土坑（第51・59図、P.L.10・40）

位置・045-000G、045-005G。平面形・隅丸長方形。規模・長軸1.85m（推定）、短軸1.25m、深さ0.93m。主軸方位・N-30°-E。土層断面・9層、傾斜にしたがい斜めに堆積する。重複関係・14・15号ピットに切られる。出土遺物・1は加曾利E4式。深鉢胴部。横位および斜位の微隆線文・沈線文区画内にL.R縄文を施文。充填縄文。2～6は加曾利E式後半。2～4は深鉢口縁部。2は表面が磨滅、隆線文区画内にR.L縄文を施文。磨消縄文。3は口唇部に横位の沈線文を施文。4は無文。5、6は深鉢胴部。5は表面が磨滅、縦位の沈線文でL.R縄文施文部と無文部を区画。充填縄文。6は縦位の沈線文でR.L縄文施文部と無文部を区画。充填縄文。所見・陥穴か。出土遺物から、本遺構の時期は加曾利E4式と考えられる。

24号土坑（第51図、P.L.10）

位置・025-005G。平面形・楕円形。規模・長径1.30m、短径0.88m、深さ0.54m。主軸方位・N-30°-W。土層断面・2層。重複関係・1号堅穴住居跡を切る。出土遺物・小破片のみ。所見・1号堅穴住

居跡との関係および覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

25号土坑 (第51・59図、P L.10・30)

位置・010-005G。平面形・楕円形。規模・長径1.00m、短径0.70m、深さ0.30m。主軸方位・N-70°-W。土層断面・3層、土器をはさみ土層が異なる。重複関係・なし。出土遺物・1は称名寺2式。深鉢。沈線文による文様は「J」字のモチーフが崩れ、上下連続する逆7字状または上下並列する逆1字状を呈し、下端部は解放されている。これらの文様間に列点刺突文を施文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は称名寺2式と考えられる。

26号土坑 (第51・60図、P L.11・40)

位置・030-000G。平面形・円形。規模・直径0.90m、深さ0.24m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・1、2は加曾利E3式。深鉢口縁部。表面が磨減、隆線文・沈線文区画内にL R縄文を施文。磨消縄文。3～6は加曾利E式後半。深鉢胴部。3は頸部を横位の隆線文で区画し、胴部は縦位の沈線文でR L縄文施文部と無文部を区画する。充填縄文。4は隆線文・沈線文による区画内にR L縄文を施文。充填縄文。5は表面が磨減、沈線文区画内にR L縄文を施文。6は条線文を施文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は加曾利E3式と考えられる。

27号土坑 (第52・60図、P L.11・40)

位置・015-015G、015-020G。平面形・円形。規模・直径2.05m、深さ0.80m。主軸方位・- 土層断面・4層、レンズ状堆積する。重複関係・なし。出土遺物・1は加曾利E3式。深鉢口縁部。沈線文による区画内に条線文を施文。2は加曾利E式後半。表面磨減、縦位の沈線文でR L縄文施文部と無文部を区画。3は称名寺1式。深鉢胴部。表面磨減、沈線文区画内にR L縄文を施文。充填縄文。4、5は堀之内1式。4は深鉢口縁部。口唇部に沈線文を施文。5は深鉢胴部。条線文を格子目状に施文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は堀之内1式と考えられる。

29号土坑 (第52・60図、P L.11・40)

位置・010-020G。平面形・円形。規模・直径1.55m、深さ0.52m。主軸方位・- 土層断面・2層、攪乱が著しい。重複関係・なし。出土遺物・1は中期後半～後期前半。深鉢胴部。表面が磨減、横位および縦位の沈線文を施文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

30号土坑 (第52・60・61図、P L.11・30・31・40)

位置・010-015G。平面形・不整な楕円形。規模・長径1.20m、短径1.00m、深さ1.42m。主軸方位・- 土層断面・5層、底面中央部にピット状の掘込みをもつが、この部分は直ちに埋められ、改めて底面が再構築されている。重複関係・なし。出土遺物・1、2は加曾利E式後半。1は深鉢胴部。縦位の沈線文でL R縄文施文部と無文部を区画。磨消縄文。2は深鉢口縁部。無文。3は称名寺1式。深鉢口縁部。波状口縁の波頂部欠損。沈線文によるV字状文の周囲にL R縄文を施文。充填縄文。4、5は堀之内1式。4は深鉢。口縁部は8単位の波状口縁、沈線文による各波頂部間に対応する渦巻文を施文。波頂部の裏面には円形刺突文。頸部は横位隆線文により区画。胴部は頸部より垂下する隆線文により6単位の区画され、各

単位には沈線文による渦巻文を施文。口縁部および胴部の渦巻文の中心部にはボテン状貼付文を施文。5は深鉢口縁部。口唇部に刺突文を施文。6、7は後期前半。6は深鉢口縁部。波状口縁の内側に円形把手を貼付。7は深鉢底部。無文。 所見・遺物の大半は2・3層からの出土。出土遺物から、本遺構の時期は堀之内1式と考えられる。

31号土坑 (第53図、P.L.11)

位置・050-025G、050-030G。 平面形・円形。 規模・直径0.77m、深さ0.16m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・小破片のみ。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

32号土坑 (第53図、P.L.11)

位置・045-025G。 平面形・円形。 規模・直径1.08m、深さ0.38m。 主軸方位・— 土層断面・2層、水平に堆積する。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

33号土坑 (第53図、P.L.12)

位置・045-025G、045-030G。 平面形・円形。 規模・直径1.20m、深さ0.12m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

34号土坑 (第53・61図、P.L.12・30・31)

位置・045-025G。 平面形・楕円形。 規模・長径1.28m、短径1.08m、深さ0.10m。 主軸方位・N-50°-E。 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・1は加曾利E式後半。深鉢底部。R.L縄文を地文に、3条の縦位の沈線文を1単位とし、4または5単位に分割。2は凹石。粗粒輝石安山岩製。表裏両面に凹加工。凹石としても使用か。 所見・出土遺物から、本遺構の時期は加曾利E式後半と考えられる。

36号土坑 (第53図、P.L.12)

位置・045-025G。 平面形・円形。 規模・直径1.11m、深さ0.10m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・22号ピットと重複するが、新旧関係は不明。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

38号土坑 (第53・61図、P.L.12・41)

位置・010-030G。 平面形・円形。 規模・直径0.60m、深さ0.25m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・1は加曾利E4式。深鉢口縁部。波状口縁部は無文。頸部以下にR縄文を羽状に施文。2は堀之内1式。深鉢口縁部。波状口縁。頸部に横位の沈線文を施文。 所見・出土遺物から、時期は堀之内1式と考えられる。

39号土坑 (第53図、P L.12)

位置・015-035G。平面形・円形。規模・直径1.20m、深さ0.08m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・小破片のみ。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

40号土坑 (第54図、P L.12)

位置・015-030G。平面形・円形。規模・直径0.90m、深さ0.20m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

41号土坑 (第54図、P L.12)

位置・015-030G、020-030G。平面形・円形。規模・直径1.06m、深さ0.14m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・小破片のみ。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

42号土坑 (第54図、P L.12)

位置・005-025G。平面形・円形。規模・直径0.84m、深さ0.40m。主軸方位・- 土層断面・2層、レンズ状堆積する。重複関係・なし。出土遺物・小破片のみ。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

43号土坑 (第54図、P L.13)

位置・020-030G。平面形・円形。規模・直径1.00m、深さ0.26m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・小破片のみ。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

44号土坑 (第54・61図、P L.13・41)

位置・020-030G。平面形・円形。規模・直径1.10m、深さ0.38m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・1、2は加曾利E式後半。深鉢胴部。縦位の沈線文でR L縄文施文部と無文部を区画。充填縄文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は加曾利E式後半と考えられる。

45号土坑 (第54図、P L.13)

位置・020-025G。平面形・不整な楕円形。規模・長径0.88m、短径0.75m、深さ0.27m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

46号土坑 (第54図、P L.13)

位置・020-025G、025-025G。平面形・円形。規模・直径1.21m、深さ0.26m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、

本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

47号土坑 (第54・61図、P L.13・41)

位置・025-030G。平面形・円形。規模・直径0.70m、深さ0.23m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・62号土坑を切る。出土遺物・1は中期後半～後期前半。浅鉢口縁部。口唇部に横位の沈線文を施文。2、3は堀之内1式。2は深鉢口縁部。口唇部に円形刺突文を施文。3は深鉢胴部。n字状の沈線文を施文。4は後期前半。深鉢把手。所見・出土遺物から、本遺構の時期は堀之内1式と考えられる。

48号土坑 (第54図、P L.13)

位置・025-025G、025-030G。平面形・円形。規模・直径0.70m、深さ0.08m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・62号土坑を切る。出土遺物・小破片のみ。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

49号土坑 (第55図、P L.13)

位置・025-025G。平面形・円形。規模・直径0.52m、深さ0.26m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

50号土坑 (第55図、P L.13)

位置・995-020G。平面形・隅丸方形。規模・主軸1.22m、深さ0.50m。主軸方位・N-2°-W。土層断面・4層、水平に堆積する。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

51号土坑 (第55・61図、P L.13・30・41)

位置・015-035G、020-035G。平面形・不整な楕円形。規模・長径1.95m、短径1.80m、深さ1.08m。主軸方位・- 土層断面・8層、底面中央部にピット状の掘込みをもつが、この部分は直ちに埋められ、改めて底面が再構築されている。重複関係・なし。出土遺物・1は加曾利E式後半。深鉢胴部。縦位の沈線文でR L縄文施文部と無文部を区画。磨消縄文。2は打製石斧。黒色頁岩製。短冊形。刃部欠損。所見・平面形、土層断面とも30号土坑とほぼ同様の構造である。出土遺物および覆土の状態、また30号土坑との類似性から、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

52号土坑 (第55・62図、P L.14・30・41)

位置・010-025G。平面形・不整形。規模・長軸0.72m、短軸0.65m、深さ0.16m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・1は加曾利E 3式。深鉢。沈線文により区画された口縁部文様帯をもち、胴部は縦位沈線文により施文部と無文部を区画。口縁部および胴部上半は条線文、胴部下半はL R縄文を施文。磨消縄文。2は加曾利E式後半。深鉢胴部。縦位の沈線文でL R縄文施文部と無文部を区画。磨消縄文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は加曾利E 3式と考えられる。

53号土坑 (第56・62図、P.L.14・41)

位置・025-020G。平面形・円形。規模・直径1.42m、深さ0.63m。主軸方位・- 土層断面・3層、水平に堆積する。重複関係・なし。出土遺物・1、2は中期後半～後期前半。深鉢口縁部。1は表面が磨滅、付加糸縄文を羽状に施文。2は付加糸縄文を施文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

54号土坑 (第56図、P.L.14)

位置・035-020G、040-020G。平面形・円形。規模・直径1.06m、深さ0.41m。主軸方位・- 土層断面・2層、水平に堆積する。重複関係・なし。出土遺物・小破片のみ。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

55号土坑 (第56図、P.L.14)

位置・005-025G。平面形・円形。規模・直径1.21m、深さ0.97m。主軸方位・- 土層断面・7層、傾斜にしたがい斜めに堆積する。重複関係・なし。出土遺物・小破片のみ。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

56号土坑 (第56・62・63図、P.L.14・41)

位置・020-020G。平面形・円形。規模・直径1.25m、深さ0.37m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・11号壑穴住居跡の炉を切る。出土遺物・1～11は加曾利E式後半。3～5は深鉢口縁部。3は無文。4は渦巻状の沈線文を施文。5は隆線文・沈線文でL R縄文を区画する。磨消縄文。1、2、6～11は深鉢胴部。1はL R縄文を地文に弧状の隆線文・沈線文を施文。2は表面が磨滅、連弧状の隆線文下を縦位の沈線文によりR L縄文施文部と無文部を区画。充填縄文。6、7、9、10は縦位の沈線文でL R縄文施文部と無文部を区画。磨消縄文。8は縦位の沈線文でR L縄文施文部と無文部を区画。磨消縄文。11は表面が磨滅、R L縄文を施文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は中期加曾利E式後半と考えられる。

57号土坑 (第56・63図、P.L.14・41)

位置・020-020G。平面形・円形。規模・直径1.20m、深さ0.30m。主軸方位・- 土層断面・2層。重複関係・なし。出土遺物・1は加曾利E式後半。深鉢胴部。縦位の沈線文でR L縄文施文部と無文部を区画。磨消縄文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は加曾利E式後半と考えられる。

58号土坑 (第57・63図、P.L.14・15・30・31・41)

位置・020-015G、020-020G。平面形・円形。規模・直径1.28m、深さ0.35m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・1、2は加曾利E式後半。1は深鉢口縁部。口唇直下に横位の沈線文を施文し、以下のR L縄文施文部と口唇部を区画。磨消縄文。2は深鉢底部。縦位の条線文を施文、胴部を6区画に分割する。3は石炭。チャート製。所見・出土遺物から、本遺構の時期は加曾利E式後半と考えられる。

59号土坑 (第57図、P.L.15)

位置・010-020G。平面形・円形。規模・直径0.88m、深さ0.50m。主軸方位・一 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

60号土坑 (第57図、P.L.15)

位置・010-025G。平面形・いびつな円形。規模・直径0.55m、深さ0.17m。主軸方位・一 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

61号土坑 (第57・63図、P.L.15・30)

位置・035-015G。平面形・円形。規模・直径0.97m、深さ0.56m。主軸方位・一 土層断面・2層、レンズ状堆積する。重複関係・なし。出土遺物・1は打製石斧。黒色安山岩製。刃部欠損。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

62号土坑 (第57図、P.L.15)

位置・025-025G、025-030G。平面形・円形。規模・直径1.10m、深さ0.39m。主軸方位・一 土層断面・2層。重複関係・47・48号土坑に切られる。出土遺物・小破片のみ。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

68号土坑 (第57・63図、P.L.15・42)

位置・000-020G。平面形・円形。規模・直径1.18m、深さ0.50m。主軸方位・一 土層断面・2層、水平に堆積する。重複関係・なし。出土遺物・1は加曾利E3式。深鉢頸部。口縁部下部の横位嵌手状の沈線文で区画、区画内および下に条線文を施文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は加曾利E3式と考えられる。

70号土坑 (第57・64図、P.L.15・16・31)

位置・005-010G。平面形・円形。規模・直径0.88m、深さ0.43m。主軸方位・一 土層断面・2層、レンズ状堆積する。重複関係・なし。出土遺物・1は加曾利E2式。深鉢。口縁部は欠損した把手により4分割。口縁部文様帯は隆線文により8単位に区画され、区画内には縦位の沈線文を施文。頸部無文帯を有し、横位の隆線文で胴部と区画する。胴部はRL縄文を地文に把手位置に対応する縦位隆線文で4単位に区画。所見・土坑底面に、下半部を欠く深鉢を口縁部を下に伏せて置き、その上に円礫を置く。墓坑か。出土遺物から、本遺構の時期は加曾利E2式と考えられる。

71号土坑 (第58・63図、P.L.16・42)

位置・030-010G、030-015G、035-010G、035-015G。平面形・円形。規模・直径1.17m、深さ1.42m。主軸方位・一 土層断面・9層、ほぼ水平に堆積する。重複関係・なし。出土遺物・1は加曾利E2式後半。深鉢胴部。条線文を施文。2～6は堀之内1式。2、3は深鉢口縁部。3は波状口縁。口唇

第3章 検出された遺構と遺物

部に隆線文を施文し、斜位に隆線文を垂下。隆線文の分岐部には円形刺突文を施文。2は口唇部に横位の沈線文を施文。4は深鉢胴部。弧状の沈線文を施文。5は深鉢の円形把手。6は浅鉢口縁部。口唇部の横位沈線文区画内に円形刺突文を施文。 所見・出土遺物から、本遺構の時期は堀之内1式と考えられる。

72号土坑 (第58図、P.L.16)

位置・025-015G、030-015G。 平面形・いびつな円形。 規模・直径1.00m、深さ0.24m。 主軸方位・— 土層断面・2層、攪乱が著しい。 重複関係・9号竪穴住居跡に切られる。 出土遺物・小破片のみ。 所見・重複関係から、本遺構の時期は中期加曾利E3式期以前と考えられる。

73号土坑 (第58図、P.L.16)

位置・025-015G。 平面形・円形。 規模・直径0.90m、深さ0.46m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・9号竪穴住居跡に切られる。 出土遺物・小破片のみ。 所見・重複関係から、本遺構の時期は中期加曾利E3式期以前と考えられる。

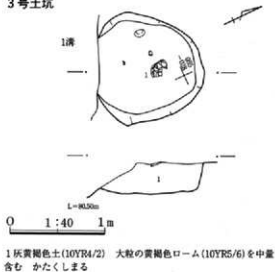
74号土坑 (第58図、P.L.16)

位置・025-015G。 平面形・円形。 規模・直径0.93m、深さ0.33m。 主軸方位・— 土層断面・2層、レンズ状堆積する。 重複関係・9号竪穴住居跡に切られる。 出土遺物・小破片のみ。 所見・重複関係から、本遺構の時期は中期加曾利E3式期以前と考えられる。

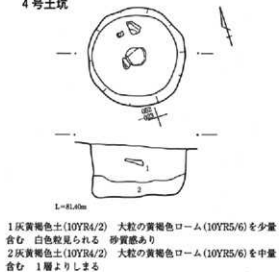
75号土坑 (第58・63図、P.L.17・42)

位置・025-015G、030-015G。 平面形・円形。 規模・直径1.30m、深さ0.62m。 主軸方位・— 土層断面・3層、レンズ状堆積する。 重複関係・9号竪穴住居跡を切る。 出土遺物・1、2は堀之内1式。深鉢口縁部。1は口唇部に横位沈線文および刻目文による文様を施文。2は口唇部に円形刺突文を施文。 所見・出土遺物から、本遺構の時期は堀之内1式と考えられる。

3号土坑

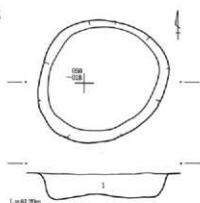


4号土坑



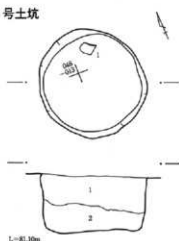
第49図 3・4号土坑平面・断面

5号土坑



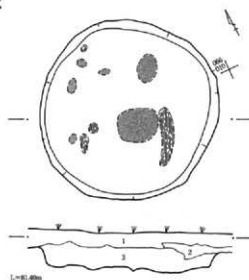
1 灰黄褐色土(10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を中量含む 白色粒見られる かたくしまる

6号土坑



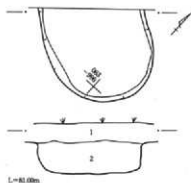
1 灰黄褐色土(10YR4/2) 大粒のふい黄褐色土(10YR5/4)・小粒のふい黄褐色土(10YR5/4)を中量含む 炭化粒・白色粒見られる 弱い砂質感あり
2 灰黄褐色土(10YR4/2) 大粒のふい黄褐色土(10YR5/4)を多量含む 白色粒見られる

7号土坑



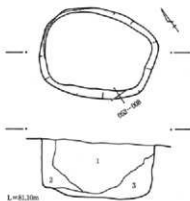
1 暗褐色土(10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)・小粒の黄褐色ローム(10YR5/8)を少量含む 砂質感あり(表土)
2 暗褐色土(10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を多量含む 焼土粒・炭化粒見られる
3 ぶい黄褐色土(10YR4/3) 小粒の焼土粒・炭化物粒を中量、大粒の灰黄褐色土粒(10YR4/2)を少量含む 白色粒見られる しまりゆるし 砂質感あり

13号土坑



1 暗褐色土(10YR3/4) 大粒・小粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を少量含む 砂質感あり(表土)
2 暗褐色土(10YR3/3) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を少量、小粒の黒褐色土粒(10YR3/1)を微量含む 炭化粒見られる

15号土坑



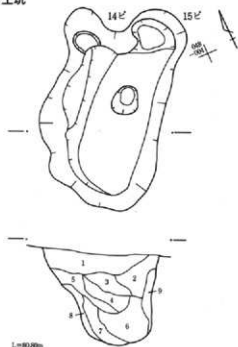
1 暗褐色土(10YR3/4) 大粒の褐色土(10YR4/6)・小粒の白色粒を微量含む しまりゆるし
2 褐色土(10YR4/4) 小粒の暗褐色土(10YR3/4)・白色粒見られる
3 暗褐色土(10YR3/4) 小粒の白色粒見られる しまりゆるし

0 1:40 1m

第50図 5～7・13・15号土坑平面・断面

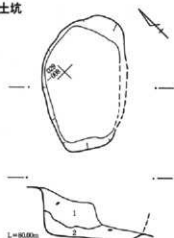
第3章 検出された遺構と遺物

16号土坑



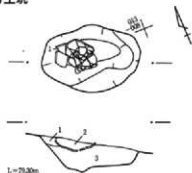
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 小粒のぶい黄褐色土(10YR5/4)を少量、白色粒を微量含む 炭化粒見られる しまりゆるし 砂質感あり
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 小粒のぶい黄褐色土(10YR5/4)を中量焼土粒・炭化粒見られる しまりゆるし
- 3 ぶい黄褐色土(10YR5/4)と灰黄褐色土(10YR4/2)の混土 ぶい黄褐色土の割合が多い しまりゆるし
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 小粒のぶい黄褐色土(10YR5/4)を微量含む 焼土粒が見られる

24号土坑



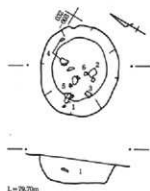
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 大粒の褐色土(10YR4/6)を中量含む 炭化粒・白色粒見られる
- 2 黒褐色土(10YR2/3) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を微量含む 炭化粒・焼土粒が見られる

25号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒見られる かくくしまる
- 2 ぶい黄褐色土(10YR4/3)と黒褐色土(10YR3/2)の混土 ぶい黄褐色土の割合が多い 焼土粒・炭化粒見られる
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 小粒のぶい灰黄褐色土粒(10YR4/2)を微量含む 焼土粒・炭化粒見られる しまりゆるし

26号土坑

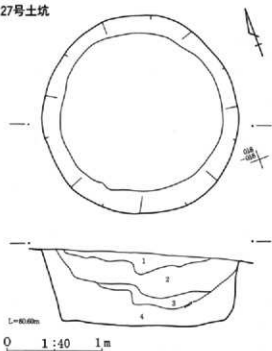


- 1 ぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土粒・炭化粒・白色粒見られる

0 1:40 1m

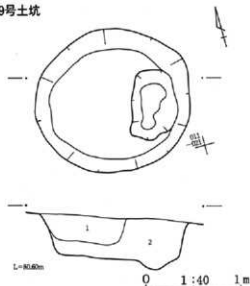
第51図 16・24～26号土坑平面・断面

27号土坑



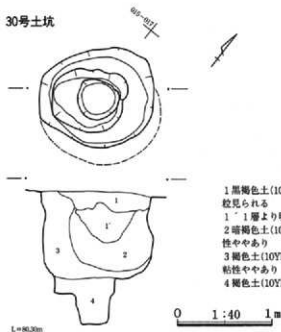
- 1 暗褐色土(10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を多量含む
しまりゆるし
- 2 褐色土(10YR4/6) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を多量含む
炭化粒見られる しまりゆるし
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を少量含む
1、2層に比べしまる
- 4 褐色土(10YR4/6) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を多量含む
小粒の黒褐色土(10YR2/3)を微量含む 粘性ややあり

29号土坑



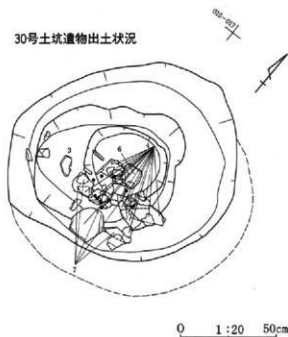
- 1 褐色土(10YR4/4) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を少量含む
しまりゆるし 粘性ややあり
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を少量含む
しまりゆるし

30号土坑



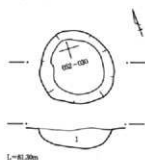
- 1 黒褐色土(10YR2/3) 大粒の褐色土(10YR4/4)を多量含む 炭化
粒見られる
- 1' 1層より明るい
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 小粒の黒褐色土(10YR2/3)を少量含む 粘
性ややあり
- 3 褐色土(10YR4/6) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を多量含む
粘性ややあり
- 4 褐色土(10YR4/6) 小粒の炭化物粒を微量含む しまりゆるし

30号土坑遺物出土状況



第52図 27・29・30号土坑平面・断面

31号土坑

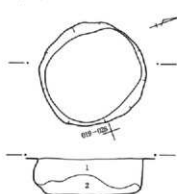


L=81.30m

31号土坑

1 灰黄褐色土(10YR4/2) 大粒・小粒のぶい黄褐色土(10YR5/4)を中量含む 炭化粒・白色粒見られる 砂質感あり

32号土坑

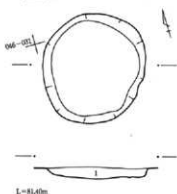


L=81.30m

32号土坑

1 灰黄褐色土(10YR4/2) 大粒・小粒のぶい黄褐色土ブロック(10YR5/4)を中量含む 炭化粒・白色粒が見られる 砂質感あり
2 灰黄褐色土(10YR4/2) 大粒のぶい黄褐色土(10YR5/4)を多量含む 白色粒見られる

33号土坑

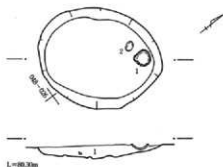


L=81.40m

33号土坑

1 灰黄褐色土(10YR4/2) 大粒・小粒のぶい黄褐色土(10YR5/4)を中量含む 炭化粒・白色粒見られる 砂質感あり

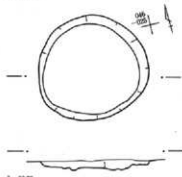
34号土坑



L=89.30m

1 灰黄褐色土(10YR4/2) 大粒・小粒のぶい黄褐色土(10YR5/4)を中量含む 炭化粒・白色粒見られる 砂質感あり

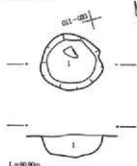
36号土坑



L=80.30m

1 灰黄褐色土(10YR4/2) 大粒・小粒のぶい黄褐色土(10YR5/4)を中量含む 炭化粒・白色粒見られる しまりゆるし 砂質感あり

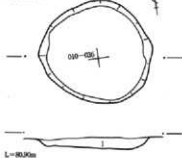
38号土坑



L=90.90m

1 黒褐色土(10YR3/2) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を少量含む 炭化粒・白色粒見られる しまりゆるし

39号土坑



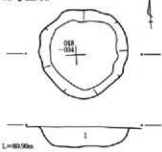
L=89.90m

1 灰黄褐色土(10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム(10YR5/6)を少量含む 白色粒見られる かくしまる

0 1:40 1m

第53図 31～34・36・38・39号土坑平面・断面

40号土坑



L=80.90m

40号土坑

1 黒褐色土 (10YR3/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を少量含む 炭化粒・白色粒見られる しまりゆるし

41号土坑

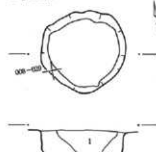
1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を少量含む 白色粒見られる かたたくまる

41号土坑



L=80.90m

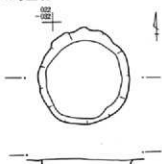
42号土坑



L=80.80m

42号土坑
1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) ・白色粒見られる
2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を少量含む 炭化粒・白色粒見られる

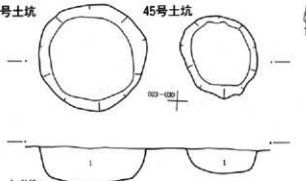
43号土坑



L=80.90m

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 小粒の褐色土 (10YR4/4) を少量、大粒の褐色土 (10YR4/4) を微量含む 炭化粒・白色粒見られる

44号土坑



L=81.00m

44号土坑

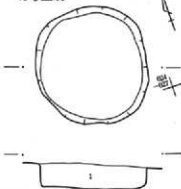
1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 小粒の褐色土 (10YR4/4) を少量、大粒の褐色土 (10YR4/4) を微量含む 炭化粒・白色粒見られる

45号土坑

45号土坑

1 におい黄褐色土 (10YR5/3) 黒褐色土 (10YR3/2) の混土 大粒の褐色土 (10YR4/4) ・炭化粒・白色粒見られる

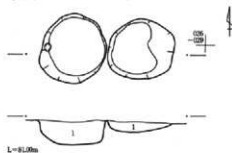
46号土坑



L=81.00m

1 におい黄褐色土 (10YR5/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) を多量含む 小粒の褐色土 (10YR4/4) 見られる

47号土坑



L=81.00m

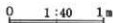
47号土坑

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) ・炭化粒・白色粒見られる

48号土坑

48号土坑

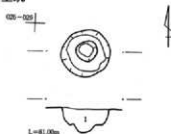
1 におい黄褐色土 (10YR5/3) 小粒の黄褐色ローム (10YR5/6) 見られる



第54図 40～48号土坑平面・断面

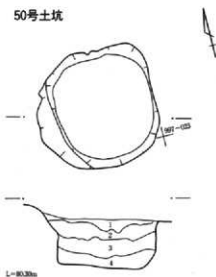
第3章 検出された遺構と遺物

49号土坑



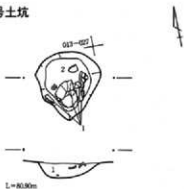
1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒・小粒の褐色土 (10YR4/4) を少量含む 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) ・炭化粒・白色粒見られる

50号土坑



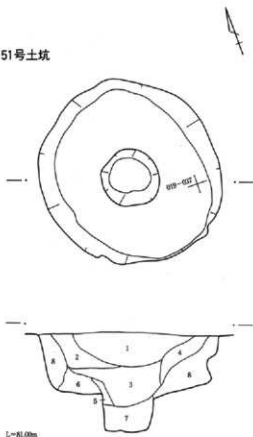
1 暗褐色土 (10YR3/3) 白色粒見られる しまりゆるし
2 褐色土 (10YR4/4) 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) ・黄褐色ローム (10YR5/6) ・白色粒見られる 1層よりしまる
3 褐色土 (10YR4/4) しまりゆるし 粘性ややあり
4 褐色土 (10YR4/4)

52号土坑



1 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化粒を微量含む 焼土粒見られる しまりゆるし

51号土坑

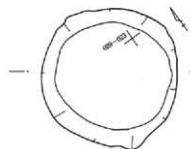


1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 小粒の黄褐色粒 (10YR5/6) を多量含む 黒褐色土 (10YR3/2) ・炭化粒・白色粒見られる 砂質感あり
2 黒褐色土 (10YR3/2) 小粒の黄褐色粒 (10YR5/6) を多量含む 黄褐色ローム (10YR5/6) ・炭化粒・白色粒見られる
3 黒褐色土 (10YR3/2) 小粒の灰黄褐色土 (10YR4/2) を少量含む 黄褐色ローム (10YR5/6) ・炭化粒・白色粒見られる
4 黒褐色土 (10YR3/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を多量、白色粒を少量含む 炭化粒見られる 砂質感あり
5 灰黄褐色土 (10YR4/2) 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) ・炭化粒・白色粒見られる
6 におい黄褐色土 (10YR5/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) ・炭化粒・白色粒見られる
7 におい黄褐色土 (10YR5/4) 小粒の黄褐色ローム (10YR5/6) ・炭化粒・黄褐色粒・白色粒見られる しまりゆるし
8 黄褐色ローム (10YR5/6) 攪拌されている

0 1:40 1m

第55図 49～52号土坑平面・断面

53号土坑



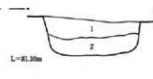
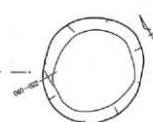
53号土坑

1暗褐色土 (10YR3/3) 小粒の黄褐色粒 (10YR5/6) ・にぶい黄褐色土粒 (10YR5/6) を中量、白色粒を微量含む 砂質感あり
2暗褐色土 (10YR3/3) とにぶい黄褐色土 (10YR5/4) の混土 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む 黄褐色粒・白色粒見られる 砂質感あり
3にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黄褐色ローム (10YR5/6) ・黄褐色粒・白色粒見られる

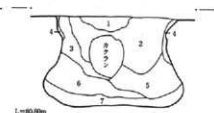
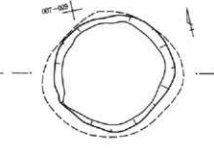
54号土坑

1灰黄褐色土 (10YR4/2) 小粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) ・白色粒が見られる 砂質感あり
2褐色土 (10YR4/4) 小粒の黒褐色土 (10YR2/2) ・白色粒が見られる

54号土坑



55号土坑



55号土坑

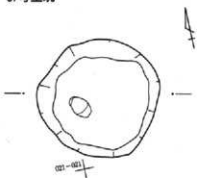
1にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 黄褐色粒 (10YR5/6) を少量含む 炭化粒・白色粒見られる
2灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) ・小粒の黄褐色粒 (10YR5/6) を中量含む 炭化粒・白色粒見られる
3灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色ローム (10YR5/6) ・黄褐色粒 (10YR5/6) ・炭化粒・白色粒見られる
4黒褐色土 (10YR3/2) 小粒の灰黄褐色土 (10YR4/2) 見られる しまりゆるし
5灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を多量含む 黒褐色土 (10YR3/1) ・白色粒見られる しまりややゆるし
6灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を多量含む 黄褐色粒 (10YR5/6) ・白色粒見られる
7灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色ローム (10YR5/6) ・黄褐色粒 (10YR5/6) 見られる しまりゆるし

56号土坑



1褐色土 (10YR4/6) 小粒の黄褐色ローム (10YR5/8) を多量含む 小粒の焼土粒見られる

57号土坑



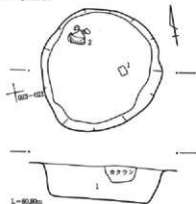
1褐色土 (10YR4/6) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/8) を多量含む 炭化粒・焼土粒見られる
1' 1層より明るい

0 1:40 1m

第56図 53～57号土坑平面・断面

第3章 検出された遺構と遺物

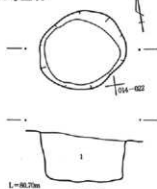
58号土坑



58号土坑

1 褐色土 (10YR4/6) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/8) を少量含む しまりゆるし 粘性あり

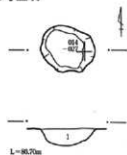
59号土坑



59号土坑

1 におい黄褐色土(10YR4/3)と黒褐色土(10YR3/1)の混土 におい黄褐色土の割合が多い 炭化粒・白色粒が見られる 砂質感あり

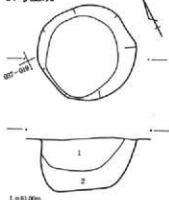
60号土坑



60号土坑

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) と黒褐色土 (10YR3/2) の混土 灰黄褐色土の割合が多い 炭化粒・白色粒見られる しまりゆるし

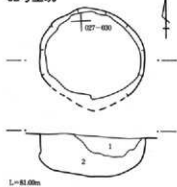
61号土坑



61号土坑

1 暗褐色土 (10YR3/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/1) を中量含む黄褐色ローム (10YR5/6) ・炭化粒・白色粒が見られる しまりゆるし
2 暗褐色土 (10YR3/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/1) が見られる

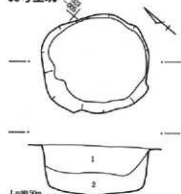
62号土坑



62号土坑

1 暗褐色土 (10YR3/3) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/8) を中量含む 白色粒見られる
2 褐色土 (10YR4/6) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/8) を中量含む 白色粒見られる 粘性ややあり

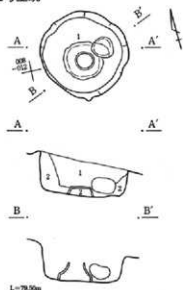
68号土坑



68号土坑

1 暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の褐色土 (10YR4/6) を中量含む 炭化粒・白色粒見られる
2 暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の褐色土 (10YR4/6) を微量含む 炭化粒見られる

70号土坑



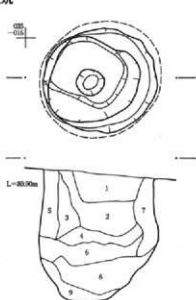
70号土坑

1 黒褐色土 (10YR2/3) 小粒の暗褐色土 (10YR3/4) を多量含む 白色粒見られる
2 暗褐色土 (10YR3/4) 小粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を多量含む かくたくしまる 粘性ややあり

第57図 58～62・68・70号土坑平面・断面

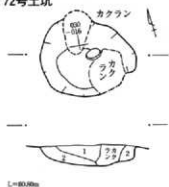
0 1:40 1m

71号土坑



- 1にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 炭化粒を中量含む 小粒の黄褐色ローム (10YR5/6) ・焼土粒見られる しまりゆるし 砂質感あり
- 2にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 炭化粒・白色粒見られる しまりゆるし 砂質感あり
- 3暗褐色土 (10YR3/3) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を少量含む 白色粒見られる しまりゆるし 砂質感あり
- 4にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 炭化粒・白色粒見られる しまりゆるし
- 5褐色土 (10YR4/4) 炭化粒見られる しまりゆるし
- 6暗褐色土 (10YR3/3) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を多量含む 1~3層に比べしる
- 7褐色土 (10YR4/4) 小粒の白色粒見られる しまりゆるし
- 8黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色ローム (10YR5/6) ・炭化粒が見られる 6層と同程度のしまり 砂質感あり
- 9暗褐色土 (10YR3/3) と黒褐色土 (10YR3/2) の混土 褐色土 (10YR4/4) 見られる

72号土坑



72号土坑

- 1褐色土 (10YR4/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む しまりゆるし 粘性あり
- 2褐色土 (10YR4/4) 大粒のにぶい黄褐色粘土 (10YR4/3) を微量含む 粘性あり

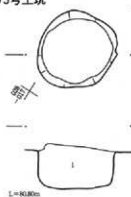
73号土坑

- 1褐色土 (10YR4/4) 大粒の暗褐色粘土 (10YR3/4) を中量含む 粘性あり

75号土坑

- 1暗褐色土 (10YR3/4) 小粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を少量含む 炭化粒・白色粒見られる 粘性ややあり
- 2暗褐色土 (10YR3/4) 小粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量、小粒の褐色土 (10YR4/4) を少量含む 炭化粒見られる 粘性ややあり
- 3暗褐色土 (10YR3/4) 小粒大の褐色土 (10YR4/4) を多量含む 炭化粒・焼土粒見られる

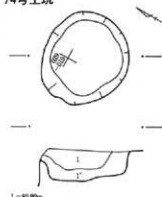
73号土坑



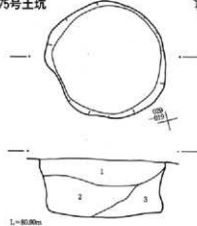
74号土坑

- 1褐色土 (10YR4/4) 小粒の黄褐色ローム (10YR5/8) を少量含む 炭化粒見られる
- 1' 粘性ややあり

74号土坑

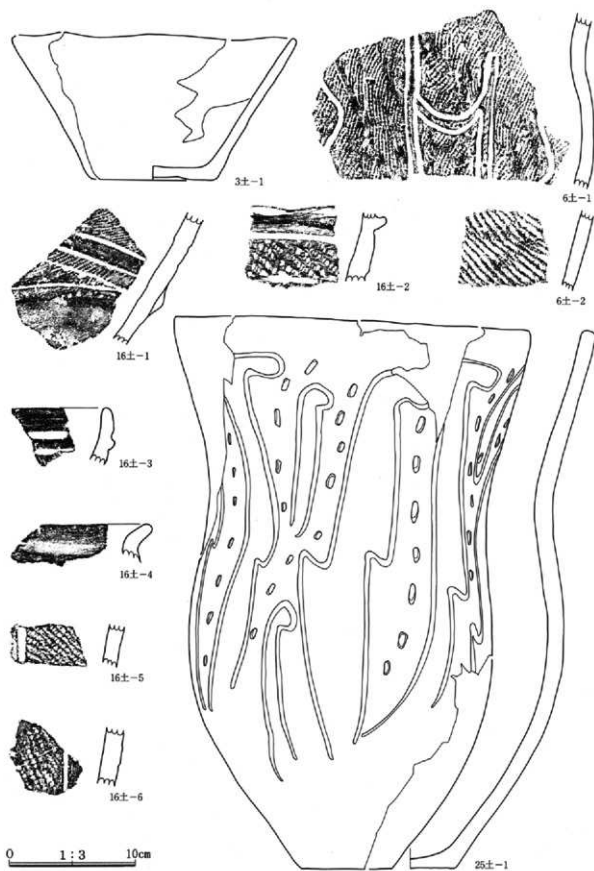


75号土坑

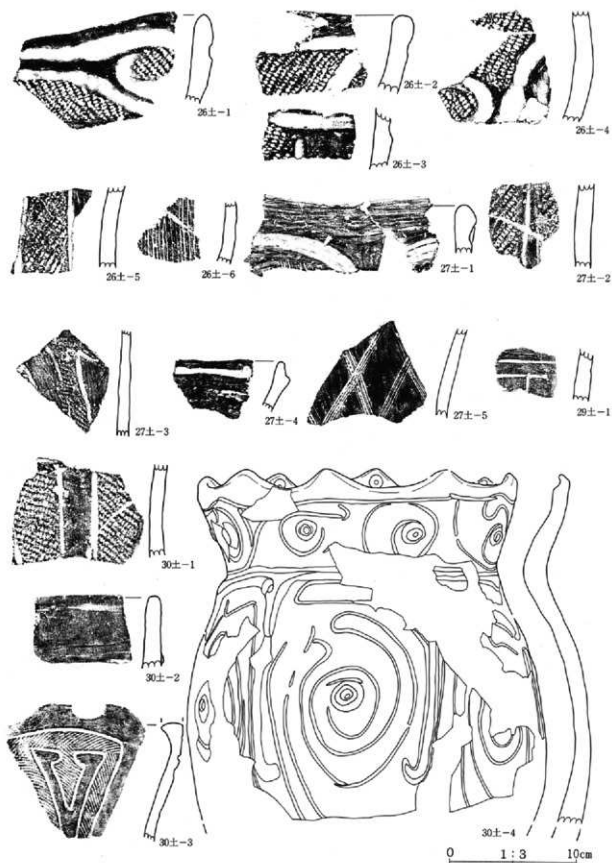


0 1:40 1m

第58図 71~75号土坑平面・断面

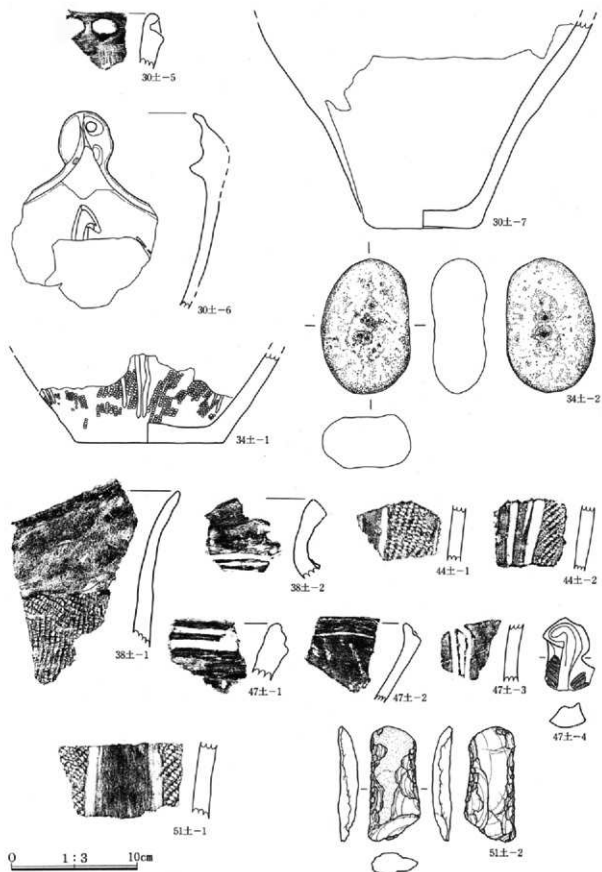


第59図 3・6・16・25号土坑出土遺物

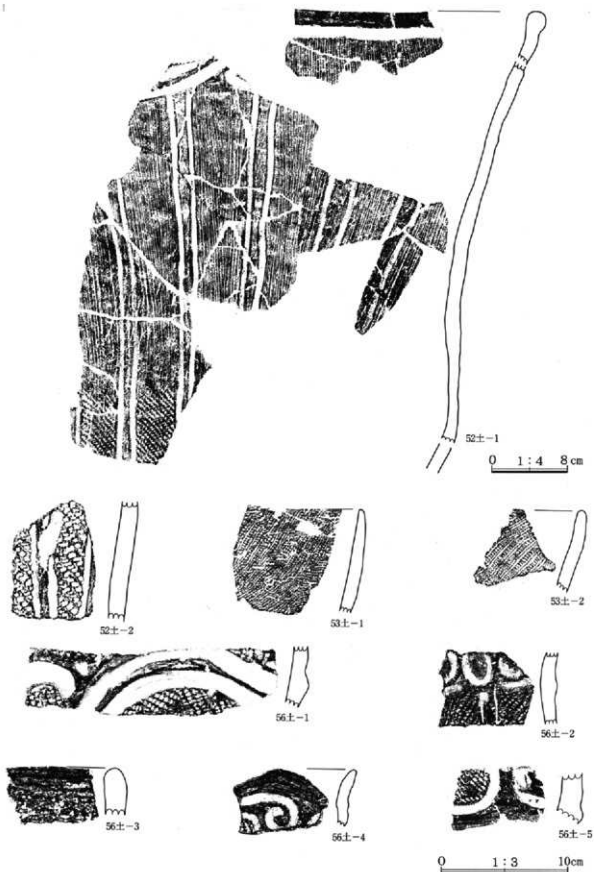


第60図 26・27・29・30号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

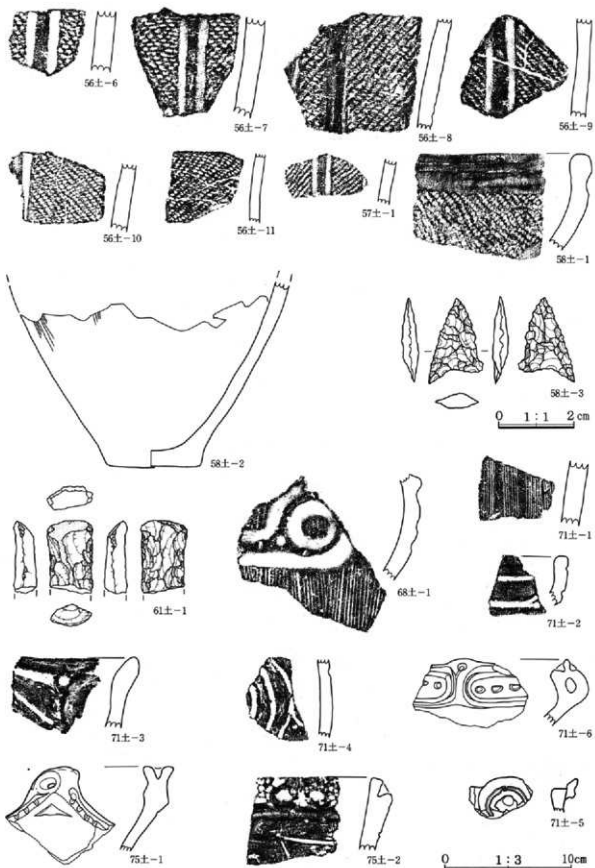


第61図 30・34・38・44・47・51号土坑出土遺物

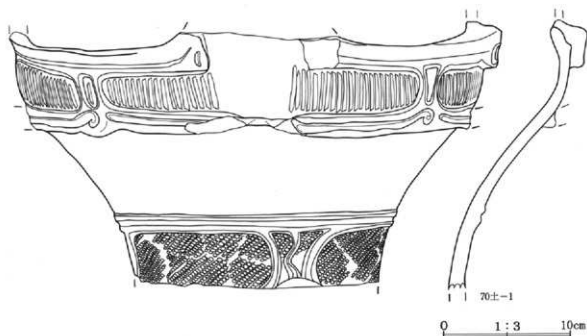


第62図 52・53・56号土坑出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



第63図 56-58・61・68・71・75号土坑出土遺物



第64図 70号土坑出土遺物

16号ビット (第65図、P.L.17・42)

位置・020-005G。平面形・円形。規模・直径0.75m、深さ0.80m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・1～3は加曾利E式後半。深鉢胴部。表面が磨滅、条線文を施文。同一個体。4は称名寺1式。深鉢胴部。く字状の沈線文でLR縄文施文部と無文部を区画。所見・2・3号堅穴住居跡をささみ17号ビットと対をなす位置にある。位置関係および出土遺物から、本遺構の時期は後期前半と考えられる。

17号ビット (第65図、P.L.17)

位置・020-010G。平面形・楕円形。規模・長径0.60m、短径0.45m、深さ0.70m。主軸方位・N-7°-E。土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・2・3号堅穴居跡をささみ16号ビットと対をなす位置にある。位置関係から、本遺構の時期は後期前半と考えられる。

18・19・20・21号ビット (第65図、P.L.17)

位置・005-010G。平面形・18-21号ビットとも円形。規模・18号ビット直径0.30m、深さ0.14m、19号ビット直径0.30m、深さ0.14m、20号ビット直径0.34m、深さ0.10m、21号ビット直径0.33m、深さ0.10m、ビット列主軸2.11m。主軸方位・N-21°-E。土層断面・18号ビット1層のみ、19号ビット1層のみ、20号ビット1層のみ、21号ビット1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・18号ビットなし、19号ビットなし、20号ビットなし、21号ビット小破片のみ。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

22号ピット (第65図、P L.17)

位置・045-025 G。 平面形・不整形。 規模・長軸0.30m、深さ0.16m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・36号土坑と重複するが、新旧関係は不明。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

23号ピット (第65図、P L.17)

位置・050-025 G。 平面形・円形。 規模・直径0.26m、深さ0.20m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

24号ピット (第65図、P L.17)

位置・995-030 G。 平面形・円形 (推定)。 規模・直径0.46m、深さ0.46m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

25号ピット (第65図、P L.17)

位置・995-030 G。 平面形・円形。 規模・直径0.60m、深さ0.42m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

26号ピット (第65図、P L.18)

位置・995-020 G。 平面形・円形。 規模・直径0.33m、深さ0.35m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

27号ピット (第65図、P L.18)

位置・995-020 G。 平面形・円形。 規模・直径0.40m、深さ0.16m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・小破片のみ。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

28号ピット (第65図)

位置・995-025 G。 平面形・楕円形。 規模・長径0.40m、短径0.30m、深さ0.28m。 主軸方位・N-90°。 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

29号ピット (第65図、P L.18)

位置・995-025 G。 平面形・不整形。 規模・長軸0.48m、短軸0.32m、深さ0.25m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、

本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

30号ピット (第66図、P.L.18)

位置・995-030G。平面形・円形。規模・直径0.35m、深さ0.28m。主軸方位・一 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

31号ピット (第66図、P.L.18)

位置・995-030G。平面形・円形。規模・直径0.32m、深さ0.42m。主軸方位・一 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

32号ピット (第66図、P.L.18)

位置・995-035G。平面形・円形。規模・直径0.22m、深さ0.18m。主軸方位・一 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

33号ピット (第66図、P.L.18)

位置・000-030G。平面形・不整形。規模・長軸0.52m、短軸0.40m、深さ0.30m。主軸方位・一 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

34号ピット (第66図、P.L.18)

位置・000-030G。平面形・円形。規模・直径0.28m、深さ0.32m。主軸方位・一 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

35号ピット (第66図、P.L.18)

位置・005-040G。平面形・円形。規模・直径0.44m、深さ0.20m。主軸方位・一 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

36号ピット (第66図、P.L.19)

位置・005-035G。平面形・円形。規模・直径0.28m、深さ0.14m。主軸方位・一 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

37号ピット (第66図、P L.19)

位置・005-035 G。 平面形・円形。 規模・直径0.50m、深さ0.25m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

38号ピット (第66図、P L.19)

位置・005-035 G。 平面形・円形。 規模・直径0.33m、深さ0.11m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

39号ピット (第66図、P L.19)

位置・005-030 G。 平面形・円形。 規模・直径0.22m、深さ0.26m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

40号ピット (第66図、P L.19)

位置・005-030 G。 平面形・円形。 規模・直径0.22m、深さ0.27m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

41号ピット (第66図、P L.19)

位置・005-035 G。 平面形・円形。 規模・直径0.24m、深さ0.40m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

42号ピット (第66図、P L.19)

位置・010-035 G。 平面形・円形。 規模・直径0.36m、深さ0.40m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

43号ピット (第67図、P L.19)

位置・010-030 G。 平面形・円形。 規模・直径0.24m、深さ0.06m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

44号ピット (第67図、P L.19)

位置・000-030 G。 平面形・楕円形。 規模・長径0.48m、短径0.34m、深さ0.12m。 主軸方位・N-37°-W。 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺

構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

45号ピット (第67図、P.L.19)

位置・010-030G。平面形・円形。規模・直径0.30m、深さ0.20m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

46号ピット (第67図、P.L.19)

位置・010-035G。平面形・円形。規模・直径0.30m、深さ0.10m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

47号ピット (第67図、P.L.19)

位置・010-035G。平面形・円形。規模・直径0.30m、深さ0.18m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

48号ピット (第67図、P.L.19)

位置・010-035G。平面形・不整形。規模・長軸0.56m、深さ0.23m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

49号ピット (第67図、P.L.19)

位置・010-035G、010-040G。平面形・円形。規模・直径0.36m、深さ0.24m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

51号ピット (第67図、P.L.19・42)

位置・025-035G。平面形・円形。規模・直径0.22m、深さ0.12m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・1は後期前半。深鉢口縁部。無文。所見・出土遺物から、本遺構の時期は後期前半と考えられる。

52号ピット (第67図、P.L.20)

位置・025-035G。平面形・円形。規模・直径0.32m、深さ0.24m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

53号ピット (第67図、P L.20)

位置・025-030 G。 平面形・円形。 規模・直径0.50m、深さ0.42m。 主軸方位・ - 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

54号ピット (第67図、P L.20)

位置・000-025 G。 平面形・円形。 規模・直径0.30m、深さ0.42m。 主軸方位・ - 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

55号ピット (第67図)

位置・025-025 G。 平面形・円形。 規模・直径0.30m、深さ0.15m。 主軸方位・ - 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

56号ピット (第68図)

位置・025-025 G。 平面形・円形。 規模・直径0.30m、深さ0.18m。 主軸方位・ - 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・小破片のみ。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

57号ピット (第68図、P L.20)

位置・015-025 G。 平面形・円形。 規模・直径0.38m、深さ0.18m。 主軸方位・ - 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

58号ピット (第68図、P L.20)

位置・020-025 G。 平面形・円形。 規模・直径0.28m、深さ0.18m。 主軸方位・ - 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

59号ピット (第68図、P L.20)

位置・020-030 G。 平面形・円形。 規模・直径0.30m、深さ0.42m。 主軸方位・ - 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

60号ピット (第68図、P L.20)

位置・020-030 G。 平面形・円形。 規模・直径0.24m、深さ0.33m。 主軸方位・ - 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期

は中期後半～後期前半と考えられる。

61号ピット (第68図、P L.20)

位置・020-025 G。平面形・円形。規模・直径0.18m、深さ0.10m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

62号ピット (第68図、P L.21)

位置・025-025 G。平面形・円形。規模・直径0.28m、深さ0.14m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

63号ピット (第68図、P L.21)

位置・025-030 G。平面形・円形。規模・直径0.20m、深さ0.12m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

64号ピット (第68図、P L.21)

位置・025-030 G。平面形・円形。規模・直径0.40m、深さ0.10m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

65号ピット (第68図、P L.21)

位置・995-025 G、995-030 G。平面形・円形(推定)。規模・直径0.32m、深さ0.58m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・小破片のみ。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

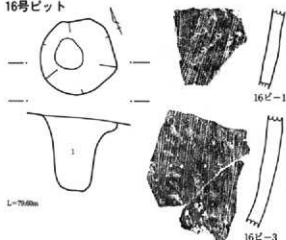
69号ピット (第68図、P L.21)

位置・005-010 G。平面形・円形。規模・直径0.30m、深さ0.12m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中期後半～後期前半と考えられる。

70号ピット (第68図、P L.21)

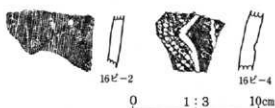
位置・030-015 G。平面形・円形。規模・直径0.50m、深さ0.38m。主軸方位・- 土層断面・1層のみ。重複関係・9号竪穴住居跡に切られる。出土遺物・なし。所見・9号竪穴住居跡との関係、および覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は加曾利E3式以前と考えられる。

16号ビット



L=79.0mm

1にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) を少量含む 炭化粒・白色粒見られる かたくしまる

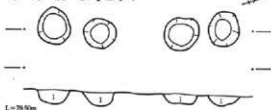


16ビ-2

16ビ-4

0 1:3 10cm

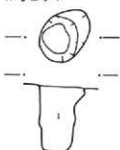
18・19・20・21号ビット



L=79.5mm

18-21号ビット
1暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を多量含む かたくしまる

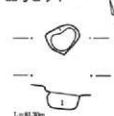
17号ビット



L=79.5mm

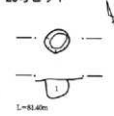
17号ビット
1にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) を少量含む 炭化粒・白色粒見られる かたくしまる

22号ビット



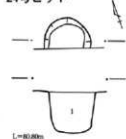
L=81.3mm

23号ビット



L=81.4mm

24号ビット

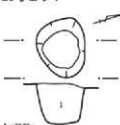


L=80.0mm

23号ビット
1褐色土 (10YR4/4) と黒褐色土 (10YR3/2) の混土 白色粒見られる しまりゆるし

24号ビット
1にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) を少量含む 炭化粒・白色粒見られる かたくしまる

25号ビット



L=80.3mm

25号ビット
1にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) を少量含む 炭化粒・白色粒見られる かたくしまる

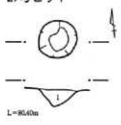
26号ビット



L=80.3mm

26号ビット
1褐色土 (10YR4/6) 大粒の暗褐色土 (10YR3/3) を多量含む 粘性ややあり

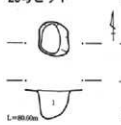
27号ビット



L=80.4mm

27号ビット
1褐色土 (10YR4/6) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を多量含む

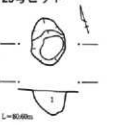
28号ビット



L=80.0mm

28号ビット
1褐色土 (10YR4/6) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を多量含む

29号ビット



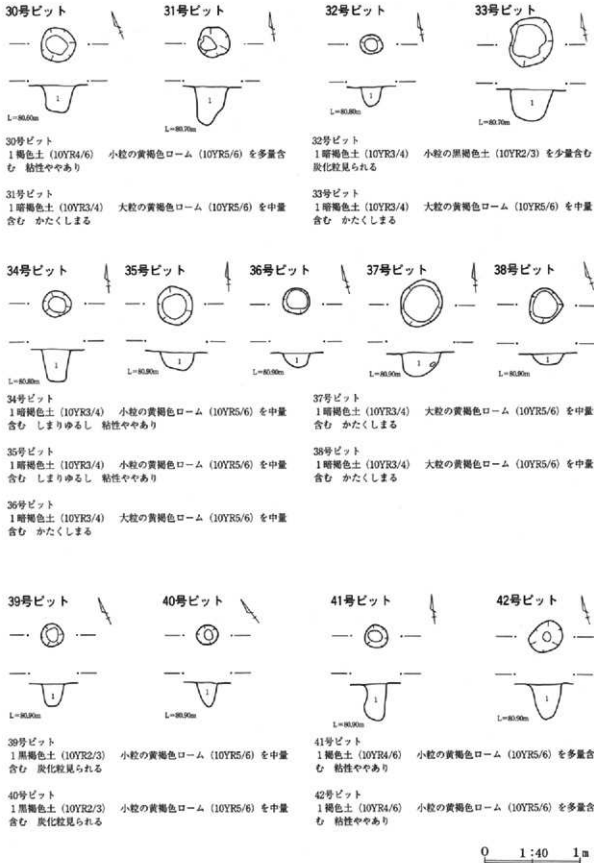
L=80.0mm

29号ビット
1暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む かたくしまる

0 1:40 1m

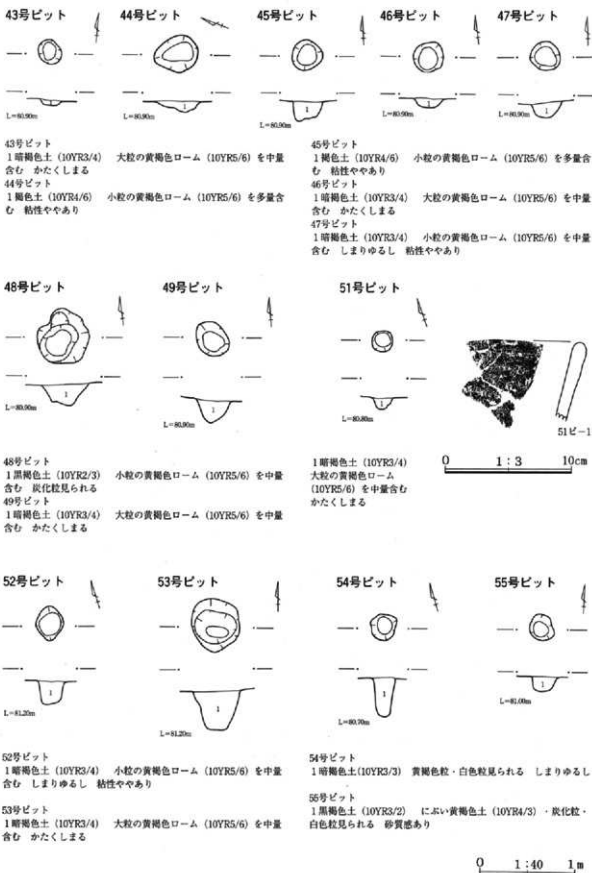
第65図 16～29号ビット平面・断面および出土遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物



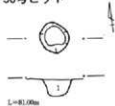
第66図 30~42号ビット平面・断面

第3章 検出された遺構と遺物



第67図 43～49・51～55号ビット平面・断面および出土遺物

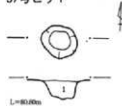
56号ピット



56号ピット

1 黒褐色土 (10YR3/2) におい黄褐色土 (10YR4/3)・炭化粒・白色粒見られる 砂質感あり

57号ピット



57号ピット

1 暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む かたくしまる

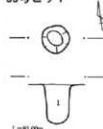
58号ピット



58号ピット

1 暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む かたくしまる

59号ピット



59号ピット

1 暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む かたくしまる

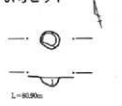
60号ピット



60号ピット

1 暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む かたくしまる

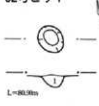
61号ピット



61号ピット

1 暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む かたくしまる

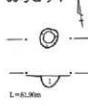
62号ピット



62号ピット

1 褐色土 (10YR4/6) 小粒の黒褐色土 (10YR2/2)・黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む かたくしまる

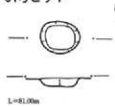
63号ピット



63号ピット

1 暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む かたくしまる

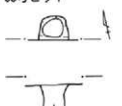
64号ピット



64号ピット

1 暗褐色土 (10YR3/4) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む かたくしまる

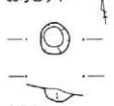
65号ピット



65号ピット

1 におい黄褐色土 (10YR4/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) を少量含む 炭化粒・白色粒見られる かたくしまる

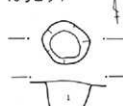
69号ピット



69号ピット

1 褐色土 (10YR4/6) 大粒の暗褐色土 (10YR3/3) を多量含む 粘性ややあり

70号ピット



70号ピット

1 褐色土 (10YR4/4) 大粒の暗褐色土 (10YR3/4) を中量含む 粘性あり

0 1:40 1m

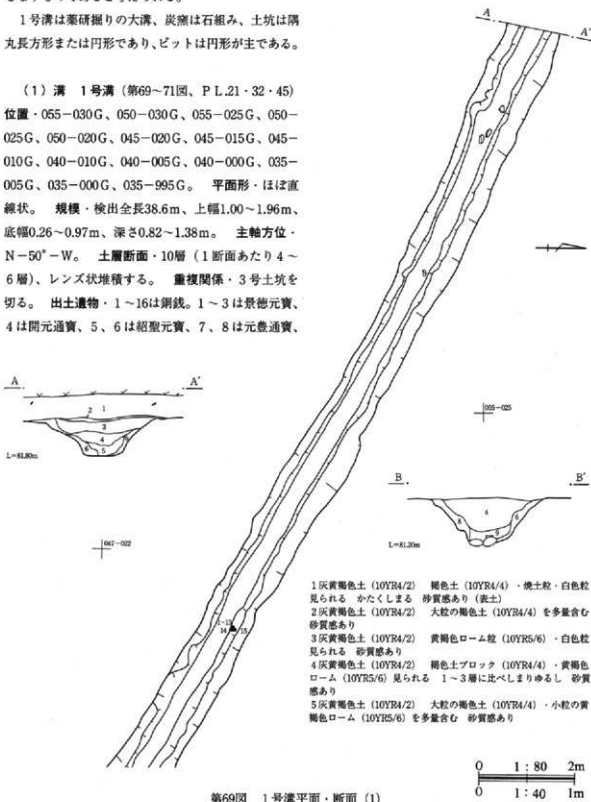
第2節 中近世の遺構と遺物

中近世の遺構は、溝1条、炭窯1基、土坑17基、ピット14基が確認された。1号溝は調査区を東西に走る大形の溝であり、中近世の遺構は土坑3基を除いた全てがこの溝の北面から検出されており、何らかの区画をなすものであると考えられる。

1号溝は薬研掘りの大溝、炭窯は石組み、土坑は隅丸九方形または円形であり、ピットは円形が主である。

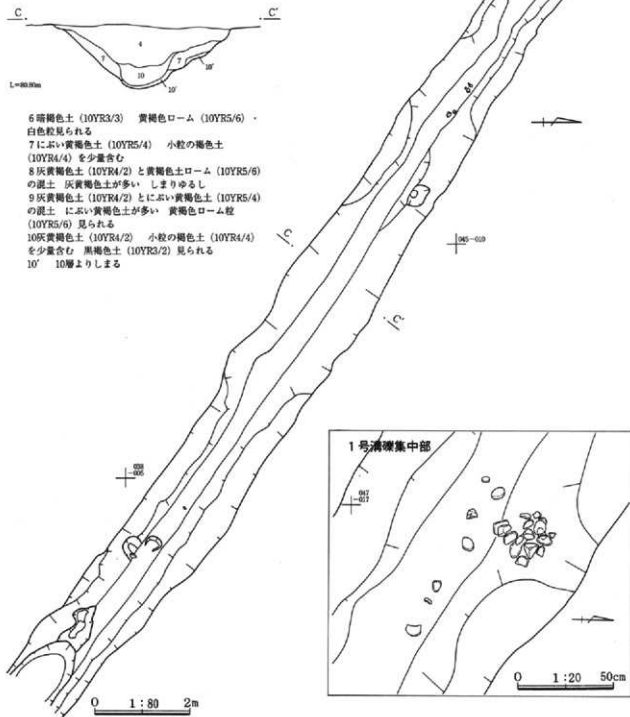
(1) 溝 1号溝 (第69~71図、P.L.21・32・45)

位置・055-030G、050-030G、055-025G、050-025G、050-020G、045-020G、045-015G、045-010G、040-010G、040-005G、040-000G、035-005G、035-000G、035-995G。平面形・ほぼ直線状。規模・検出全長38.6m、上幅1.00~1.96m、底幅0.26~0.97m、深さ0.82~1.38m。主軸方位・N-50°-W。土層断面・10層(1断面あたり4~6層)、レンズ状堆積する。重複関係・3号土坑を切る。出土遺物・1~16は銅銭。1~3は景德元寶、4は開元通寶、5、6は紹聖元寶、7、8は元豊通寶、



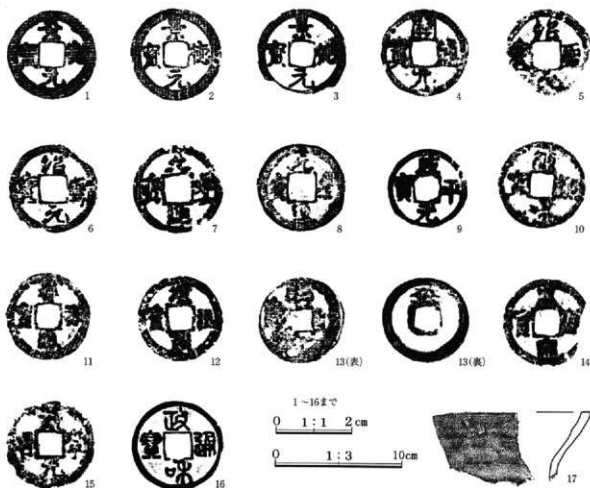
第69図 1号溝平面・断面(1)

9は咸平元寶、10は政和通寶、11は祥符通寶、12、13は□□寶。14は瑞平元寶。15は熙寧元寶。16は政和通寶。いずれも波来銭もしくは鑄銭で、中世末～近世初頭の所産か。
 17は内耳鍋の口縁部。16世紀。 所見・調査区を東西に横断する。近世の遺構は土坑3基を除いた全てがこの溝の北側から検出されており、区画溝と推察される。また、覆土中に礫の集中する箇所がある。出土遺物から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。



第70図 1号溝平面・断面(2)

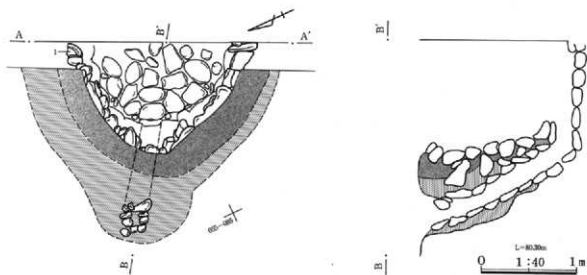
第3章 検出された遺構と遺物



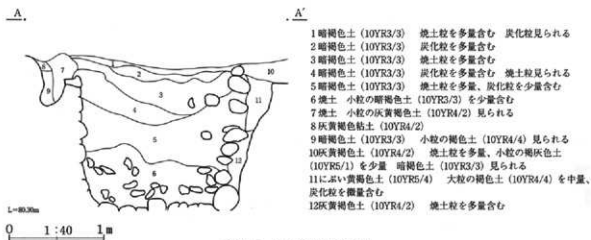
第71図 1号溝出土遺物

(2) 炭窟 1号炭窟 (第72~74図, P.L.22・32)

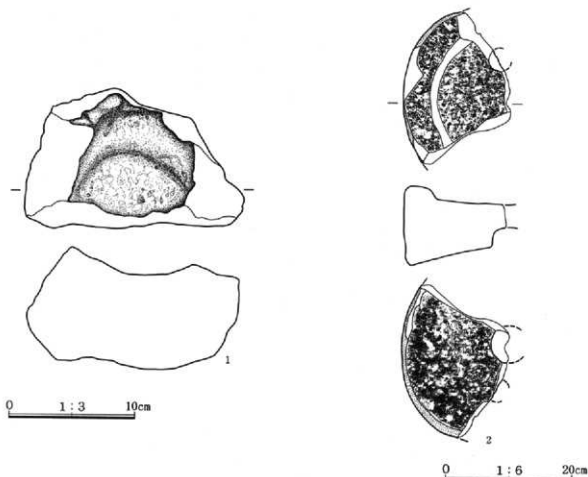
位置・050-080G、055-080G、055-085G。平面形・半円形 (現状)、石組・煙道残存。規模・長軸



第72図 1号炭窟平面・断面 (1)



第73図 1号炭窯断面 (2)



第74図 1号炭窯出土遺物

2.10m (現状、煙道先端まで)、短軸1.70m (石組内)。主軸方位・N-58°-W。土層断面・12層。礫・焼土混じりの土が折り重なるように堆積。重複関係・なし。出土遺物・1は中世の凹石片。2は近世の石臼片。いずれも著しく被熱し、赤色を呈している。所見・窯の煙道約1/2のみ。残る窯の約1/2と作業場は調査区外。石組の窯で、石組に凹石・石臼を利用する。土層断面から、窯の天井が急速に崩落したことがうかがえる。出土遺物から、本遺構の時期は近世末と考えられる。

(3) 土坑・ピット

1号土坑 (第75図、P L.22)

位置・055-020G、060-020G。 平面形・隅丸長方形。 規模・長軸1.55m、短軸1.00m、深さ0.26m。 主軸方位・N-28°-E。 土層断面・2層、水平に堆積する。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・底面に焼土あり。1、9-12、14、37号土坑はほぼ同形。本遺構をはじめ1号溝の北側に位置する近世の土坑およびピットは、覆土や平面形が相似しており、1号溝による区画内にはほぼ同時期に構築された可能性が高い。このことから、本遺構の時期は1号溝とほぼ同時期、中世末～近世初頭と考えられる。

2号土坑 (第75図、P L.22)

位置・065-015G。 平面形・楕円形。 規模・長径1.00m、短径0.82m、深さ0.20m。 主軸方位・N-27°-E。 土層断面・2層、水平に堆積する。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

8号土坑 (第75図、P L.22)

位置・050-005G。 平面形・不整な円形。 規模・長径0.64m、短径0.58m、深さ0.40m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

9号土坑 (第76図、P L.22)

位置・050-000G。 平面形・隅丸長方形。 規模・長軸1.70m、短軸0.88m、深さ0.20m。 主軸方位・N-71°-E。 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1、9-12、14、37号土坑はほぼ同形。1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

10号土坑 (第76図、P L.22)

位置・050-000G、050-005G。 平面形・隅丸長方形。 規模・長軸1.45m、短軸0.90m、深さ0.25m。 主軸方位・N-35°-E。 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1、9-12、14、37号土坑はほぼ同形。1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

11号土坑 (第76図、P L.23)

位置・050-000G。 平面形・隅丸長方形。 規模・長軸1.82m、短軸0.88m、深さ0.17m。 主軸方位・N-35°-E。 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1、9-12、14、37号土坑はほぼ同形。1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

12号土坑 (第76図、P L.23)

位置・050-990 G、050-995 G。 平面形・隅丸長方形。 規模・長軸1.86m、短軸1.05m、深さ0.18m。 主軸方位・N-30°-E。 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1、9-12、14、37号土坑はほぼ同形。1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

14号土坑 (第76図、P L.23)

位置・050-995 G。 平面形・隅丸長方形。 規模・長軸1.20m、短軸0.77m、深さ0.16m。 主軸方位・N-30°-E。 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1、9-12、14、37号土坑はほぼ同形。1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

17号土坑 (第76図、P L.23)

位置・045-995 G。 平面形・不整な円形。 規模・長径0.70m、短径0.66m、深さ0.24m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

19号土坑 (第76図、P L.23)

位置・040-995 G。 平面形・不整な円形。 規模・長径0.55m、短径0.46m、深さ0.14m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

20号土坑 (第76図、P L.23)

位置・040-000 G。 平面形・不整な楕円形。 規模・長径1.00m、短径0.80m (推定)、深さ0.26m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・21号土坑に切られる。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

21号土坑 (第76図、P L.23)

位置・040-000 G。 平面形・楕円形。 規模・長径0.71m、短径0.42m、深さ0.27m。 主軸方位・N-75°-E。 土層断面・1層のみ。 重複関係・20号土坑を切る。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

22号土坑 (第77図、P L.23)

位置・040-005 G。 平面形・円形。 規模・直径0.80m、深さ0.30m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

23号土坑 (第77図、P L.23)

位置・045-005 G。 平面形・楕円形。 規模・長径0.54m、短径0.30m、深さ0.22m。 主軸方位・N-90°。 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

28号土坑 (第77図、P L.24)

位置・015-015 G、015-020 G。 平面形・円形。 規模・直径1.10m、深さ0.10m。 主軸方位・- 土層断面・2層。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

35号土坑 (第77図、P L.24)

位置・045-025 G。 平面形・円形。 規模・直径0.98m、深さ0.20m。 主軸方位・- 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

37号土坑 (第77図、P L.24)

位置・040-015 G。 平面形・隅丸長方形。 規模・長軸1.36m、短軸0.90m、深さ0.18m。 主軸方位・N-60°-E。 土層断面・2層、炭化物層は土層断面にかからない。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 重複関係・なし。 所見・底面の北東部1/3ほどは炭化物に覆われている。1、9～12、14、37号土坑はほぼ同形。覆土の状態等を他の遺構と比較して、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

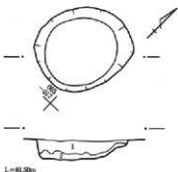
1号土坑



1号土坑

1 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色ローム (10YR5/6)・焼土粒・炭化粒見られる 砂質感あり
2 黒褐色土 (10YR3/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6)・炭化粒を微量含む

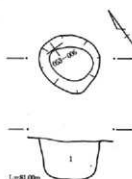
2号土坑



2号土坑

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む 白色粒見られる しまりゆるし 砂質感あり
2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を多量含む

8号土坑



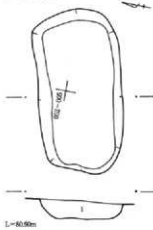
8号土坑

1 黒褐色土 (10YR3/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を微量含む 黄褐色粒・白色粒見られる しまりゆるし 砂質感あり

0 1:40 1m

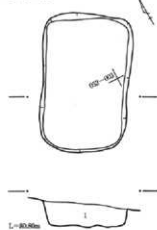
第75図 1・2・8号土坑平面・断面

9号土坑



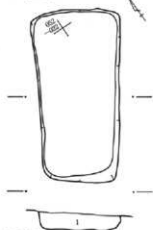
9号土坑
1 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土粒・炭化粒を微量含む (10YR4/4) 見られる 砂質感あり

10号土坑



10号土坑
1 暗褐色土 (10YR3/3) 大粒・小粒の褐色土 (10YR4/4) を少量含む 焼土粒・炭化粒見られる 砂質感あり

11号土坑



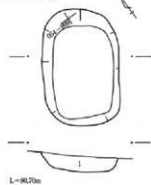
11号土坑
1 暗褐色土 (10YR3/3) 大粒の褐色土 (10YR4/4) を中量含む 砂質感あり

12号土坑



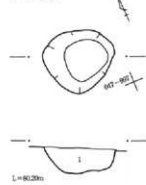
12号土坑
1 暗褐色土 (10YR3/3) 小粒の褐色土 (10YR4/4) を少量含む しまりゆるし 砂質感あり

14号土坑



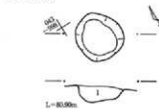
14号土坑
1 暗褐色土 (10YR3/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/1) を少量、小粒の褐色土粒 (10YR4/4) ・焼土粒・炭化粒を微量含む しまりゆるし 砂質感あり

17号土坑



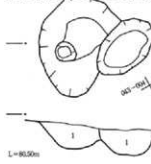
17号土坑
1 におい黄褐色土 (10YR4/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/1) を微量含む 白色粒見られる 砂質感あり

19号土坑



19号土坑
1 黒褐色土 (10YR3/2) とにおい黄褐色土 (10YR4/3) の混土 白色粒を微量含む 炭化粒見られる しまりゆるし 砂質感あり

20号土坑



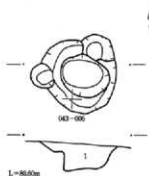
21号土坑

20号土坑
1 におい黄褐色土 (10YR4/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) を多量含む 焼土粒見られる しまりゆるし
21号土坑
1 におい黄褐色土 (10YR4/3) と黒褐色土 (10YR3/2) の混土 におい黄褐色土が多い しまりゆるし

0 1:40 1m

第76図 9～12・14・17・19～21号土坑平面・断面

22号土坑



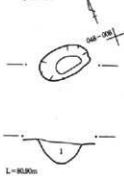
22号土坑

1 灰黄褐色土 (10YR4/3) 小粒の黒褐色土 (10YR3/2) を微量含む しまりゆるし 砂質感あり

23号土坑

1 灰黄褐色土 (10YR4/3) と黒褐色土 (10YR3/2) の混土 黒褐色土が多い しまりゆるし 砂質感あり

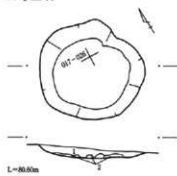
23号土坑



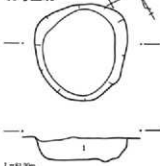
28号土坑

1 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化粒を中量含む 褐色土 (10YR4/6) 見られる しまりゆるし
2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりゆるし

28号土坑

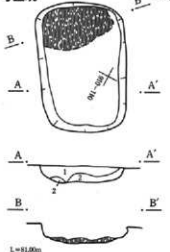


35号土坑



1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む 白色粒見られる しまりゆるし 砂質感あり

37号土坑



1 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色ローム (10YR5/6) ・焼土粒・炭化粒見られる 砂質感あり
2 黒褐色土 (10YR3/2) 大粒の黄褐色ローム (10YR5/6) ・炭化粒を微量含む

0 1:40 1m

第77図 22・23・28・35・37号土坑平面・断面

1号ピット (第78図、P.L.24)

位置・055-020G。平面形・円形。規模・直径0.32m、深さ0.47m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

2号ピット (第78図、P.L.24)

位置・055-020G。平面形・不整な円形。規模・直径0.42m、深さ0.34m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

3号ピット (第78図、P.L.24)

位置・055-015G。平面形・円形。規模・直径0.32m、深さ0.22m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

5号ピット (第78図、P.L.24)

位置・050-005G。平面形・円形。規模・直径0.33m、深さ0.12m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

6号ピット (第79図、P.L.25)

位置・045-000G、050-000G。平面形・円形。規模・直径0.30m、深さ0.40m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

7号ピット (第79図、P.L.25)

位置・045-005G。平面形・楕円形。規模・長径0.50m、短径0.35m、深さ0.54m。主軸方位・N-58°-W。土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

8号ピット (第79図、P.L.25)

位置・055-995G。平面形・円形。規模・直径0.24m、深さ0.18m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

9号ピット (第79図、P.L.25)

位置・045-995G。平面形・円形。規模・直径0.50m、深さ0.28m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

10号ピット (第79図、P.L.25)

位置・045-995G。平面形・円形。規模・直径0.24m、深さ0.20m。主軸方位・— 土層断面・1層のみ。重複関係・なし。出土遺物・なし。所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

11号ピット (第79図、P.L.25)

位置・045-995G。平面形・楕円形。規模・長径0.68m、短径0.42m、深さ0.30m。主軸方位・N-51°-W。土層断面・3層、柱痕あり。重複関係・なし。出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。所

見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

12号ピット (第79図、P.L.25)

位置・040-000G、045-000G。 平面形・円形。 規模・直径0.36m、深さ0.33m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

13号ピット (第79図、P.L.25)

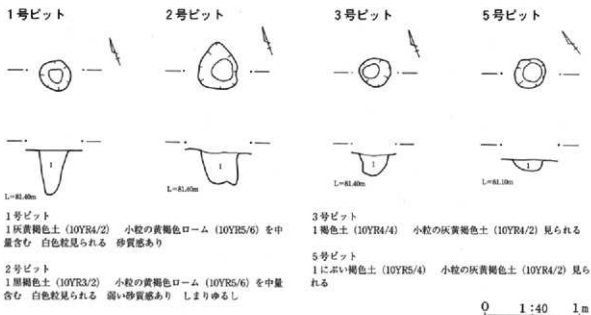
位置・055-000G。 平面形・円形。 規模・直径0.30m、深さ0.47m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・なし。 出土遺物・なし。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

14号ピット (第79図、P.L.10)

位置・045-005G。 平面形・円形か。 規模・直径不明、深さ0.30m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・16号土坑を切る。 出土遺物・なし。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。

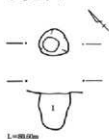
15号ピット (第79図、P.L.10)

位置・045-005G。 平面形・円形か。 規模・直径不明、深さ0.44m。 主軸方位・— 土層断面・1層のみ。 重複関係・16号土坑を切る。 出土遺物・縄文土器片・石器片のみ。 所見・1号溝との位置関係等から、本遺構の時期は中世末～近世初頭と考えられる。



第78図 1～3・5号ピット平面・断面

6号ピット



6号ピット

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色ローム (10YR5/6) 見られる

7号ピット



7号ピット

1 暗褐色土 (10YR3/3) 大粒の褐色土 (10YR4/4) を微量含む
しまりゆるし

8号ピット



8号ピット

1 暗褐色土 (10YR3/3) 小粒の褐色土 (10YR4/4) を微量含む
白色粒見られる

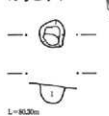
9号ピット



9号ピット

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) と黒褐色土 (10YR3/2) の混土 灰黄褐色土の割合が多い 白色粒見られる しまりゆるし

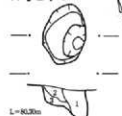
10号ピット



10号ピット

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) と黒褐色土 (10YR3/2) の混土 黒褐色土の割合が多い 白色粒見られる しまりゆるし

11号ピット



11号ピット

1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黒褐色土 (10YR3/2) ・白色粒見られる 2層よりしまる
2 におい黄褐色土 (10YR5/4) しまりゆるし
3 におい黄褐色土 (10YR5/4) と黒褐色土 (10YR3/2) の混土 におい黄褐色土の割合が多い しまりゆるし

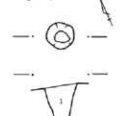
12号ピット



12号ピット

1 におい黄褐色土 (10YR5/4) と黒褐色土 (10YR3/2) の混土 におい黄褐色土の割合が多い 白色粒見られる しまりゆるし

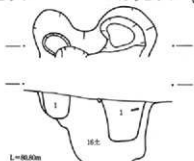
13号ピット



13号ピット

1 暗褐色土 (10YR3/3) 大粒の褐色土 (10YR4/4) を微量含む 黒褐色土 (10YR3/1) 見られる しまりゆるし

14号ピット



15号ピット

14号ピット

1 黒褐色土 (10YR3/2) 小粒黄褐色ローム (10YR5/6) を微量含む 白色粒見られる しまりゆるし

15号ピット

1 黒褐色土 (10YR3/2) 小粒の黄褐色ローム (10YR5/6) を中量含む 炭化粒・白色粒見られる しまりゆるし

0 1:40 1m

第79図 6～15号ピット平面・断面

第3節 遺構外出土遺物

(1) 縄文時代の遺物

中期中葉～後半の土器 (第80図、P L.33・42)

深鉢口縁部 1は口唇部に横位の沈線文・刻目文のある隆線文を施文。

深鉢頸部 2は条線文を粗雑に施文。

深鉢胴部 3は沈線文を施文。4は縦位およびU字状の沈線文を施文。

台付鉢底部 5は文様剥離。詳細不明。

中期後半の土器 (第80～82図、P L.42・43)

深鉢口縁部 6～16は加曾利E 3式。6は横位の沈線文でL R縄文施文部と無文部を区画。7、8、9、10は隆線文・沈線文の区画内にR L縄文を施文。充填縄文。11、12、13、14、15、16は口縁部下部～頸部。11、12は沈線文の区画内にL R縄文を施文。充填縄文。13は横位の蕨手状の隆線文・沈線文による区画とR L縄文を施文。磨消縄文。14は横位および蕨手状の隆線文・沈線文による区画内にL R縄文を施文。磨消縄文。15は弧状の隆線文・沈線文による区画と縄文(原体不明)を施文。磨消縄文。16は弧状の隆線文・沈線文の区画内にR L縄文を施文。17、18は加曾利E 4式。17は口唇部直下に横位の隆線文を施文。18は波状口縁。横位および弧状の沈線文区画内にR L縄文を施文。充填縄文。19～26は加曾利E 5式後半。19は隆線文・沈線文による区画内にL R縄文を施文。磨消縄文。20は波状口縁。口唇部に横位の沈線文を施文。21は口唇部に横位の沈線文を施文。22、23は無文。23は把手部欠損。24は口縁部文様帯区画内文様の一部。縦位の沈線文を施文。25は円形の沈線文区画内にL R縄文を施文。磨消縄文。26は波状口縁の把手。

深鉢頸部 27は加曾利E 4式。頸部付近に円形刺突文。円形刺突文の上下は沈線文区画内にL R縄文を施文。磨消縄文。28は加曾利E 5式中葉。頸部に横位の隆線文を施文、胴部はR L縄文を施文。

深鉢胴部 29は加曾利E 4式。表面が磨滅、縦位の微隆線文でL R縄文施文部と無文部を区画する。充填縄文。30～43、76は加曾利E 5式後半。30、32、33、36、37、76は表面が磨滅、縦位の沈線文でR L縄文施文部と無文部を区画する。磨消縄文。31、34は表面が磨滅、縦位の沈線文でL R縄文施文部と無文部を区画する。磨消縄文。35は表面が磨滅、縦位の沈線文でL R縄文施文部と無文部を区画、縄文施文部にはさらに沈線文による蛇行懸垂文を施文。充填縄文。38は表面が磨滅、縦位の沈線文で縄文(原体不明)施文部と無文部を区画する。39、40はR L縄文を施文。41～43は条線文を施文。

後期前半の土器 (第82～83図、P L.33・44・45)

深鉢口縁部 44～46は称名寺2式。44は蕨手状の沈線文区画内に列点文を施文。45は弧状の沈線文を施文。46は口唇部直下の刺突文を起点に蕨手状の沈線文・隆線文を施文。47～55は堀之内1式。47は縦位の沈線文区画内に列点文を施文。48は口唇部に円形刺突文および横位の沈線文を施文。49は波状口縁。波頂部に円形刺突文を施文。50は口唇部に円形刺突文を施文。51は口唇部にボタン状貼付文および横位の沈線文を施文。52、53は口唇部に横位の沈線文を施文。54は口唇部に隆線文を貼付て皮厚し、横位の沈線文を施文。55は無文。56、57は後期前半。56は波状口縁の把手。把手付け根の両側に円形刺突文を施文。57はミニチュアの深鉢で、縦位の沈線文区画内に刺突文を施文。

深鉢頸部 58は堀之内1式。頸部にボタン状貼付文および横位の沈線文を施文。59は堀之内式。表面が磨滅、頸部に円形刺突文および横位の沈線文を施文。胴部以下はL R縄文施文。

深鉢胴部 69、74は称名寺1式。69は表面が磨減、弧状の沈線文区画内にL R縄文を施文。74はJ字状の沈線文区画内にL R縄文を施文。3号堅穴状遺構-1と同一個体。60~66は称名寺2式。60は縦位の沈線文区画内に列点刺突文を施文。61、62は鍵手状の沈線文を施文。63はV字状の沈線文を施文。64~66は縦位の沈線文を施文。67~73、75は堀之内1式。67はボタン状貼付文の間を横位および弧状の隆線文・沈線文で繋ぐ。70はR L縄文を地文に沈線文を垂下する。68は縄文L Rを地文に横位の沈線文および横位沈線文に接する半円形沈線文より沈線文を垂下する。71は縦位の沈線文区画内に刺突文を施文。72、73は縦位の沈線文を施文。71~73の縦位の沈線文は68、70の垂下する沈線文と同様の文様の一部。充填縄文。75は弧状の沈線文を施文。7号堅穴住居跡-26と同一個体。77は後期前半。表面が磨減、縦位の沈線文区画内にL R縄文を施文。

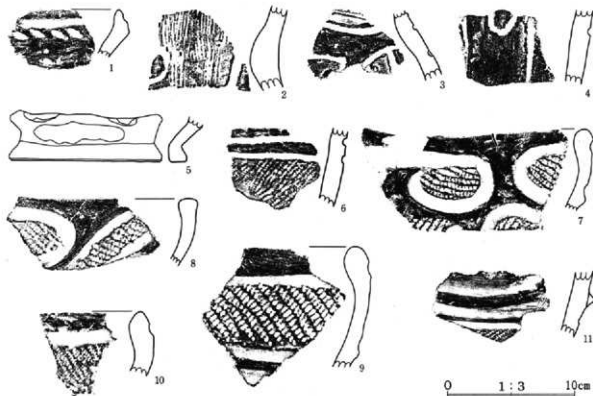
深鉢底部 78、79は後期前半。78は無文。79はL R縄文を施文。

浅鉢口縁部 80は堀之内1式。波状口縁。口唇内側に横位の沈線文、うち波頂部内側には円形刺突文を施文。

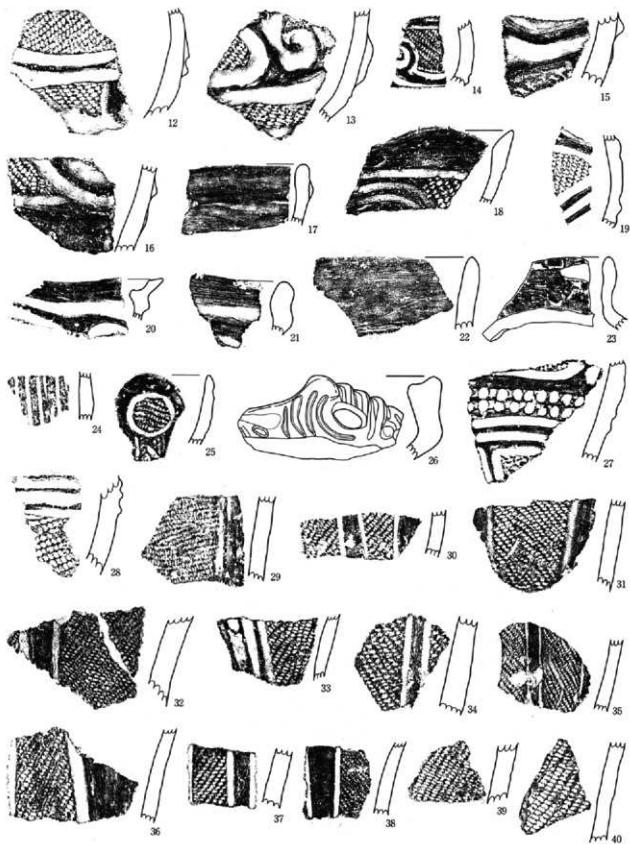
注口土器口縁部 81は堀之内1式。隆線文による文様を施文するが剥離。

注口土器頸部 82は堀之内1式。頸部に横位の沈線文を施文、胴部には横位の沈線文区画内にL R縄文を施文。

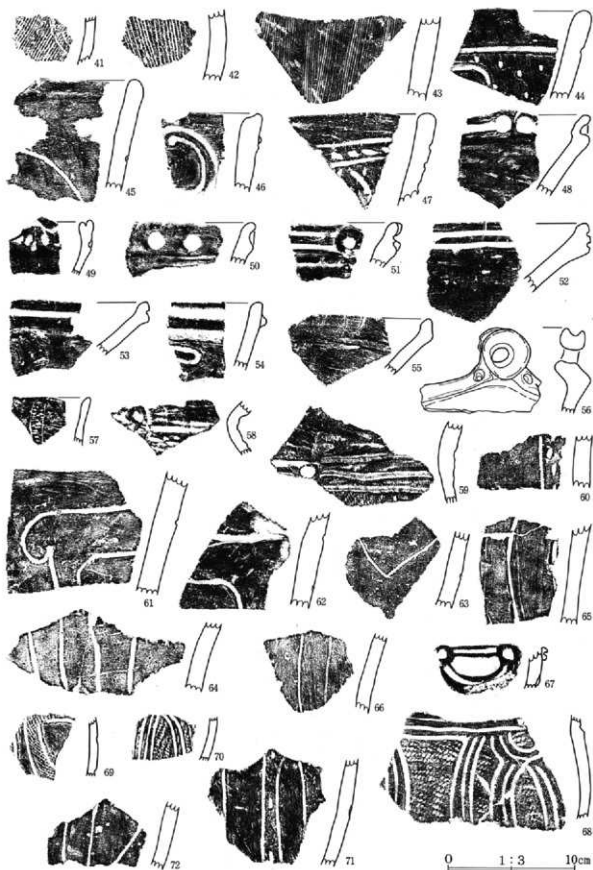
土製円盤 83は後期前半。縄文（原体不明）を地文に弧状の沈線文を施文する、堀之内1式の深鉢胴部片を素材とする。



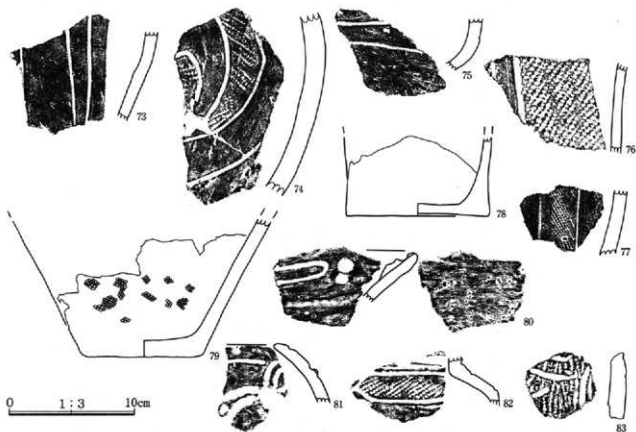
第80図 遺構外出土遺物 (1)



第81図 遺構外出土遺物 (2)



第82図 遺構外出土遺物 (3)



第83図 遺構外出土遺物 (4)

石器 (第84~86図、P.L.33)

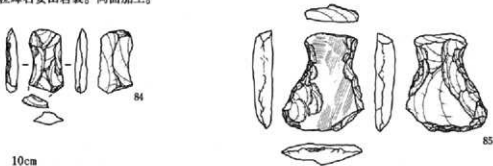
打製石斧 84、86、89は黒色頁岩製。85、90は細粒輝石安山岩製。87はホルンフェルス製。88は珪質頁岩製。85のみ分銅形で、84、86~90は短冊形。うち、88は基部に対し刃部がやや幅広で撥形に近い形態を呈す。85、87、88は基部欠損、84、86、89、90は刃部欠損で、完形品はない。86は刃部再生を試みている。

磨製石斧 91は珪質頁岩製。刃部欠損。

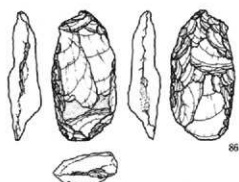
石鏃 93、95、97はチャート製。92は黒曜石製。94は黒色安山岩製。96は黒色頁岩製。93、95、96は一部欠損。

磨石 98、99は粗粒輝石安山岩製。98は両面使用。一部欠損。端部に敲打痕あり。敲石としても使用か。99は球形を呈し、全面が磨面。

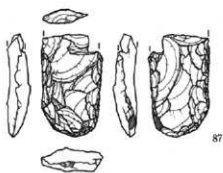
凹石 100は粗粒輝石安山岩製。両面加工。



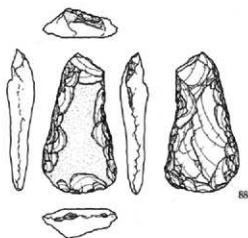
第84図 遺構外出土遺物 (5)



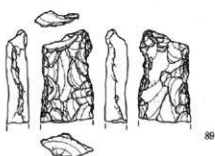
86



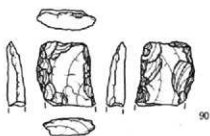
87



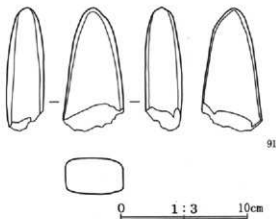
88



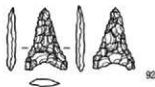
89



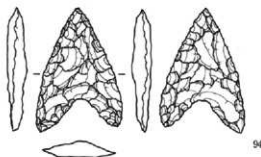
90



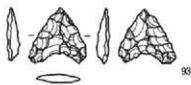
91



92



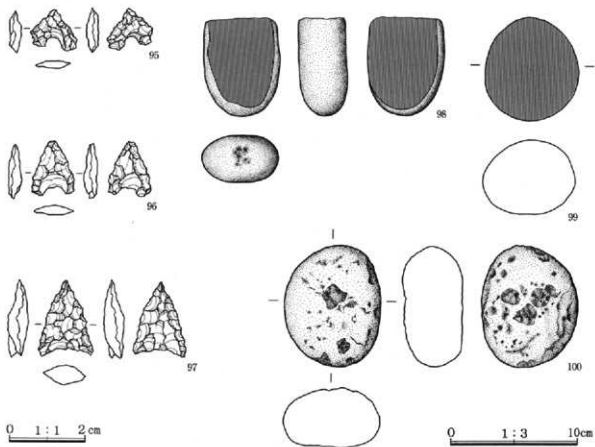
94



93

第85図 遺構外出土遺物 (6)

第3章 検出された遺構と遺物

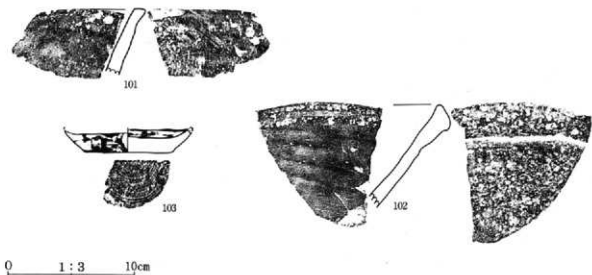


第86図 遺構外出土遺物 (7)

(2) 中近世の遺物 (第87図、P.L.45)

中世末～近世初頭の遺物は3点のみである。

101、102は軟質陶器の播鉢口縁部。103は灯明皿底部。煤付着。



第87図 遺構外出土遺物 (8)

遺物計測表

1号壑穴住居跡出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL34(上段)	深鉢	伊	胴部片	③0.9	細砂粒 含雲母	普通	黒褐色7.5YR5/6	
2	PL26	深鉢	伊	胴部	①1.0	細砂粒	普通	橙10YR7/6	
3	PL34(上段)	深鉢	伊	胴部片	③1.1	細砂粒	普通	明黄褐色10YR5/6	4、5と同一個体
4	PL34(上段)	深鉢	伊	胴部片	③1.2	細砂粒	普通	明黄褐色10YR5/8	3、5と同一個体
5	PL34(上段)	深鉢	伊	胴部片	③1.1	細砂粒	普通	黄褐色10YR7/8	3、4と同一個体
6	PL34(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③1.2	細砂粒	普通	明黄褐色10YR5/8	11号壑穴住居跡-3と同一個体
7	PL34(上段)	深鉢	床直	胴部片	③0.8	細砂粒	普通	黒褐色10YR3/2	

2号壑穴住居跡出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL34(下段)	深鉢	7号ピット	胴部片	③1.5	細砂粒	普通	灰黄2.5Y7/2	2、3と同一個体
2	PL34(下段)	深鉢	7号ピット	胴部片	③1.4	細砂粒	普通	浅黄2.5YR7/3	1、3と同一個体
3	PL34(下段)	深鉢	7号ピット	胴部片	③1.4	細砂粒	普通	灰黄2.5YR7/2	1、2と同一個体
4	PL34(下段)	深鉢	7号ピット	胴部片	③1.1	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR4/3	
5	PL34(下段)	深鉢	伊	胴部片	③1.1	細砂粒	普通	明赤褐色5YR5/6	
6	PL34(下段)	深鉢	6号ピット	把手	③1.4	細砂粒	普通	浅黄5YR/3	

3号壑穴住居跡出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL34(下段)	深鉢	7号ピット	胴部片	③0.9	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR6/4	

5号壑穴住居跡出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL34(下段)	深鉢	13号ピット	胴部片	③1.3	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
2	PL34(下段)	深鉢	5号ピット	胴部片	③1.3	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	

6号壑穴住居跡出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③1.1	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
2	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③1.6	細砂粒	普通	黒褐色10YR3/1	
3	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③1.0	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
4	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③1.7	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
5	PL35(上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	③1.6	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR6/4	
6	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③0.7	細砂粒	普通	明黄褐色10YR7/6	
7	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③0.8	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR5/4	
8	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③0.9	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
9	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③0.9	細砂粒	普通	褐灰10YR4/1	
10	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③1.1	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR6/4	
11	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③0.7	細砂粒	普通	黒褐色7.5YR3/2	
12	PL35(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	③1.3	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR6/4	
13	PL35(上段)	深鉢	5号ピット	口縁部片	③0.9	細砂粒	普通	褐灰10YR4/1	

7号壑穴住居跡出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL35(下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	③0.6	細砂粒	普通	にぶい赤褐色2.5YR4/4	
2	PL35(下段)	深鉢	覆土中	胴部片	③0.9	細砂粒	普通	明赤褐色2.5YR5/6	
3	PL35(下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	③1.6	細砂粒	普通	橙5YR6/6	
4	PL35(下段)	深鉢	覆土中	胴部片	③1.2	細砂粒	普通	浅黄2.5Y7/4	
5	PL35(下段)	深鉢	覆土中	胴部片	③0.8	細砂粒	普通	黄褐色10YR8/6	
6	PL35(下段)	深鉢	覆土中	胴部片	③1.2	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
7	PL35(下段)	深鉢	覆土中	胴部片	③0.8	細砂粒	普通	浅黄2.5Y7/3	
8	PL35(下段)	深鉢	覆土中	胴部片	③1.4	細砂粒	普通	灰黄2.5Y7/2	

第3章 検出された遺構と遺物

9	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	橙5YR6/6	
10	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/3	
11	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/3	
12	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	灰白10YR8/3	
13	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.6	細砂粒	普通	灰黄褐10YR4/2	
14	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.2	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/3	
15	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.8	細砂粒	普通	黄橙10YR8/6	
16	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.8	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/4	
17	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	灰白2.5Y8/2	
18	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
19	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/4	
20	PL35 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
21	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	淡黄2.5Y8/3	
22	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.4	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/2	
23	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	浅黄橙7.5YR8/6	
24	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.8	細砂粒	普通	橙7.5YR7/6	
25	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	淡黄2.5Y8/3	
26	PL36	浅鉢	覆土中	口縁～胴部	①0.6③17.5	細砂粒	普通	にぶい黄7.5YR5/4	遺構外-75と同一個体
					④1.2				
27	PL36 (上段)	浅鉢	覆土中	口縁部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR5/3	
28	PL36 (上段)	浅鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	橙7.5YR7/6	
29	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	把手	④1.4	細砂粒	普通	にぶい黄褐10YR4/3	
30	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄2.5Y7/3	
31	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.6	細砂粒	普通	橙7.5YR7/6	
32	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/3	
33	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	灰白10YR8/2	
34	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄2.5Y7/4	
35	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/4	
36	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄7.5YR6/4	
37	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.4	細砂粒	普通	橙7.5YR7/6	
38	PL36 (上段)	深鉢	覆土中	底部	④1.4	細砂粒	普通	橙5YR6/6	

9号型穴住居跡出土土器計測表 (縄文時代)

*①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	粘土	焼成	色調	備考
1	PL26	深鉢	埋裏	口縁～胴部	①89.4⑤1.0	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/3	10と同一個体
2	PL26 (下段)	深鉢	床直	口縁部片	④1.4	細砂粒	普通	褐灰10YR6/1	
3	PL27	深鉢	伊	口縁～胴部	①25.5④1.0	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
4	PL36 (下段)	深鉢	床直	口縁部片	④0.8	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
5	PL36 (下段)	深鉢	床直	胴部片	④1.4	細砂粒	普通	灰黄2.5Y6/2	
6	PL36 (下段)	深鉢	床直	口縁部片	④1.2	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
7	PL36 (下段)	深鉢	床直	口縁部片	⑤*0.8	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
8	PL36 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	
9	PL36 (下段)	深鉢	床直	胴部片	④0.7	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR8/4	
10	PL36 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.7	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	1と同一個体
11	PL36 (下段)	深鉢	床直	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
12	PL27	深鉢	床直	底部	②80.0④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
13	PL36 (下段)	深鉢	床直	口縁部片	④1.1	細砂粒	普通	灰黄2.5Y6/2	
14	PL36 (下段)	深鉢	床直	把手	④1.4	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR5/3	
15	PL36 (下段)	深鉢	床直	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/3	

10号型穴住居跡出土土器計測表 (縄文時代)

*①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	粘土	焼成	色調	備考
1	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.2	細砂粒	普通	褐灰10YR4/1	
2	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.5	細砂粒	普通	褐灰10YR6/1	
3	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.5	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	
4	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/3	
5	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.2	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	
6	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/3	
7	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/3	
8	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/4	

9	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR6/3	
10	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	浅黄褐色10YR8/3	
11	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/2	
12	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄褐色7.5YR6/4	
13	PL37 (上段)	深鉢	配石部	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
14	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
15	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	明黄褐色10YR7/6	
16	PL37 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	明褐色7.5YR5/6	
17	PL27	深鉢	覆土中	口縁部片	④13.3④0.8	細砂粒	普通	褐色7.5YR4/3	
18	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	褐色10YR5/1	
19	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.2	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR5/3	
20	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.7	細砂粒	普通	にぶい黄褐色7.5YR5/4	
21	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.7	細砂粒	普通	褐色7.5YR6/6	
22	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	灰白10YR8/2	
23	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	明黄褐色10YR7/6	
24	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.7	細砂粒	普通	褐色7.5YR4/4	
25	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.5	細砂粒	普通	褐色7.5YR4/3	
26	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.5	細砂粒	普通	明褐色7.5YR5/6	
27	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.5	細砂粒	普通	浅黄褐色10YR8/3	
28	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.4	細砂粒	普通	灰黄褐色10YR6/2	
29	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.7	細砂粒	普通	にぶい黄褐色7.5YR7/4	
30	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄褐色7.5YR5/4	
31	PL27	深鉢	伊	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄褐色7.5YR8/6	
32	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	褐色7.5YR4/4	
33	PL37 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR5/3	
34	PL38 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.7	細砂粒	普通	褐色7.5YR4/3	
35	PL38 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.8	細砂粒	普通	灰黄褐色10YR5/2	36と同一個体
36	PL38 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.8	細砂粒	普通	灰黄褐色10YR5/2	35と同一個体
37	PL38 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/3	
38	PL38 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄褐色7.5YR8/6	
39	PL38 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
40	PL38 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
41	PL38 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄褐色7.5YR7/4	
42	PL27	深鉢	覆土中	底部片	④6.3④0.7	細砂粒	普通	明赤褐色5YR5/6	
43	PL38 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.5	細砂粒	普通	褐色7.5YR6/6	

11号竪穴住居跡出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL36 (下段)	深鉢	8号ビット	口縁部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/3	
2	PL36 (下段)	深鉢	8号ビット	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
3	PL28	深鉢	埋塞	胴部片	④0.8	細砂粒	普通	黒褐色10YR3/2	1号竪穴住居跡-6と同一個体

1号竪穴状遺構出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL38 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.4	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
2	PL38 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄褐色7.5YR7/4	
3	PL38 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR5/3	
4	PL38 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.8	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
5	PL38 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄褐色10YR8/4	
6	PL38 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	灰黄褐色10YR6/2	
7	PL38 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.8	細砂粒	普通	にぶい黄褐色7.5YR5/4	
8	PL38 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.7	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
9	PL38 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	灰黄褐色10YR6/2	
10	PL38 (下段)	浅鉢	覆土中	口縁部片	④0.8	細砂粒	普通	黒褐色7.5YR3/1	
11	PL39 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.8	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR5/3	
12	PL39 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	明赤褐色5YR5/6	
13	PL39 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	褐色7.5YR7/6	

第3章 検出された遺構と遺物

2号竪穴状遺構出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL39(上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.8	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/4	
2	PL39(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	にぶい黄7.5YR5/4	
3	PL28	深鉢	覆土中	底部	②7.8④1.4	細砂粒	普通	明黄褐10YR7/6	
4	PL29(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	
5	PL39(上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	灰褐7.5YR5/2	
6	PL39(上段)	注口土器	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR5/3	

3号竪穴状遺構出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL28 PL44(下段)	深鉢	覆土中	口縁～胴部	①36.0③1.5	細砂粒	普通	灰白10YR8/2	遺構外-74と同一個体
2	PL39(下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.5	細砂粒	普通	にぶい黄7.5YR5/4	
3	PL39(下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄褐10YR5/3	
4	PL39(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.4	細砂粒	普通	浅黄褐7.5YR6/6	
5	PL29	深鉢	覆土中	底部	②6.8④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	

1号炉出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL29	深鉢	炉	口縁～胴部	①19.9③0.9	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	LR縄文(?)は不鮮明、拓本で表現
2	PL39(下段)	深鉢	炉	口縁部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/4	
3	PL39(下段)	深鉢	炉	底部	④1.0	細砂粒	普通	赤褐5YR4/6	

2号炉出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL39(下段)	深鉢	炉	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
2	PL39(下段)	深鉢	炉	把手	④0.8	細砂粒	普通	灰黄褐10YR5/2	

3号土坑出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL29	深鉢	覆土中	口縁～底部	①22.4③9.2 ③11.2④0.9	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	

6号土坑出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL29	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	黄橙10YR8/6	
2	PL40(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	明黄褐10YR7/6	

16号土坑出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL40(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	明黄褐10YR7/6	
2	PL40(上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.4	細砂粒	普通	橙5YR6/6	
3	PL40(上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.1	細砂粒	普通	明黄褐10YR6/6	
4	PL40(上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.2	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
5	PL40(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	黄橙10YR8/6	
6	PL40(上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	明黄褐10YR7/6	

25号土坑出土土器計測表(縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL30	深鉢	覆土中	口縁～底部	①28.0②7.0 ③48.5④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/3	

遺物計測表

26号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL40 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.5	細砂粒	普通	褐7.5YR4/3	
2	PL40 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.5	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/2	
3	PL40 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.4	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
4	PL40 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.5	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/4	
5	PL40 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	灰白10YR8/2	
6	PL40 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR4/3	

27号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR6/4	
2	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	褐色7.5YR6/6	
3	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	褐色7.5YR6/6	
4	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR6/4	
5	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	赤褐5YR4/6	

29号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	褐灰10YR4/1	

30号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄褐色10YR8/4	
2	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR5/3	
3	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.8	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR5/4	
4	PL30	深鉢	覆土中	口縁-底部	①25.3②1.3	細砂粒	不良	灰黄褐色10YR6/2	
5	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.4	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR6/4	
6	PL40 (下段)	深鉢	覆土中	把手	④1.0	細砂粒	普通	灰白10YR8/2	
7	PL31	深鉢	覆土中	底部	②8.2③1.4	細砂粒	普通	褐色5YR6/6	

34号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL31	深鉢	覆土中	底部	②11.7③1.3	細砂粒	普通	赤褐5YR4/6	

38号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	灰黄褐色10YR5/2	
2	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	明赤褐5YR5/6	

44号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	褐色5YR6/6	
2	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	褐色7.5YR6/6	

47号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL41 (上段)	浅鉢	覆土中	口縁部片	④1.5	細砂粒	普通	黒褐10YR3/1	
2	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.8	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/3	
3	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	褐灰10YR4/1	
4	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	把手	④1.5	細砂粒	普通	にぶい黄褐色10YR7/3	

第3章 検出された遺構と遺物

51号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	淡黄2.5YR/4	

52号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL30	深鉢	覆土中	口縁～胴部	④1.7	細砂粒	普通	橙7.5YR7/6	
2	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	灰黄褐10YR4/2	

53号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.1	細砂粒	普通	明赤褐5YR5/6	
2	PL41 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄褐10YR5/3	

56号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄2.5Y6/3	
2	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/4	
3	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.8	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/4	
4	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	浅黄2.5Y7/4	
5	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.8	細砂粒	普通	浅黄2.5Y7/3	
6	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.5	細砂粒	普通	黄橙10YR6/6	
7	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.4	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
8	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
9	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/3	
10	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/4	
11	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.8	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/3	

57号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	暗灰黄2.5Y3/2	

58号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL41 (下段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.4	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
2	PL31	深鉢	覆土中	底部	②7.4④1.1	細砂粒	普通	赤褐5YR4/8	

68号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/4	

70号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL31	深鉢	底面	口縁～胴部	①88.9④1.2	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/3	

71号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.5	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
2	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	橙5YR7/6	
3	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.2	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/4	
4	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい橙7.5YR6/4	
5	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	把手	④1.8	細砂粒	普通	明赤褐2.5YR5/6	

遺物計測表

6	PL42 (上段)	浅鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR7/4	
---	-----------	----	-----	------	------	-----	----	--------------	--

75号土坑出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR7/3	
2	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.7	細砂粒	普通	明黄褐色10YR7/6	

16号ピット出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR5/3	
2	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR6/4	
3	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい褐色7.5YR5/4	
4	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	灰褐色7.5YR4/2	

51号ピット出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL42 (上段)	深鉢	覆土中	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい褐色7.5YR5/4	

1号溝出土土器計測表 (中近世)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
17	PL45 (下段)	内耳罎	覆土中	口縁部片	④0.6	細砂粒	良好	にぶい赤褐色5YR5/4	数質陶器

遺構外出土土器計測表 (縄文時代)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
1	PL42 (下段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
2	PL42 (下段)	深鉢	表土	胴部片	④2.2	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR6/4	
3	PL42 (下段)	深鉢	表土	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
4	PL42 (下段)	深鉢	050-015G	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
5	PL33	台付鉢	表土	底盤片	④0.8	細砂粒	普通	明赤褐色5YR 5/6	
6	PL42 (下段)	深鉢	37号土坑	口縁部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR6/3	
7	PL42 (下段)	深鉢	045-000G	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい褐色7.5YR5/4	
8	PL42 (下段)	深鉢	035-006G	口縁部片	④1.1	細砂粒	普通	灰褐色7.5YR4/2	
9	PL42 (下段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.1	細砂粒	普通	灰褐色7.5YR4/2	
10	PL42 (下段)	深鉢	1号溝	口縁部片	④1.5	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR7/4	
11	PL42 (下段)	深鉢	1号溝	口縁部片	④1.3	細砂粒	普通	明赤褐色5YR 5/6	
12	PL42 (下段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.6	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
13	PL42 (下段)	深鉢	1号溝	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR6/4	
14	PL42 (下段)	深鉢	20号土坑	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	明黄褐色10YR6/6	
15	PL42 (下段)	深鉢	005-025G	口縁部片	④1.7	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR6/3	
16	PL43 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.4	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR5/4	
17	PL43 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR6/4	
18	PL43 (上段)	深鉢	005-020G	口縁部片	④0.8	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR4/3	
19	PL43 (上段)	深鉢	015-015G	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい褐色7.5YR5/4	
20	PL43 (上段)	深鉢	025-010G	口縁部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR7/4	
21	PL43 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.7	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR7/4	
22	PL43 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.5	細砂粒	普通	にぶい褐色7.5YR5/3	
23	PL43 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
24	PL43 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR6/4	
25	PL43 (上段)	深鉢	045-000G	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR5/3	
26	PL43 (上段)	深鉢	035-008G	把手	④2.7	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR7/4	
27	PL43 (上段)	深鉢	015-015G	胴部片	④1.5	細砂粒	普通	褐灰10YR5/1	
28	PL43 (上段)	深鉢	表土	胴部片	④1.5	細砂粒	普通	にぶい赤褐色5YR5/4	
29	PL43 (上段)	深鉢	表土	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	灰黄褐色10YR6/2	
30	PL43 (上段)	深鉢	045-000G	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
31	PL43 (下段)	深鉢	010-030G	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	橙7.5YR7/6	
32	PL43 (下段)	深鉢	表土	胴部片	④1.7	細砂粒	普通	にぶい貴體10YR7/4	
33	PL43 (下段)	深鉢	045-000G	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	

第3章 検出された遺構と遺物

34	PL43 (下段)	深鉢	表土	胴部片	④1.8	細砂粒	普通	にぶい層7.5YR7/4	
35	PL43 (下段)	深鉢	000-015G	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	浅黄橙7.5YR8/6	
36	PL43 (下段)	深鉢	表土	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	褐灰10YR4/1	
37	PL43 (下段)	深鉢	表土	胴部片	④1.4	細砂粒	普通	橙7.5YR7/6	
38	PL43 (下段)	深鉢	表土	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい層7.5YR6/3	
39	PL43 (下段)	深鉢	表土	胴部片	④1.5	細砂粒	普通	褐灰10YR4/1	
40	PL43 (下段)	深鉢	035-005G	胴部片	④1.2	細砂粒	普通	橙7.5YR7/6	
41	PL43 (下段)	深鉢	030-005G	胴部片	④0.8	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/4	
42	PL43 (下段)	深鉢	表土	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	灰黄2.5Y7/2	
43	PL43 (下段)	深鉢	010-010G	胴部片	④1.6	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	
44	PL44 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.5	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/3	
45	PL44 (上段)	深鉢	050-015G	口縁部片	④1.5	細砂粒	普通	浅黄2.5Y7/3	
46	PL44 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.5	細砂粒	普通	灰白2.5Y8/2	
47	PL44 (上段)	深鉢	000-015G	口縁部片	④1.3	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
48	PL44 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.1	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
49	PL44 (上段)	深鉢	995-015G	口縁部片	④0.6	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
50	PL44 (上段)	深鉢	000-015G	口縁部片	④1.0	細砂粒	普通	灰黄2.5Y8/3	
51	PL44 (上段)	深鉢	015-010G	口縁部片	④1.4	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/4	
52	PL44 (上段)	深鉢	050-015G	口縁部片	④1.2	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
53	PL44 (上段)	深鉢	005-020G	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい層7.5YR7/4	
54	PL44 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/4	
55	PL44 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/4	
56	PL44 (上段)	深鉢	表土	口縁部片	④2.1	細砂粒	普通	明黄橙10YR7/6	
57	PL44 (上段)	深鉢	000-015G	口縁部片	④0.5	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/3	
58	PL44 (下段)	深鉢	005-015G	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
59	PL44 (下段)	深鉢	015-015G	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
60	PL44 (下段)	深鉢	005-020G	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/3	
61	PL44 (下段)	深鉢	005-015G	胴部片	④1.7	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/4	
62	PL44 (下段)	深鉢	000-015G	胴部片	④1.7	細砂粒	普通	灰黄橙10YR5/2	
63	PL44 (下段)	深鉢	005-015G	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	
64	PL44 (下段)	深鉢	1号溝	胴部片	④1.3	細砂粒	普通	浅黄橙10YR8/4	
65	PL44 (下段)	深鉢	000-010G	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	
66	PL44 (下段)	深鉢	12号ビツ	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	
67	PL44 (下段)	深鉢	005-025G	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/3	
68	PL44 (下段)	深鉢	035-965G	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	暗褐7.5YR3/3	
69	PL44 (下段)	深鉢	000-010G	胴部片	④0.6	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	
70	PL44 (下段)	深鉢	030-005G	胴部片	④0.6	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR5/3	
71	PL45 (上段)	深鉢	表土	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	橙7.5YR6/6	
72	PL45 (上段)	深鉢	1号溝	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/3	
73	PL45 (上段)	深鉢	表土	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/3	
74	PL45 (上段)	深鉢	020-020G	胴部片	④1.5	細砂粒	普通	灰白10YR8/2	3号堅穴状遺構-1と同一個体
75	PL45 (上段)	深鉢	015-015G	胴部片	④1.0	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR7/4	7号堅穴状遺構-26と同一個体
76	PL45 (上段)	深鉢	表土	胴部片	④0.7	細砂粒	普通	灰黄橙10YR5/2	
77	PL45 (上段)	深鉢	005-025G	胴部片	④1.1	細砂粒	普通	灰黄橙10YR6/2	
78	PL33	深鉢	035-965G	底部	②11.3④0.8	細砂粒	普通	黄橙10YR8/6	
79	PL33	深鉢	995-015G	底部	②9.1④1.0	細砂粒	普通	にぶい層7.5YR5/3	
80	PL45 (上段)	浅鉢	030-010G	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	橙7.5YR7/6	
81	PL45 (上段)	注口土器	015-015G	口縁部片	④0.9	細砂粒	普通	橙7.5YR7/6	
82	PL45 (上段)	注口土器	010-010G	胴部片	④0.9	細砂粒	普通	にぶい黄橙10YR6/4	
83	PL45 (上段)	土製円盤	050-015G		④1.3	細砂粒	普通	にぶい層7.5YR5/4	

遺構外出土土器計測表 (中近世)

※①②③④の数値はcm

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	①口径②底径 ③高さ④厚さ	胎土	焼成	色調	備考
101	PL45 (下段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.0	細砂粒	良好	にぶい黄橙10YR6/4	軟質陶器
102	PL45 (下段)	深鉢	表土	口縁部片	④1.0	細砂粒	良好	にぶい層7.5YR5/4	軟質陶器
103	PL45 (下段)	灯明皿	表土	底部片	④1.2	細砂粒	良好	灰黄橙10YR6/2	軟質陶器

遺物計測表

6号竪穴住居跡出土石器計測表 (縄文時代)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
14	P L 26	凹石	床直	1/2欠損	*14.60	16.70	10.10	3100.00	粗粒輝石安山岩	両面加工

7号竪穴住居跡出土石器計測表 (縄文時代)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
39	P L 26	打製石斧 短冊形	覆土中	刃部欠損	*5.80	4.10	1.10	28.40	黒色頁岩	
40	P L 26	磨石	覆土中	完形	9.70	7.70	4.20	494.00	粗粒輝石安山岩	両面加工

9号竪穴住居跡出土石器計測表 (縄文時代)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
16	P L 27	石鏃	床直	完形	2.60	1.70	0.50	1.06	チャート	

10号竪穴住居跡出土石器計測表 (縄文時代)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
44	P L 27	打製石斧 分刺形	覆土中	完形	8.80	5.40	1.40	66.96	黒色頁岩	
45	P L 27	打製石斧 短冊形	覆土中	基部欠損	*6.40	5.80	1.70	54.35	黒色頁岩	
46	P L 28	石皿 1b (使)	伊	一部欠損	*24.10	18.20	9.70	7400.00	粗粒輝石安山岩	
47	P L 27	磨石	伊	完形	11.30	9.70	5.00	797.00	粗粒輝石安山岩	

1号炉出土石器計測表 (縄文時代)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
4	P L 29	石皿 1b (使)	伊	完形	17.80	19.80	5.70	3530.00	粗粒輝石安山岩	

34号土坑出土石器計測表 (縄文時代)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
2	P L 30	凹石	覆土中	完形	10.60	6.90	4.20	441.00	粗粒輝石安山岩	両面加工

51号土坑出土石器計測表 (縄文時代)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
2	P L 30	打製石斧 短冊形	覆土中	刃部欠損	*9.10	4.10	1.60	69.71	黒色頁岩	

58号土坑出土石器計測表 (縄文時代)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
3	P L 30	石鏃	覆土中	一部欠損	*2.20	1.40	0.40	0.87	チャート	

61号土坑出土石器計測表 (縄文時代)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
1	P L 30	打製石斧 短冊形	覆土中	刃部欠損	*5.70	3.70	1.80	46.79	黒色安山岩	

1号炭窯出土土製品計測表 (中近世)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
1	P L 32	凹石 (中世)	覆土中	2/3欠損	*10.80	*17.40	—	1920.00	粗粒輝石安山岩	
2	P L 32	石臼 上臼	銅壁	3/4欠損	*24.30	*16.40	12.60	4810.00	粗粒輝石安山岩	

遺構外出土石器計測表 (縄文時代)

計測値欄の★は現状値

遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
84	P L 33	打製石斧 短冊形	17号土坑	刃部欠損	*5.00	2.70	1.00	14.91	黒色頁岩	
85	P L 33	打製石斧 分刺形	表土	基部欠損	*7.70	6.40	1.70	81.22	粗粒輝石安山岩	
86	P L 33	打製石斧 短冊形	表土	刃部欠損	*12.00	5.20	2.60	130.00	黒色頁岩	

第3章 検出された遺構と遺物

87	P L33	打製石斧 短冊形	表土	基部欠損	*8.10	4.80	1.90	76.47	ホルンフェルス	刃部やや幅広、鑿形に近い?
88	P L33	打製石斧 短冊形	030-005G	基部欠損	11.10	6.00	2.20	133.00	珪質頁岩	
89	P L33	打製石斧 短冊形	045-000G	刃部欠損	*7.30	4.20	1.90	74.34	黒色頁岩	
90	P L33	打製石斧 短冊形	030-005G	刃部欠損	*5.10	4.70	1.50	45.42	粗粒輝石安山岩	
91	P L33	磨製石斧	015-005G	刃部欠損	*9.20	4.70	2.90	221.00	珪質頁岩	
92	P L33	石鏃	1号溝	定形	1.50	1.10	0.20	0.25	黒曜石	
93	P L33	石鏃	1号溝	一部欠損	*1.50	1.50	0.30	0.43	チャート	
94	P L33	石鏃	1号溝	変形	3.30	2.30	0.50	2.61	黒色安山岩	
95	P L33	石鏃	00G-015G	一部欠損	*1.10	1.20	0.30	0.26	チャート	
96	P L33	石鏃	000-020G	一部欠損	*1.50	1.10	0.40	0.36	黒色頁岩	
97	P L33	石鏃	020-015G	変形	2.00	1.50	0.50	0.92	チャート	
98	P L33	磨石	010-020G	一部欠損	*7.70	6.00	3.70	306.00	粗粒輝石安山岩	両面使用痕、端部に敲打痕
99	P L33	磨石	1号溝	定形	8.15	7.32	5.85	496.00	粗粒輝石安山岩	
100	P L33	凹石	1号溝	変形	9.60	7.60	4.70	400.00	粗粒輝石安山岩	両面加工

1号溝出土銭貨計測表 (中近世)

計測値の★は現状値

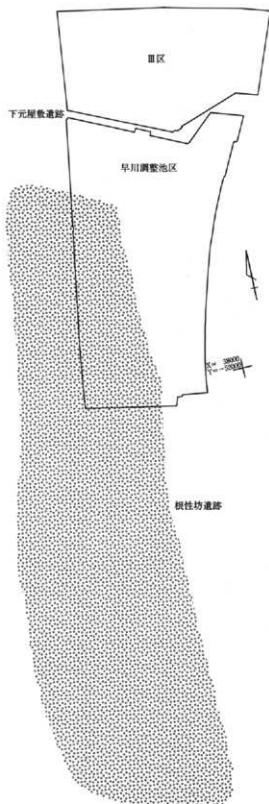
遺物番号	写真図版	器種	出土位置	残存状態	計測値 (cm・g)		備考
					直径	重量	
1	P L32	銅銭 景徳元寶	覆土中	定形	2.40	2.89	銅銭か
2	P L32	銅銭 景徳元寶	覆土中	定形	2.40	3.08	銅銭か
3	P L32	銅銭 景徳元寶	覆土中	定形	2.40	1.81	銅銭か
4	P L32	銅銭 開元通寶	覆土中	定形	2.30	2.49	銅銭か
5	P L32	銅銭 紹聖元寶	覆土中	定形	2.35	1.45	銅銭か
6	P L32	銅銭 紹聖元寶	覆土中	定形	2.38	2.28	銅銭か
7	P L32	銅銭 元豊通寶	覆土中	定形	2.30	1.61	銅銭か
8	P L32	銅銭 元豊通寶	覆土中	定形	2.38	2.79	銅銭か
9	P L32	銅銭 咸平元寶	覆土中	定形	2.14	2.63	銅銭か
10	P L32	銅銭 政和通寶	覆土中	定形	2.28	2.93	銅銭か
11	P L32	銅銭 祥符通寶	覆土中	定形	2.24	2.25	銅銭か
12	P L32	銅銭	覆土中	定形	2.23	2.24	銅銭か 表面・□□□寶 (3文字判読不能)
13	P L32	銅銭	覆土中	定形	2.32	3.08	銅銭か 表面・□□□寶 表面・□ (4文字判読不能)
14	P L32	銅銭 瑞平元寶	覆土中	定形	2.30	1.66	銅銭か
15	P L32	銅銭 嘉寧元寶	覆土中	定形	2.39	2.17	銅銭か
16	P L32	銅銭 政和通寶	覆土中	定形	2.43	2.06	銅銭か

第4章 まとめ

下元屋敷遺跡早川調整池区は、伊勢崎市田部井町(旧佐波郡東村田部井)に所在、大間々扇状地Ⅰ面(桐原面)、早川右岸台地上に位置する。本調査区の範囲は南北約80m東西約40m、西半部は後世の削平が著しく、東半部は早川により浸食された斜面である。調査区の北側は下元屋敷遺跡Ⅲ区(北関東自動車道調査区)に接し、南側は周知の遺跡である根性坊遺跡に一部重複し接する。また、早川対岸には下田遺跡が存在する。本調査区において検出確認した遺構・遺物は、縄文時代中期後半～後期前半と中近世に大別される。以下、時代ごとに詳述する。

第1節 縄文時代

下元屋敷遺跡早川調整池区における縄文時代の遺構は、中期後半～後期前半の竪穴住居跡11軒をはじめ、同時期の竪穴状遺構3基、土坑51基、ピット51基が確認された(第2表参照)。これらの遺構は、調査区の南半部に集中しており、北半部は徐々に希薄となる。この分布傾向は、本調査区の南北に隣接する遺跡の遺構密度に対応する。南側に隣接し一部重複する根性坊遺跡と北側に隣接する下元屋敷遺跡Ⅲ区(北関東自動車道調査区)とは、ともに本調査区とはほぼ同時期の集落遺跡である。本調査区南半部と根性坊遺跡、本調査区北半部とⅢ区は同程度の遺構密度である。すなわち、根性坊遺跡から下元屋敷遺跡へ、南から北へと向かうほどに遺構密度は希薄になる。このことから推察すると、下元屋敷遺跡と根性坊遺跡における中期後半～後期前半の集落は本来一体をなすものであると考えられる。次に、本調査区における当該期の遺構分布傾向について細かく観察すると、時期ごとに若干の分布傾向が見られる。中期後半の竪穴住居跡3軒が調査区東半部の斜面先端から中央部にかけて、後期後半の竪穴住居跡5軒と竪穴状遺構3基は東半部斜面に存在する。しかし、竪穴住居跡3軒、土坑30基、ピット48基は中期後半～後期前半と詳細な時期が不明なこともあり、本調査区のみでは時期ごとの分布傾向を読み取るこ



第88図 下元屋敷遺跡と根性坊遺跡の位置関係

第2表 縄文時代遺構一覧

	竪穴住居跡		竪穴状遺構		炉		土坑		ピット		時期別 合計
	番号	軒	番号	基	番号	基	番号	基	番号	基	
加曾利E2					1号	1	70号	1			2
加曾利E3以前							72, 73, 74号	3	70号	1	4
加曾利E3							6, 26, 52, 68号	4			4
加曾利E3末-E4初	9号	1									1
加曾利E4							16号	1			1
加曾利E後半	1, 11号	2					34, 44, 56, 57, 58号	5			7
中期後半計	3		0		1		14		1		19
中期後半～後期前半計	3		0		0		30			48	81
称名寺1			3号	1							1
称名寺2							25号	1			1
堀之内1	7, 10号	2	1号	1			27, 30, 38, 47, 71, 75号	6			9
堀之内	6号	1									1
後期前半	2, 3号	2	2号	1	2号	1			16, 17号	2	6
後期前半計	5		3		1		7		2		18
縄文時代合計	11		3		2		51		51		118

は困難とせざるを得ない。しかし、隣接するⅢ区と根性坊遺跡を考慮に入れると、時期的傾向は明らかとなる。Ⅲ区は中期後半が多く、根性坊遺跡は後期前半が多い傾向にあり、集落の変遷は下元屋敷遺跡から根性坊遺跡へと南下している様子がうかがえる。前述の遺構密度の問題とあわせて考えると、下元屋敷遺跡と根性坊遺跡における中期後半～後期前半のこの集落は継続的に推移する一体のものとして捉えられ、徐々に南下しつつ領域を拡大したと推察される。

遺構の残存状態は、調査区西部では削平が顕著であり、東半部では早川に侵食された斜面であり土壌流出や崩落が著しいため、ともに良好であるとは言い難い。竪穴住居跡を例にとると、11軒中6軒は床面まで削平がおよび平面形状は不明であり、柱穴（ピット）配置等からおおよその形状をうかがえるにとどまる。残る5軒のうち、1軒は床面1/5程度の残存状態、1軒は床面1/3程度を残し早川旧河道に削られており、床面を削られずに残すのは3軒のみである。そのためか遺物量は少なく、床面直上もしくは炉・埋壺等出土の遺物が目立つ。

遺構の状態を反映して、遺物量も土器・石器ともこの時期の集落遺跡としては少ない。土器は加曾利E式、称名寺式、堀之内式が中心であるが、著しく磨滅した破片および小破片が全出土量の約7～8割を占める。各型式ごとに見ると、1号炉・70号土坑から加曾利E2式、52号土坑から加曾利E3式、9号竪穴住居跡から加曾利E3式および加曾利E4式、3号竪穴状遺構から称名寺1式、25号土坑から称名寺2式、10号竪穴住居跡・30号土坑から堀之内1式の良好な資料が少数ながら出土している。特に9号竪穴住居跡においては、加曾利E3式（9号竪穴住居跡-1）が埋壺、口縁部文様帯の名残のある加曾利E4式土器（9号竪穴住居跡-3）が炉から出土しており、口縁部文様帯の消失という加曾利E3式から加曾利E4式への移行段階を示している。石器は、打製石斧12点、石鏃8点、磨石4点、石皿2点、凹石3点、磨製石斧1点の合計31点が出土している。打製石斧の出土数が他の石器に比べ多めである。また、1号炉の部材に完形の石皿が利用されている（1号炉-4）が、他の円礫等と同等に扱われており、特別な意味をもつものではないと考えられる。石材に目を向けると、打製石斧は黒色頁岩が約60%、石鏃はチャートが約63%、石皿・磨石・凹石は粗粒輝石安山岩のみであり、各器種ごとに石材の選択性が見られる。とくに石皿類においては、出土量の少ないこともあろうが、粗粒輝石安山岩以外の石材は皆無とその選択性は明確である。これは、東毛地域における石皿石材の約97%を安山岩系が占める傾向と合致する。

本調査区をふくむ縄文時代の下元屋敷遺跡は、遺構・遺物の残存状態は良好とはいえないが、隣接する根性坊遺跡と一体をなす中期後半～後期前半の集落遺跡である可能性が高い。ここで、周辺地域の縄文時代遺跡について見ると、前期以前の遺跡立地は大間々扇状地Ⅰ面（桐原面）に限定されるが、中期にはその他の立地にも拡散し遺跡数も増加、大集落が形成されるようになる。後期には遺跡数が減少し、それらも堀之内式までには終結し、以後古墳時代になるまで遺跡の形成されない状況が続く。すなわち、周辺地域において中後期は集落の拡散・大規模化から減少、消滅に至る過程を示している。下元屋敷遺跡は大間々扇状地Ⅰ面（桐原面）の遺跡であるが、まさにこの時期、中期後半～後期前半の加曾利E2式～堀之内1式を中心とする遺跡であり、この過程を示す遺跡の一つと位置づけられよう。

第2節 中近世

下元屋敷遺跡早川調整池区における中近世の遺構は、溝1条（中世末～近世初頭）、炭窯1基（近世末）、土坑17基（中世末～近世初頭）、ピット14基（中世末～近世初頭）が確認された（第3表参照）。1号溝は調査区を東西に横断する幅約1～2m、深さ約0.8～1.4mの大形の溝であり、中近世の遺構は土坑3基を除いた全てがこの溝の北東側から検出された。本調査区北側に隣接する本道跡Ⅲ区（北関東自動車道調査区）からも中近世の遺構は検出されており、これらもあわせ、溝により中近世の遺構が区画されていることが推察される。土坑は1.2～2.0m×0.8～1.0mの隅丸長方形土坑および不整形土坑の2つに大別される。そのうち、隅丸長方形土坑は1号溝南側の1基および北側の1基を除いた5基全てが、1号溝走行方向に対し長軸方向がほぼ直交することが確認された。これもまた溝区画を意識したものと考えられる。

遺構の残存状態は縄文時代と同様、良好であるとはいえない。また、遺構内出土遺物の大半は縄文時代の土器・石器・鏝等であり、遺構に伴うものは1号溝出土の銅銭および内耳銅片のみときわめて少ない。

以上のことから、中世末～近世初頭の下元屋敷遺跡は、その境界を溝によって区画された何らかの領域であったと考えられる。1号溝出土の銅銭および内耳銅片から、住空間の領域であった可能性が考えられるが、根拠としては弱く、当該期の遺跡の性格を明らかにすることは困難であるとせざるをえない。

第3表 中近世遺構一覧

	溝	炭窯	土坑	ピット	時期別合計
中世末～近世初頭	1		17	14	32
近世末		1			1
中近世合計	1	1	17	14	33

参考文献

- 群馬県埋蔵文化財調査事業団2001～05『年報』20～24、同2002『平成13年度北関東自動車道調査実績報告書』、同2002『平成14年度出土文化財巡回展示会図録 水のめぐみ～大間々扇状地周辺の歴史～』、佐放郡家村教育委員会1977『東村誌』、同1987『佐波郡東村の遺跡』、同1982『根性坊・上中西遺跡』、小林達彦編1988・89『縄文土器大観』2・4、田村博2002『縄文時代における石皿の利用と廃棄について～群馬県東部地域における石皿のあり方～』『中央史学』25

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	しもとやしきいせき
書名	下元屋敷遺跡
副書名	(一)境大岡々線地方特定道路整備事業(早川調整池)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第362集
編著者名	田村 博
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2005.11.30
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	しもとやしきいせき
遺跡名	下元屋敷遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんいせきしたべいちょう
遺跡所在地	群馬県伊勢崎市田部井町
市町村コード	10204
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	36°20'24"
東経(日本測地系)	139°15'12"
北緯(世界測地系)	36°20'35"
東経(世界測地系)	139°15'00"
調査期間	2004.04.01-2004.07.31
調査面積	3312m ²
調査原因	道路(調整池)建設
種別	集落
主な時代	縄文、中近世
遺跡概要	集落-縄文時代-竪穴住居跡11+竪穴状遺構3+炉2+土坑51+ピット51- 縄文土器+縄文石器/中近世-溝1+炭竈1+土坑17+ピット14-軟質陶器 +銅銭+石製品
特記事項	縄文時代中期後半-後期前半の集落は、隣接する根性坊遺跡と一体をなす。



下元屋敷遺跡（早川調整池区）全景（上空より）



1号壑穴住居跡全景 (東より)



2・3号壑穴住居跡全景 (東より)



1号壑穴住居跡炉全景 (東より)



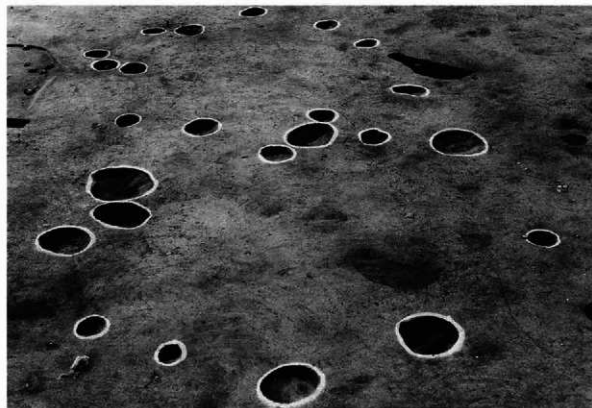
2号壑穴住居跡炉全景 (東より)



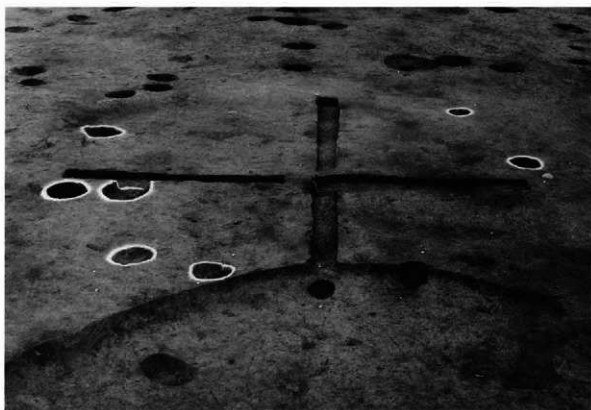
3号壑穴住居跡1号炉全景 (東より)



3号壑穴住居跡2号炉全景 (東より)



4・5号壑穴住居跡全景 (東より)



6号竪穴住居跡全景（南より）



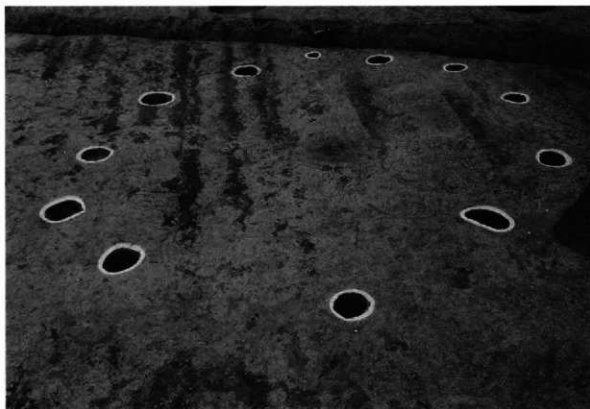
7号竪穴住居跡全景（南より）



7号竖穴住居跡遺物出土状態 (1) (南より)



7号竖穴住居跡遺物出土状態 (2) (南より)



8号竖穴住居跡全景 (南より)



作業風景 (1)



作業風景 (2)



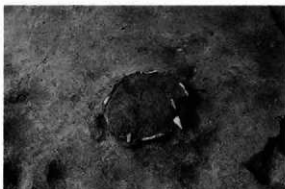
9号堅穴住居跡全景（東より）



9号堅穴住居跡炉全景（南より）



9号堅穴住居跡炉掘方全景（南より）



9号堅穴住居跡埋裏全景（南より）



9号堅穴住居跡埋裏断面（南より）



10号竖穴住居跡全景（東より）



10号竖穴住居跡炉全景（南より）



10号竖穴住居跡炉断面（南より）



10号竖穴住居跡炉掘方全景（東より）



10号竖穴住居跡内配石遺構全景（南より）



11号竪穴住居跡全景（南より）



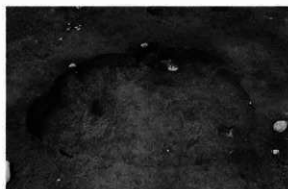
11号竪穴住居跡埋差全景（南より）



1号竪穴状遺構全景（南より）



2号竪穴状遺構全景（東より）



3号竪穴状遺構全景（東より）



3号堅穴状遺構遺物出土状態（東より）



1号炉全景（南より）



1号炉断面（南より）



2号炉全景（南より）



3号土坑全景（南より）



3号土坑遺物出土状態（南より）



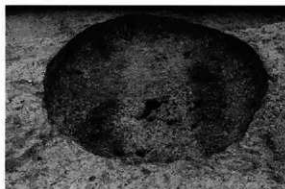
4号土坑全景（南より）



5号土坑全景（南より）



6号土坑全景 (南より)



7号土坑全景 (南より)



13号土坑全景 (東より)



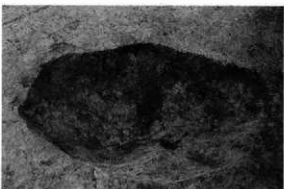
15号土坑全景 (南より)



16号土坑および14・15号ピット全景 (南より)



24号土坑全景 (東より)



25号土坑全景 (南より)



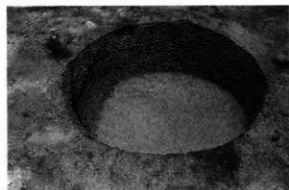
25号土坑遺物出土状態 (南より)



26号土坑全景 (南より)



26号土坑遺物出土状態 (東より)



27号土坑全景 (南より)



29号土坑全景 (南より)



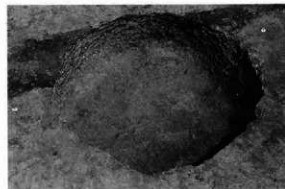
30号土坑全景 (南東より)



30号土坑遺物出土状態 (南東より)



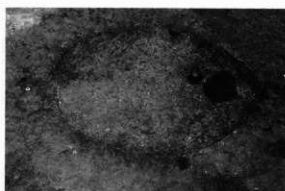
31号土坑全景 (南より)



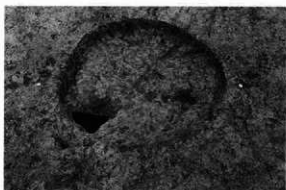
32号土坑全景 (東より)



33号土坑全景 (南より)



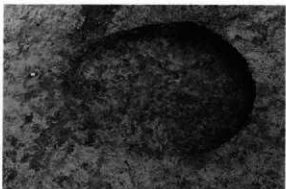
34号土坑全景 (東より)



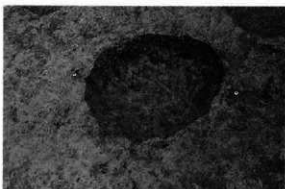
36号土坑全景 (南より)



38号土坑全景 (南より)



39号土坑全景 (南より)



40号土坑全景 (南より)



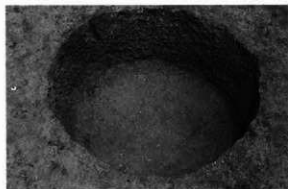
41号土坑全景 (南より)



42号土坑全景 (南より)



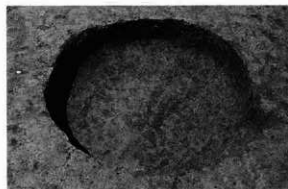
43号土坑全景 (南より)



44号土坑全景 (南より)



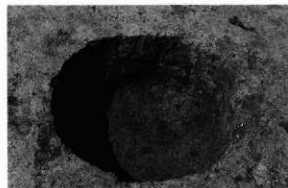
45号土坑全景 (南より)



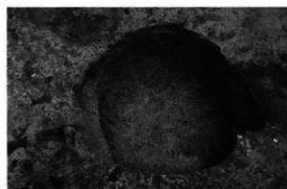
46号土坑全景 (南より)



47・48号土坑全景 (南より)



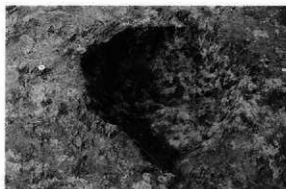
49号土坑全景 (南より)



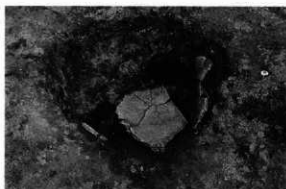
50号土坑全景 (南より)



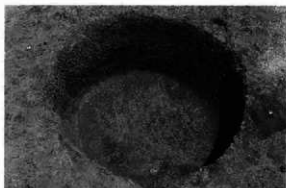
51号土坑全景 (南より)



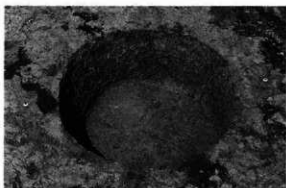
52号土坑全景 (南より)



52号土坑遺物出土状態 (南より)



53号土坑全景 (南より)



54号土坑全景 (南より)



55号土坑全景 (南より)



56号土坑全景 (南より)



57号土坑全景 (南より)



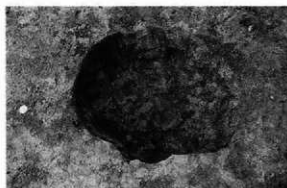
58号土坑全景 (南より)



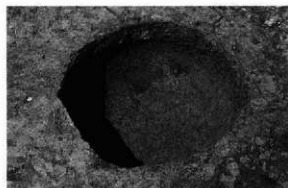
58号土坑遺物出土状態 (南より)



59号土坑全景 (南より)



60号土坑全景 (南より)



61号土坑全景 (南より)



62号土坑全景 (南より)



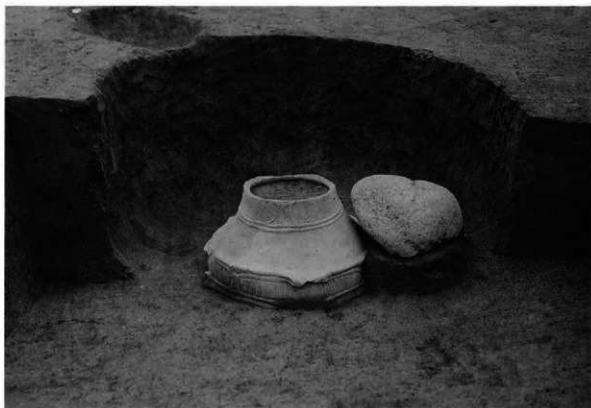
68号土坑全景 (南より)



70号土坑遺物出土状態 (1) (南より)



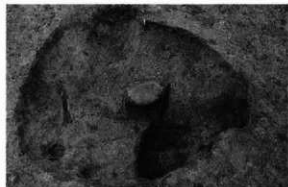
70号土坑遺物出土状態 (2) (南より)



70号土坑遺物出土状態 (3) (南より)



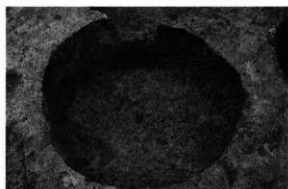
71号土坑全景 (南より)



72号土坑全景 (南より)



73号土坑全景 (南より)



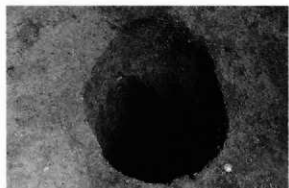
74号土坑全景 (南より)



75号土坑全景 (南より)



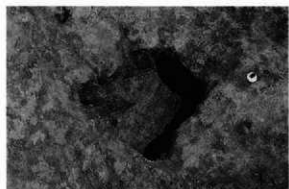
16号ピット全景 (南より)



17号ピット全景 (南より)



18~21号ピット全景 (東より)



22号ピット全景 (南より)



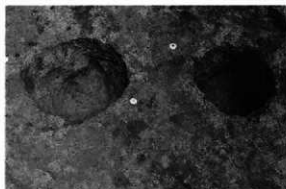
23号ピット全景 (南より)



24号ピット全景 (北より)



25号ピット全景 (北より)



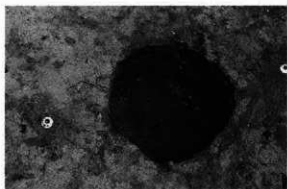
27・26号ピット全景 (南より)



29号ピット全景 (南より)



30号ピット全景 (南より)



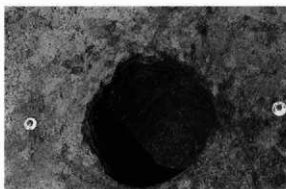
31号ピット全景 (南より)



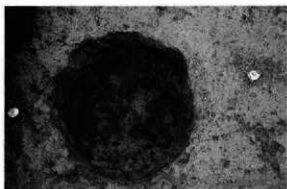
32号ピット全景 (南より)



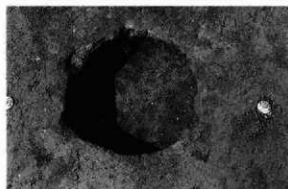
33号ピット全景 (南より)



34号ピット全景 (南より)



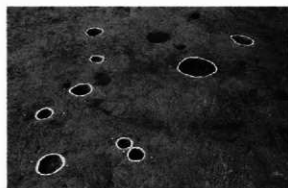
35号ピット全景 (南より)



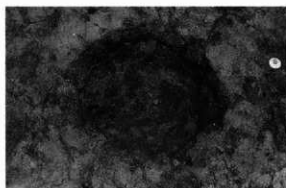
36号ピット全景 (南より)



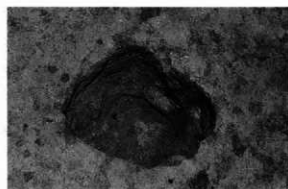
37号ピット全景 (南より)



38~45号ピット全景 (南より)



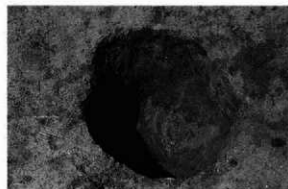
46号ピット全景 (南より)



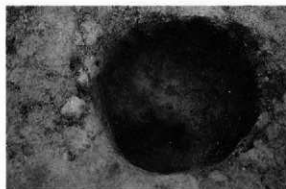
47号ピット全景 (南より)



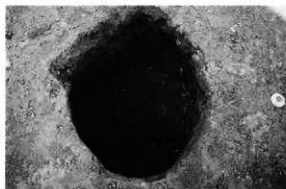
48号ピット全景 (南より)



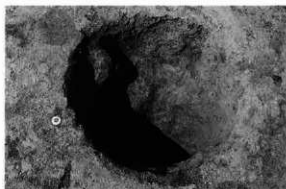
49号ピット全景 (南より)



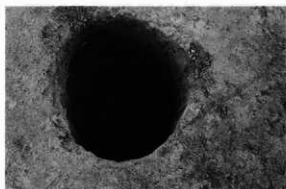
51号ピット全景 (南より)



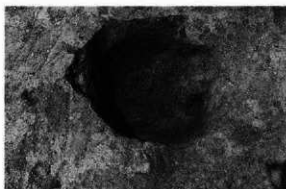
52号ピット全景 (南より)



53号ピット全景 (南より)



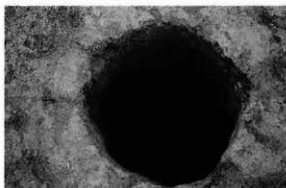
54号ピット全景 (南より)



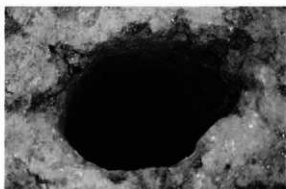
57号ピット全景 (南より)



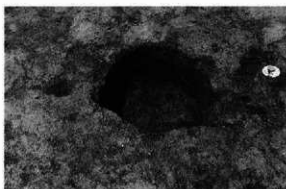
58号ピット全景 (南より)



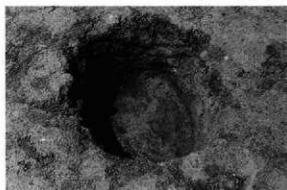
59号ピット全景 (南より)



60号ピット全景 (南より)



61号ピット全景 (南より)



62号ピット全景 (南より)



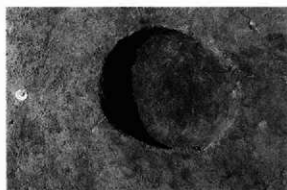
63号ピット全景 (南より)



64号ピット全景 (南より)



65号ピット全景 (北より)



69号ピット全景 (南より)



70号ピット全景 (南より)



1号溝全景 (東より)



1号炭窯全景（西より）



1号炭窯側面（煙道入口、東より）



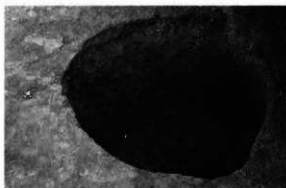
1号炭窯断面（南より）



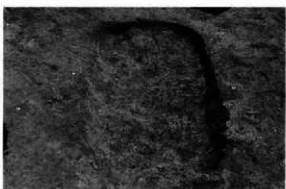
1号土坑全景（南西より）



2号土坑全景（南東より）



8号土坑全景（南より）



9号土坑全景（西より）



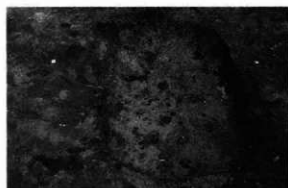
10号土坑全景（南西より）



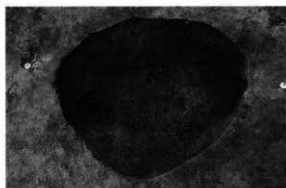
11号土坑全景 (南西より)



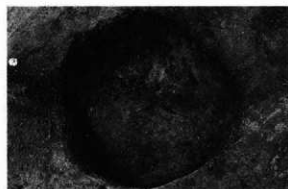
12号土坑全景 (南西より)



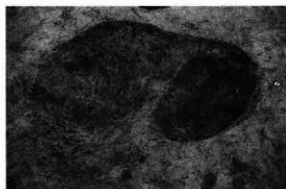
14号土坑全景 (南西より)



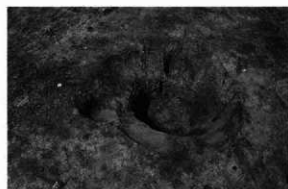
17号土坑全景 (南より)



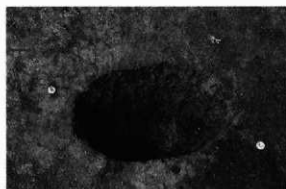
19号土坑全景 (南より)



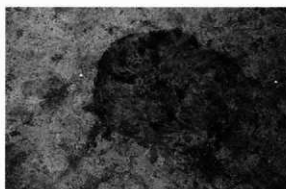
20・21号土坑全景 (南より)



22号土坑全景 (南より)



23号土坑全景 (南より)



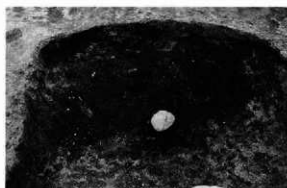
28号土坑全景 (南より)



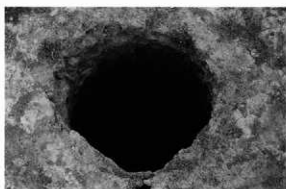
35号土坑全景 (南より)



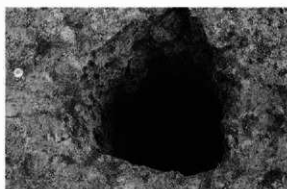
37号土坑全景 (南西より)



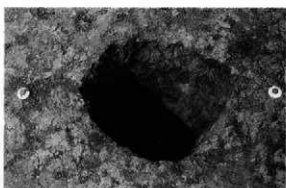
37号土坑炭化物出土状態 (南西より)



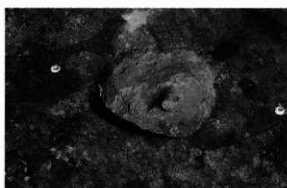
1号ピット全景 (南より)



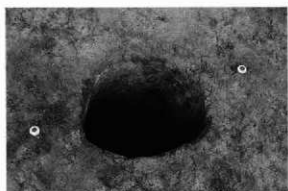
2号ピット全景 (南より)



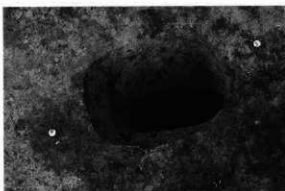
3号ピット全景 (南より)



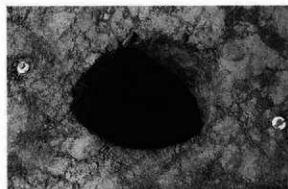
5号ピット全景 (南より)



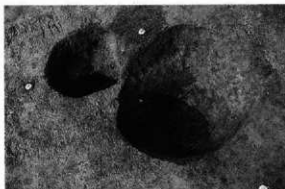
6号ピット全景 (南より)



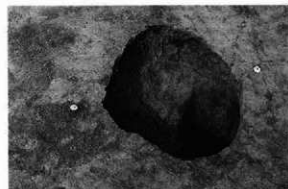
7号ピット全景 (南より)



8号ピット全景 (南より)



10・9号ピット全景 (南より)



11号ピット全景 (南より)



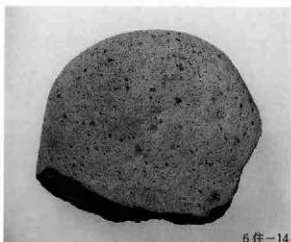
12号ピット全景 (南より)



13号ピット全景 (南より)



作業風景 (3)





9住-3



9住-12



10住-17



9住-16



10住-44



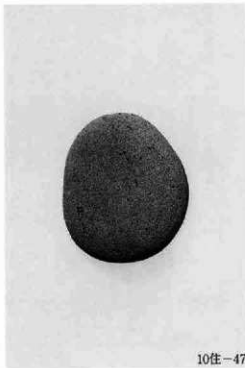
10住-42



10住-45



10住-31



10住-47



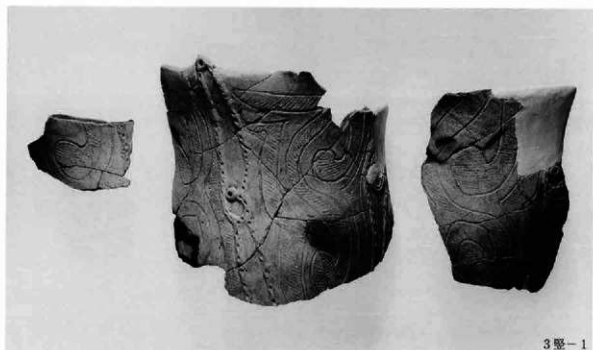
10住-46



2 鑿-3



11住-3



3 鑿-1









1 溝-1



1 溝-2



1 溝-3



1 溝-4



1 溝-5



1 溝-6



1 溝-7



1 溝-8



1 溝-9



1 溝-10



1 溝-11



1 溝-12



1 溝-13



1 溝-14



1 溝-15



1 溝-16



1 窟-1



1 窟-2



遺構外-78



遺構外-79



遺構外-86



遺構外-5



遺構外-84



遺構外-90



遺構外-85



遺構外-87



遺構外-89



遺構外-88



遺構外-92



遺構外-93



遺構外-94



遺構外-91



遺構外-100



遺構外-95



遺構外-96



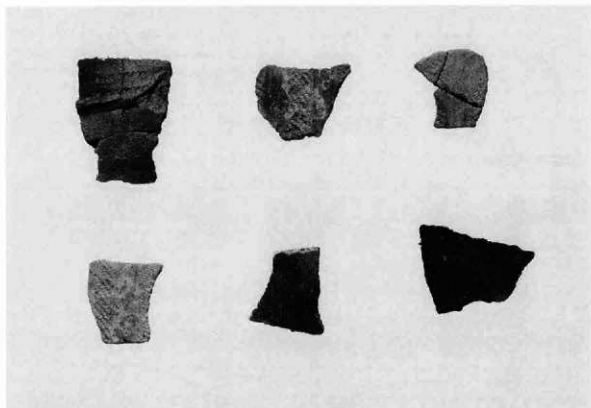
遺構外-97



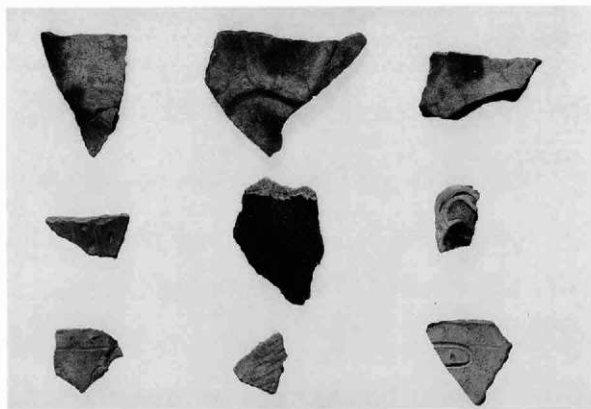
遺構外-98



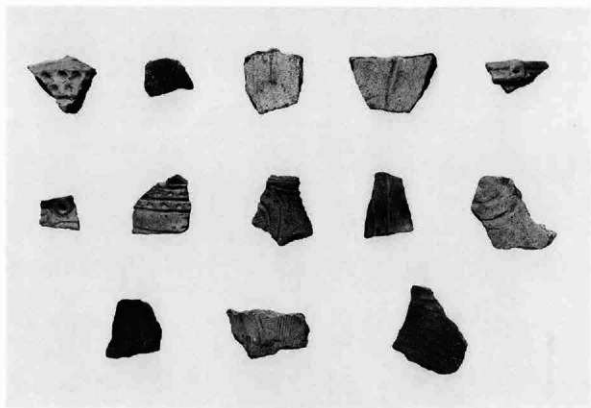
遺構外-99



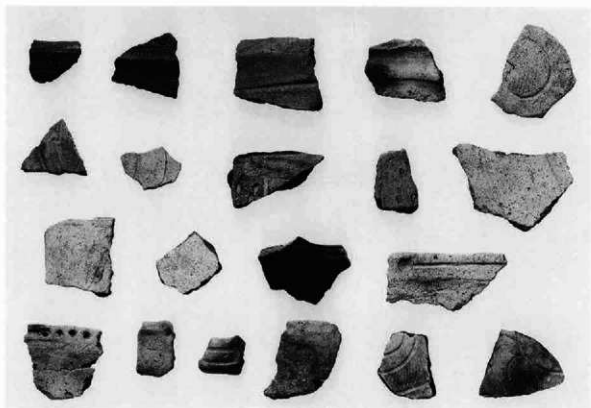
1号竖穴住居跡出土遺物



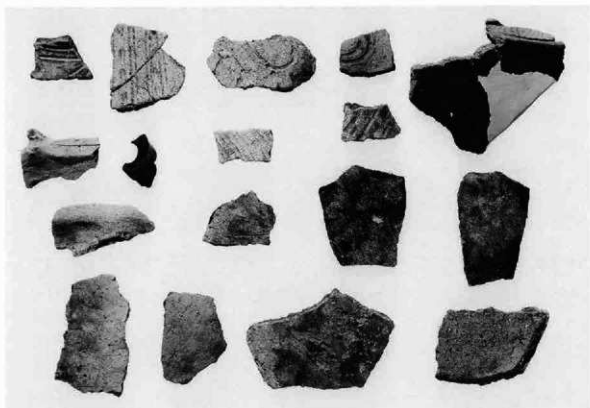
2・3・5号竖穴住居跡出土遺物



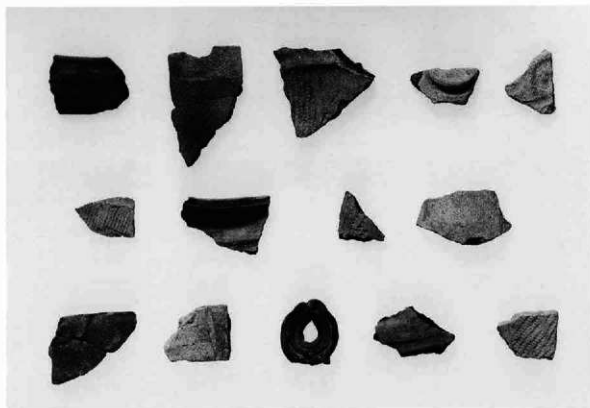
6号壑穴住居跡出土遺物



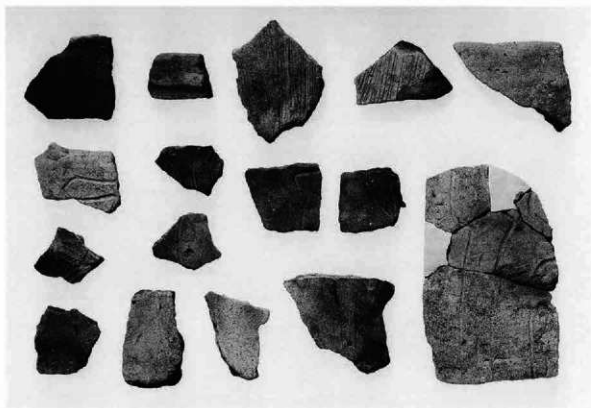
7号壑穴住居跡出土遺物 (1)



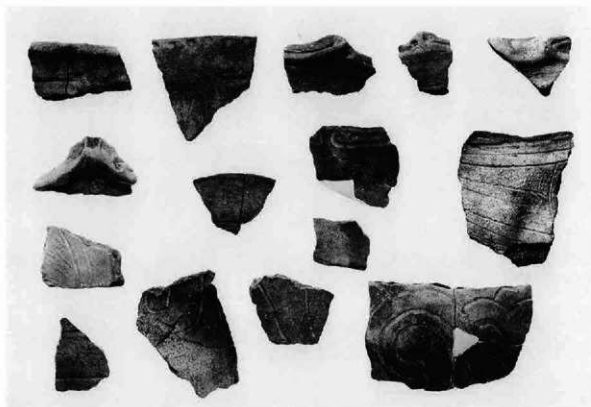
7号竖穴住居跡出土遺物 (2)



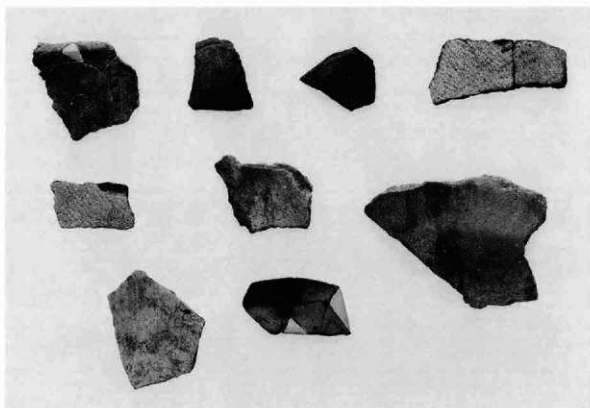
9・11号竖穴住居跡出土遺物



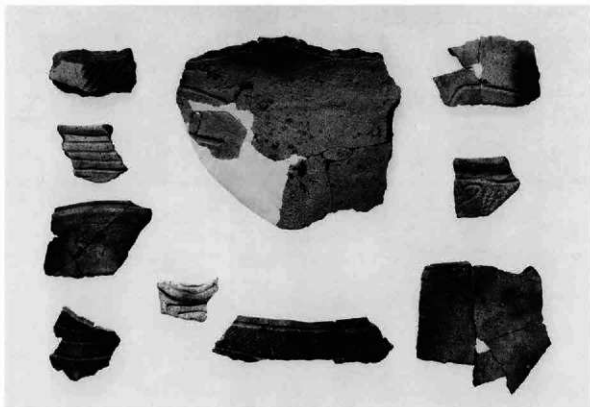
10号竖穴住居跡出土遺物 (1)



10号竖穴住居跡出土遺物 (2)



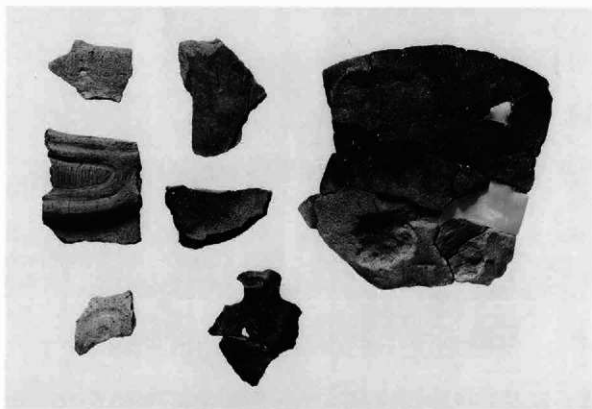
10号壑穴住居跡出土遺物 (3)



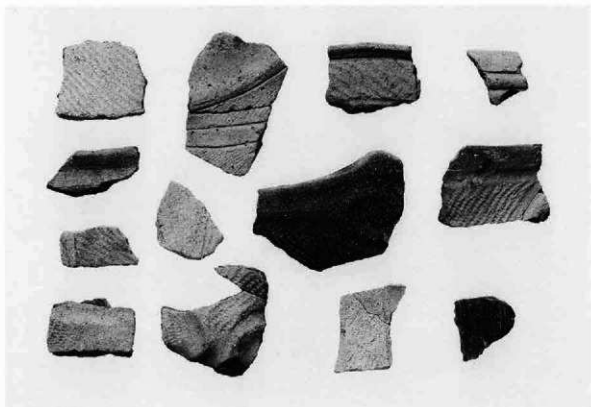
1号壑穴状遺構出土遺物 (1)



1号壑穴状遺構 (2) および2号壑穴状遺構出土遺物



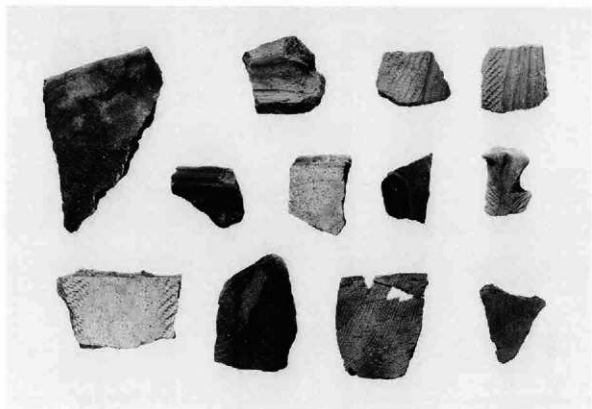
3号壑穴状遺構および1・2号坑出土遺物



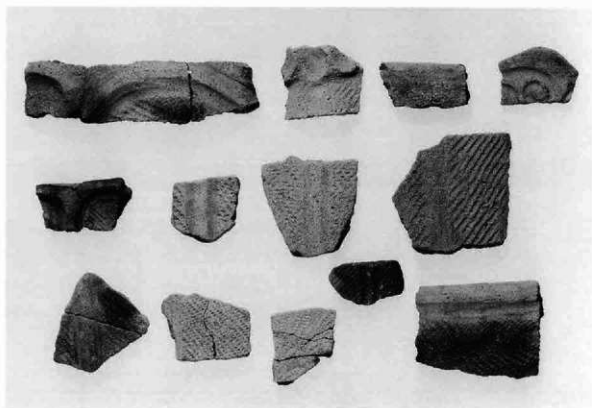
6・16・26号土坑出土遺物



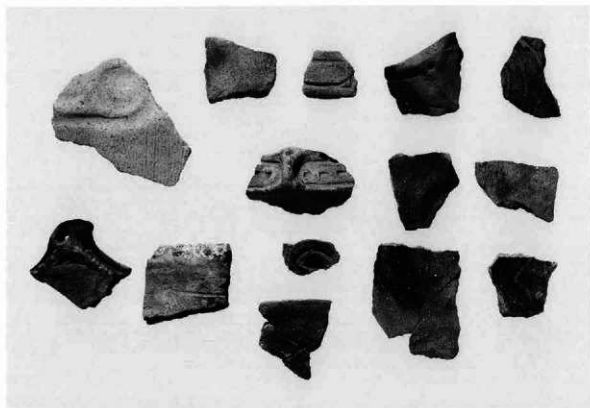
27・29・30号土坑出土遺物



36·38·44·47·51·52·53号土坑出土遺物



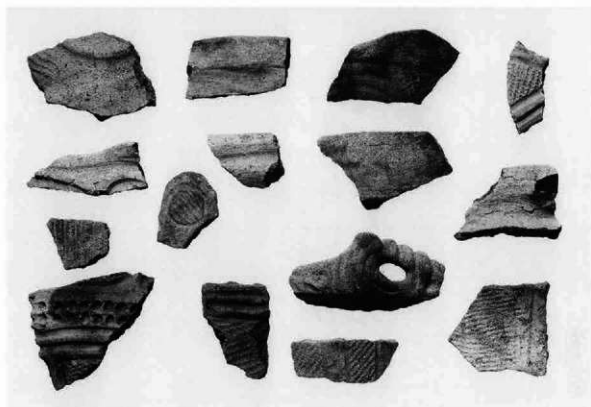
56-58号土坑出土遺物



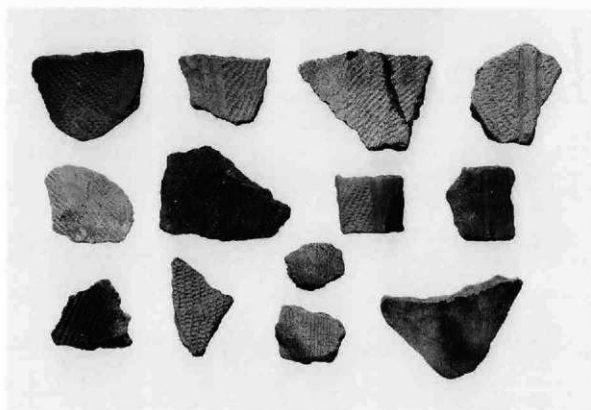
68・71・75号土坑、16・51号ピット出土遺物



遺構外出土遺物 (1)



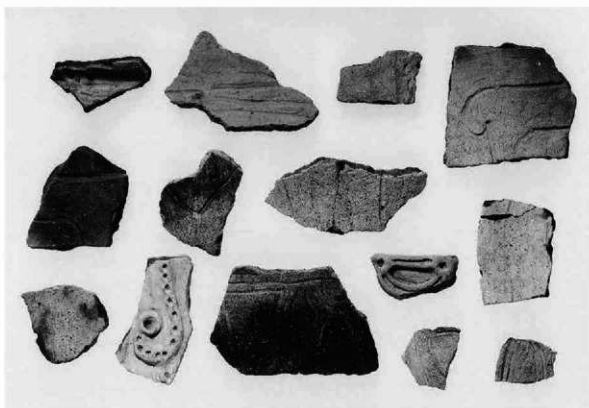
遺構外出土遺物 (2)



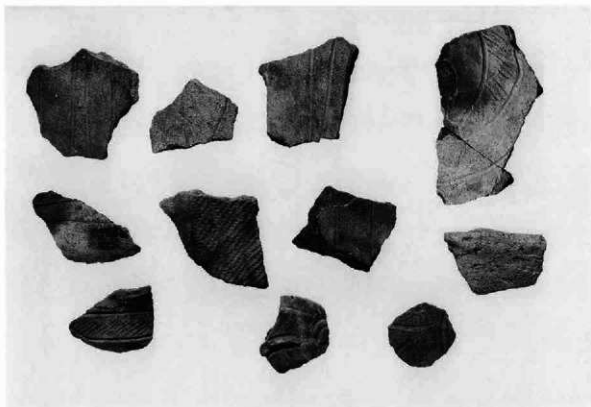
遺構外出土遺物 (3)



道構外出土遺物 (4)



道構外出土遺物 (5)



遺構外出土遺物 (6)



1号溝出土遺物・遺構外出土遺物 (7)

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第362集

〔一〕境大岡・蔵地方特定道路整備事業(早川調査区)
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

下元屋敷遺跡

平成17年(2005年)11月25日 印刷

平成17年(2005年)11月30日 発行

編集/発行 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

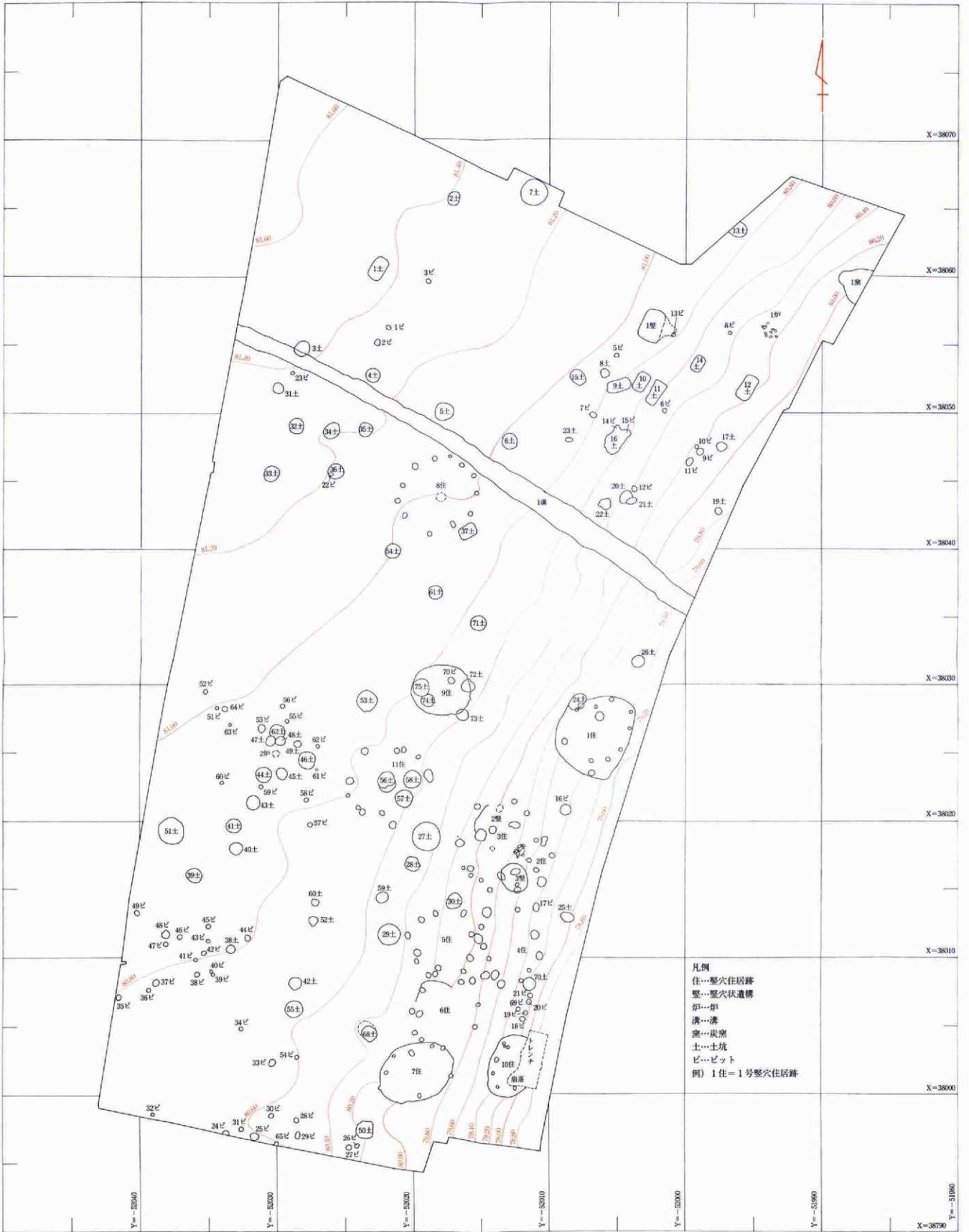
〒377-8555 群馬県勢多郡北碓村大字下箱田748番地の2

電話 0279 (52) 2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷 上武印刷株式会社





下元屋敷遺跡(早川調整池区)全体図 (1/200)